自己点検・評価報告書

－平成 28 年度－

文　化　学　園　大　学

文化学園大学短期大学部

『平成 28 年度自己点検・評価報告書』　作成にあたって

本学では、自律的かつ全学的な自己点検・評価活動の一つとして、平成 18 年度より本学独自の自己点検・評価検討機関を設置し、各検討機関において「本年度の課題」「取組の結果と点検・評価」「次年度への課題」を年次報告書としてとりまとめてきました。この間、高等教育の政策ならびに認証評価機関による教育の内部質保証の観点も漸次変化してきました。全学自己点検･評価委員会では、こうした動向もふまえて、毎年、学内の自己点検・評価体制の見直しをしています。その結果、平成 28 年度は 46 の検討機関による自己点検・評価結果をとりまとめさせていただきました。

平成 29 年度は、文化学園大学と文化学園大学短期大学部が日本高等教育評価機構による認証評価を同時受審する年です。本報告書は、その際のエビデンスとしても重要な資料となります。また、大学の自己点検・評価活動は、点検・評価の結果に基づいて自律的な改善がなされることに目的があります。こうした PDCA サイクルが有効に機能することによって、はじめて大学の教育の内部質保障が継続的に可能になると考えております。つきましては、本報告書を学内の各組織における改善の指針として、有効に活用していただけましたら幸いです。

全学自己点検・評価委員会では、本学の教育の内部質保障を推進するために、今後とも全学的に継続して自己点検・評価活動に取り組んでまいりたいと考えております。つきましては、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

本報告書の作成にあたり、ご尽力いただきました関係各位に深謝申し上げます。

平成 29 年 6 月 1 日
全学自己点検・評価委員会

本学の自己点検・評価報告書　一覧

１.『文化女子大学の現状と課題　自己点検・評価報告書　平成 13 年度（2001)』
２.『文化女子大学自己評価報告書　平成 17 年度』
３.『文化女子大学　文化女子大学短期大学部　自己点検・評価報告書－平成 18 年度－』
４.『文化女子大学　文化女子大学短期大学部　自己点検・評価報告書－平成 19 年度－』
５.『文化女子大学　文化女子大学短期大学部　自己点検・評価報告書－平成 20 年度－』
６.『文化女子大学　文化女子大学短期大学部　自己点検・評価報告書－平成 21 年度－』
７.『文化女子大学短期大学部自己評価報告書　平成 22 年度』
８.『文化学園大学　文化学園大学短期大学部　自己点検・評価報告書－平成 22 年度－』
９.『文化学園大学　文化学園大学短期大学部　自己点検・評価報告書－平成 23 年度－』
10.『文化学園大学自己点検評価書　平成 24 年度』
11.『文化学園大学　文化学園大学短期大学部　自己点検・評価報告書－平成 24 年度－』
12.『文化学園大学　文化学園大学短期大学部　自己点検・評価報告書－平成 25 年度－』
13.『文化学園大学　文化学園大学短期大学部　自己点検・評価報告書－平成 26 年度－』
14.『文化学園大学　文化学園大学短期大学部　自己点検・評価報告書－平成 27 年度－』

目　次

『平成 28 年度自己点検・評価報告書』作成にあたって

協議・審議機関

文化学園大学 文化学園大学短期大学部大学運営会議・将来構想委員会 ･････ 6
全学自己点検・評価委員会 ･････ 8
全学 FD 委員会 ･････ 10

協議機関

服装学部協議会 ･････ 14
造形学部協議会 ･････ 16
学部共通科目協議会 ･････ 18
現代文化学部協議会 ･････ 20
短期大学部協議会 ･････ 22

審議機関

大学院研究科委員会
　生活環境学研究科委員会 ･････ 26
　国際文化研究科委員会 ･････ 28
教授会
　文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会開催記録 ･････ 30
　文化学園大学短期大学部教授会開催記録 ･････ 31
常置委員会
　教務委員会 ･････ 32
　学生支援委員会 ･････ 34
　研究委員会 ･････ 36
　入試対策委員会 ･････ 38
　就職委員会 ･････ 40
特別委員会
　研究倫理委員会 ･････ 42
　研究活動不正防止委員会 ･････ 43
　ハラスメント防止委員会 ･････ 44
学部専門委員会
　建築・インテリア系資格専門委員会 ･････ 45
　文化・語学研修専門委員会 ･････ 46
　日本語教員養成課程専門委員会 ･････ 47
　衣料管理士課程専門委員会 ･････ 48
　紀要編集専門委員会 ･････ 50
課程専門委員会
　教職課程専門委員会 ･････ 52
　学芸員課程専門委員会 ･････ 54
　司書課程専門委員会 ･････ 55
国際交流委員会 ･････ 56

附属機関等

文化学園大学図書館 ･････ 58
文化学園服飾博物館 ･････ 60
文化学園国際交流センター ･････ 62
文化学園知財センター ･････ 64
服装学部・現代文化学部 USR 推進室 ･････ 66
文化学園ファッションリソースセンター ･････ 68

共同研究拠点
文化ファッション研究機構 ･･･ 70

附属研究所
文化・衣環境学研究所･･･ 72
文化・住環境学研究所･･･ 74
文化・ファッションテキスタイル研究所･････････････････････････････････ 76
和装文化研究所･･･ 78

事務局
研究協力室･･･ 80
全学 SD 委員会･･･ 82

学園本部
学園本部総務部･･･ 84
学園本部施設部･･･ 85
学園本部経理部･･･ 86
IT 委員会(IT 戦略室)･･･ 87

附：委員会委員一覧表 ･･･ 附 2
学部・学科・コース編成 ･･ 附 4
入学定員・収容定員・在籍学生数 ･････････････････････････････････････ 附 5
全学自己点検・評価委員会委員名簿 ････････････････････････････････････ 附 6

協 議 ・審 議 機 関

■検討組織名：文化学園大学・文化学園大学短期大学部　大学運営会議・将来構想委員会

報告者：濱田　勝宏

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	１．キャンパス統合の結果をもとに、大学院 2 研究科、3 学部、短期大学部の相互の連携を強化し、カリキュラムや担当教員の配置をより効果的で合理的なものとすべく検討する。【共】 ２．カリキュラム編成の点検を学部・学科でより具体的に進め、本学の独自性を明確化することを検討する。【共】 ３．学生募集のあり方、キャリア支援と就職力の強化について検討する。【共】 ４．「学園総合企画室」の提言に基づく改革と学園全体の動きに歩調を合わせるべく、具体的な検討を行う。【共】
取組の結果と点検・評価	１．機関別認証評価（大学・短大同時受審）のための委員会を組織し、スケジュールに沿って作業を進めることとした。【共】 ２．(1)「３つのポリシー」の公開（省令による）に向けて、現行のものを、大学・大学院・短大でそれぞれ検討し、平成 29 年 4 月 1 日に向けて準備した。【共】 (2)服装学部のカリキュラム改定、教養科目の共通化に向けて、検討を加速させた。【共】 ３．入学試験制度を見直し「3 月期入試」など、新しい方法を採用した。【共】 ４．「文化学園の教育事業改革への提言（審議のまとめ）　平成 28 年 9 月 21 日　学園総合企画委員会」に基づき、平成 28 年 10 月 1 日付で「学園総合広報センター（仮称）」を設置することを目的とした準備室を設置し、委員（8 人）が選任された。また同提言に基づき学園の教育組織の中に「就職・キャリア支援センター（仮称）」を設置することを目的として準備室を設置し、委員（6 人）が選任された。【共】
次年度への課題 （平成 29 年度）	１．「学園総合企画委員会」の提言のうち、「教育改革」については、2 つの委員会、「教育改革検討会」、「質保証検討会」を発足させ、具体的検討を引き続き行う。【共】 ２．「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関」については、短大を中心に「設置基準」の公布を待って検討することとする。【短】

■検討組織名：文化学園大学・文化学園大学短期大学部　大学運営会議・将来構想委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 28 年 5 月 31 日	１.「三つの方針」に基づく大学教育改革の実施に向けた省令改正等について (1)「三つの方針」に基づく大学教育改革の実施に向けた省令改正 (2) 実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化について (3) 私立大学等改革総合支援事業 (4) 大学職員の資質能力の向上（SD）に関する省令改正 ２．認証評価受審について ３．武漢紡織大学からの編入学、大学院の受け入れについて
平成28年 10 月 18 日	１．平成 30 年度以降の服装学部の構想について ２．平成 30 年度以降の教養科目の構想について ３．学園総合広報センター（仮称）、就職・キャリア支援センター（仮称）の構想について ４．大学教育再生加速プログラム（AP）「長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）グローバル創造力、梅春学期、国内外学修プログラム」について ５．私立大学研究ブランディング事業計画書 「生涯にわたる QOL 向上に資するファッション科学の構築」について
平成 29 年 2 月 21 日	1. 文化学園大学を取り巻く状況について ２．質保証検討会からの提案 ３．平成 29 年度認証評価受審（大学・短大同時受審）について
平成 29 年 3 月 21 日	１．平成 29 年度文化学園大学・文化学園大学短期大学部事業計画について ２．全国芸術系大学コンソーシアムについて ３．21 世紀鷹峯フォーラムについて ４．その他　平成 29 年度、平成 30 年度へ向けての検討事項（卒業認定のあり方、卒業要件単位の見直し）等について

■検討組織名：全学自己点検・評価委員会

報告者：渡邉　秀俊

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成28年度）	1.『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 27 年度』のまとめと公表【共】 2. 平成 29 年度の認証評価受審へ対応するための情報収集と取組体制の整備【共】 3.『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 28 年度』の作成【共】
取組の結果と点検・評価	1.『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 27 年度』のまとめと公表【共】 文化学園大学・短期大学部の 43 検討機関、文化学園本部の 4 検討機関による自己点検・評価結果をまとめた自己点検・評価報告書を、平成 28 年 7 月 1 日付で発行した。学内及び関連部署への報告書の配布は PDF で配信するとともに、本学ホームページにおいて外部へも公表した。また、平成 28 年 7 月の教授会において、平成 29 年度の認証評価受審での活用を呼びかけた。さらに、全学自己点検・評価委員会として報告書の内容を精査して、各検討組織の自己点検・評価活動の内容について審議した。教育の質保障のために、PDCA サイクルの特に C（チェック）と A（アクション）のサイクルを具体的にどのように実施していくか、各検討組織内の PDCA サイクルに対する客観的かつ組織横断的な点検・評価の体制をどのように整備していくかなどは、引き続き検討すべき課題であると考える。 2. 平成 29 年度の認証評価受審へ対応するための情報収集と整理【共】 全学自己点検・評価委員会としても、日本高等教育評価機構主催の「大学・短期大学評価セミナー（平成 28 年 4 月 22 日）」及び「平成 28 年度評価充実協議会（平成 27 年 7 月 13 日）」に参加し、大学・短期大学部同時受審の事例や第三期の認証評価の方向性などについて情報収集し、自己点検・評価委員会内での情報共有を図った。また、「平成 29 年度大学・短期大学機関別認証評価　責任者説明会（平成 28 年 9 月 12 日）」に参加し、機関別認証評価の評価基準と判断例、認証評価における責任者の役割について情報収集し、学内での情報共有を図った。平成 28 年 5 月に学内に認証評価推進委員会が設置されたことを受けて、全学自己点検・評価委員会としても、引き続き認証評価へ対応するための情報収集と対応体制の整備をすることが課題であると考える。 3.『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 28 年度』の作成【共】 自己点検・評価の検討機関の見直しと、提出された原稿を全学自己点検・評価委員会として確認・精査する組織体制の見直しを行った。あわせて、自己点検・評価報告書の様式及び執筆要領、スケジュール等を再検討した後、原稿提出締め切りを平成 29 年 4 月 1 日とし、平成 29 年 1 月の教授会にて執筆を依頼した。本学の自己点検・評価の実施体制については、毎年度、組織の変化に対応するように見直しが図られていると考える。
次年度への課題 （平成29年度）	1.『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 28 年度』のまとめと公表【共】 2. 平成 29 年度の認証評価大学・短期大学部同時受審の支援【共】 3.『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 29 年度』の作成【共】

■検討組織名：全学自己点検・評価委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成28年4月26日	1.『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成27年度』原稿提出の確認（軽微な修正報告、今後のスケジュールの確認） 2．その他（公益財団法人日本高等教育評価機構セミナー（平成28年4月22日開催）の報告、認証評価受審の予定確認）
平成28年10月25日	1．平成29年度認証評価の同時受審について（実施スケジュールの確認） 2．『平成27年度　自己点検・評価報告書』完成版の確認 3．『平成28年度　自己点検・評価報告書』作成について 4．その他（自己点検・評価書の基準4の執筆スケジュールの確認）
平成28年12月20日	1.『平成 28 年度自己点検・評価報告書』作成について（原稿依頼先の確認、スケジュールの確認） 2．平成29年度認証評価に関わる本委員会原稿について（作業スケジュールの確認）

■検討組織名：全学ＦＤ委員会

報告者：星野　茂樹

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成28年度）	１．平成28年度「全学FD・SD研修会」、「秋の分科会」及び「FD教職員による授業見学ウィーク」の実施 ２．平成29年度「全学FD・SD研修会」等の企画 ３．平成 28 年度の学生によるカリキュラム・授業改善アンケートの実施方法の改善と実施。 ４．他大学、団体等の「FD 活動」に関する情報収集とレクチャー等への参加は引き続き行う。 ５．委員会活動に於ける具体的提案の選択とその具体的策の検討と試行を引き続き行う。 【共】
取組の結果と 点検・評価	１．平成 28 年度「全学 FD・SD 研修会」の実施については、非常勤講師の参加も得て、4 月 4 日に行った。樋栄ひかる氏による、ゴールイメージと意志の観点から学生の勉学意欲の向上を図る事を目的とした「あなたの知らない GROW の世界」と題した講演を行った。また同日、講演内容を基に全教職員による「分科会」も行い、教職員の教育力の強化につながる企画とした。その後、同報告書を 7 月下旬に教職員全員に配布した。また、9 月 6 日には、昨年同様全教職員による「秋の分科会」（テーマ：教職員の学生指導能力向上に関する 4 テーマ）を実施し、同報告書を 11 月に配信した。また、昨年同様、教職員による相互の授業見学「FD 教職員による授業見学ウィーク」を 7 月 4 日から 1 週間の期間で実施、参加者アンケートも行った。 ２．平成 29 年度「全学 FD・SD 研修会」等の企画は、昨年と同様に開催方針と分科会のテーマ等を検討した。平成 29 年度は 2 部構成とし、①伊藤俊徳氏による、「組織と個人で作ろう新しい時代の教育」と題し、個人力と組織力の有効な動き方についての講演を企画した。また同日、②大学総体、各学部の教育方針の説明等を行い、教職員の一体感を持った教育力強化につながる企画とした。これらの企画には、昨年同様、非常勤講師の参加をお願いした。但し、大学の全体スケジュールとの関係から平成 29 年度の分科会は「秋の分科会」のみ行うことに決定した。 ３．平成 28 年度の「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の実施については、これまで 1 年生を対象としていたが、全学年に拡大して行った。昨年に引き続き、電子メールと「スマートフォン」を使用した集計方法を進化させて行ったが、実行上の作業量の増加の問題などもあり、学内ネット環境の問題も含め、更なる検討と改善が必要である。また、アンケートの質問内容についても、実習や演習に対する内容は講義系とは別に改善する価値があると判断し、具体的改善策の検討をスタートさせた。 ４．他大学、団体等の「FD 活動」に関する継続した情報収集については、2016 年度第 22 回 FD フォーラム（於：京都　大学コンソーシアム京都主催）に参加し、他大学発行の FD 関連レポートの収集、及び、交流を図った。その後、委員会に於いて情報の共有化を行った。また、私立大学情報教育協会の研修等への参加等も行った。 ５．委員会活動に於ける具体的提案の選択とその具体策の検討と試行については、教職員による相互の授業見学「FD 教職員による授業見学ウィーク」の企画を昨年の教職員参加者アンケートによる情報から見直し、年に 2 回、5 月と 10 月に行い、期間もそれぞれ 2 週間に延長し試行する事とした。 【共】
次年度への 課　　題 （平成29年度）	１．平成29年度「全学FD・SD研修会」、「秋の分科会」及び「FD教職員による授業見学ウィーク」の実施 ２．平成30年度「全学FD・SD研修会」「分科会」「FD教職員による授業見学ウィーク」等の企画 ３．平成29年度の学生によるカリキュラム･授業改善アンケートの実施方法の改善と試行的実施。 ４．他大学、団体等の「FD 活動」に関する情報収集とレクチャー等への参加を引き続き行う。 ５．委員会活動に於ける具体的提案の選択とその具体的策の検討と試行を引き続き行う。 【共】

■検討組織名：全学ＦＤ委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 28 年 4 月 4 日	1. 平成 28 年度全学 FD・SD 研修会、分科会の反省 2. 第 21 回京都 FD フォーラムについての報告 3. 学生によるカリキュラム・授業改善アンケートについて報告 4. 「FD 教職員による授業見学ウィーク」の内容について反省
平成28年 4 月 26 日	1. 平成28年度「FD 教職員による授業見学ウィーク」について実施時期の決定と実施期間の検討 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」について回答方法の決定
平成28年 6 月 28 日	1. 平成 28 年度「秋の分科会」のテーマについて決定 2. 平成 28 年度「FD 教職員による授業見学ウィーク」の準備の進捗について報告 3. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の教員への実施依頼について報告
平成28年 7 月 26 日	1. 平成 28 年度「秋の分科会」について実施方法の検討 2. 平成 28 年度「FD 教職員による授業見学ウィーク」について実施期間の振り返りと、「FD 教職員による授業見学ウィーク 2016 夏　アンケート集計(教員)、(職員)」の配信時期の決定 3. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」について他大学との比較検討
平成 28 年 9 月 6 日	1. 平成 29 年度全学 FD・SD 研修会について内容の検討
平成28年10月 11 日	1. 平成 29 年度全学 FD・SD 研修会の講演者、内容の検討 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」について集計の時期の決定 3. 「FD 教職員による授業見学ウィーク」のアンケート結果のフィードバック方法の決定
平成28年11月 11 日	1. 平成 29 年度 FD・SD 研修会の講演者について検討 2. 平成 28 年度 FD・SD 研修会秋の分科会の報告書を全教職員に配信することを決定 3. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」について小委員会から実施方法の報告と、対象を 1 年生から全学年へ拡充し実施すること、アンケートの設問を講義、実習、演習とに分類して行うことを決定、また改善案について検討 4. 平成 29 年度「FD 教職員による授業見学ウィーク」の計画について検討 5. 平成 29 年度 FD 委員会予算について検討、決定
平成28年 12 月 6 日	1. 平成 29 年度 FD・SD 研修会講演者について候補者との調整の進捗について報告 2. 平成 28 年度 FD・SD 研修会　秋の分科会の報告書のまとめ方、まとめる時期の決定 3. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の設問内容を改善案の検討
平成29年 1 月 24 日	1. 平成 29 年度 FD・SD 研修会講演者の決定と依頼した講演内容の報告 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」改善案について、講義、実習、演習、各々の設問内容を検討 3. 第 22 回京都 FD フォーラムへの参加者の決定 4. 平成 29 年度「FD 教職員による授業見学ウィーク」の実施期間の決定
平成29年 2 月 24 日	1. 平成 29 年度全学 FD・SD 研修会のテーマと内容の確認 2. 平成 28 年度前期「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」のフィードバックの方法と時期の決定 3. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の回答方法の改善点の報告と、設問内容の検討 4. 平成 29 年度「秋の分科会」の日程の決定 5. 「平成 28 年度自己点検・評価報告書」の内容について確認

協　議　機　関

■検討組織名：服装学部協議会

報告者：永富　彰子

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成28年度）	1．服装学部は平成 30 年度入学生よりコース及びカリキュラムの改定実施となる。これを受けて各学科改革プランニンググループでの提案による検討会を開催し、骨組みの確定を行う。また、カリキュラムの具体的案についても検討を推進する。【大】 2．入学者の増加の主要策として、平成 28 年度の第 31 回服装造形学科ファッションショーを 6 月のオープンキャンパスと同時に開催する。この時、高校生を対象にファッションショーの活動見学会を新たに実施し、本学でファッションを学ぶ楽しさの理解へとつなげる。【大】 3．服装学部・現代文化学部 USR 推進室（以下「USR 推進室」）の事業活動は、従来からの地域対応、卒業生対応、社会環境対応、Educational Development（以下「ED」）対応に加え、新たに大学教育再生加速プログラム（以下「AP」）事業対応を設置。更なる活性化及び充実に取り組む。【共】
取組の結果と点検・評価	1．改革プランニングの骨組と概略的カリキュラムについて両学科のワーキンググループ同士の報告会を行った。両学科共に従来のコース選択制を廃止し、ファッションクリエイション学科は横断的履修システムをとり、学びの領域を 3 フィールドとした。ファッション社会学科は年次を超えた科目選択の自由度を高め、7 つの学問的領域で総合的に学べる内容とした。しかし、両学科の相互乗り入れ科目についての検討は平成 29 年度への持ち越しとなった。【大】 2．ファッションショーをオープンキャンパスとの同時開催により高校生の入場者数が大幅に増加した。また、AO 入試においてファッションショーの感想を聞いたところ、多くの生徒が絶賛し本校の受験を決定したとの声を得ることができた。今後も入学者増に対する重要なデータとする。【大】 3．USR 推進室の活動としては、地域対応では小学生のファッションショー体験や、長野県飯山市での地域貢献活動、卒業生対応では卒業後の連絡先登録を利用しワークショップ開催や学校の近況案内活動、社会環境対応ではエコプロダクツ 2016 プロジェクトへの参加、ED 対応は活動広報等を行った。新たな AP 事業対応では、希望の学生による、シドニー Raffles 校とのコラボレーション、長野県飯山市で「和紙と漆でのものづくり」体験、岩手県の製造現場では「考える日本の服づくり体験」の参加があった。いずれも学外での研修は学生の今後の方向性を決める貴重な体験となった。【共】
次年度への課題 （平成29年度）	1．平成 30 年度入学生からの新学科構想実現に向けて、平成 29 年度を新カリキュラム体制の具体化と実施への準備期間と位置づけ、確実に推進する。【大】 2．進級、卒業に関しての学生支援の充実を図るために、担任制の視点から教員の学生についての共通認識を持つこととする指導マニュアルを作成する。【大】 3．昨年度より実施したボランティア活動（バザーを含む）を促進し、学生の視野の拡張と地域・社会との結びつきの体験を通して人間性の向上を図る。【大】 4．入学者増加の主要策として、服装造形学科のファッションショーをオープンキャンパスと同時開催とする。また、国際化志向の高校生に対応するために服装社会学科の「グローバルファッションマネジメントコース」の海外インターンシップを推進する。【大】 5．USR 推進室の活動は、企業対応、地域対応、卒業生対応、社会環境対応に重点をおき更なる活性化及び充実に取り組む。また、平成 27 年度文部科学省大学改革推進事業大学教育再生加速プログラム（AP 事業）である長期学外学修プログラムを、本年度はコラボレーション科目として海外及び国内でのプログラム内容を質良ともに充実して実施する。【共】 6．グローバル化によって構造変化しているアパレル産業と社会に適応した服装学へと学問体系を再構築し、新講座として教科書を平成 27 年度より平成 32 年度までに 19 冊を発行する。平成 28 年度までに 7 冊発行済で、平成 29 年度は 2 冊の発行を目指し推進する。【大】

■検討組織名：服装学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成28年4月1日	1．新年度の確認事項（協議会の運営について）2．平成27年度卒業研究学長賞展示案内　3．USR 推進室よりお知らせ　4．「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンプー」内容案内　5．「スタディスキルズ」科目協力要請
平成28年5月24日	1.「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンプー」報告　2.服装造形学科第31回ファッションショー開催案内　3.卒業研究学長賞展示報告　4.学外交流として台湾嶺東科技大学への出張報告　5.ホビーショー案内
平成28年6月21日	1．服装造形学科第31回ファッションショー終了報告　2．学外交流として、ブリスベンより 13 人来日の特別講習の報告　3．学内研究発表会の開催案内について　4．USR 推進室より事業計画と地域活動グループによる小学生ファッションショースタッフ体験報告　5．紀要編集委員会より編集内容の変更を報告　6．新入生対象の入学事前プログラム提出率報告　7.バザー委員会の在り方変更(ボランティア委員会に組み入れる)について　8．服装学部両学科のカリキュラム改革経過報告
平成28年7月12日	1．カリキュラム変更案審議　2．URS 推進室活動報告（エコプロダクト展協力要請）3．学外交流（①韓国啓明大学よりファッションショー参加依頼、中国北京服装学院よりコンテスト形式ファッションショー参加依頼、文化学園長野高校で行った出張授業報告、上海視覚芸術学院シンポジウム参加依頼）4．入試対策委員会よりオープンキャンパス、文化の授業体感フェアについて案内　5．高校訪問について結果の記録提出要請
平成28年9月6日	1.学外交流として、新宿観光振興協会主催のファッションショー参加について案内　2．USR 推進室より地域振興事業の案内　3．ボランティア活動の経過報告　4．学内研究発表会の時間、来聴歓迎の案内
平成28年10月4日	1.学生募集関連から昨年比受験者増の経過報告　2.学内研究発表会終了報告　3.学外交流(1)中国（香港）、オーストラリア（ブリスベン）、ドイツ（ロイトリンゲン）より来日の特別講習依頼　(2)武漢紡織大学出張授業報告　(3)上海視覚芸術学院シンポジウム参加報告　4．文化祭の展示、ファッションイラストレーション展（以下「FIE」）、バザー等協力要請
平成28年11月15日	1.文化祭関係（展示、FIE、バザー）報告　2．教務委員会より平成29年度の授業日程案検討依頼　3．USR 推進室より海外提携校(香港)との教員交換プログラムの要請説明　4．コース希望について、両学科共に3年次進級における2年生のコース希望調査経過報告　5.服装社会学科グローバルファッションマネジメントコースの海外インターンシップ(2カ月間)が開始された　6．学園総合企画委員会より新たな提言があり質疑応答の場を設けた
平成28年12月13日	1．卒業研究発表会の日程報告　2．USR 推進室よりエコプロダクト展案内、飯山おみやげプロジェクト案内　3.文化祭バザーの次年度への反省報告
平成29年1月6日	1.卒業研究の提出における注意事項の確認　2．カリキュラム改革の経過報告　3．教育の3つのポリシー改定経過報告　4．シラバス執筆依頼とチェックについて
平成29年2月7日	1.平成28年度卒業研究学長賞展示案内　2.学生支援の更なる徹底を図るマニュアルとして「学生支援及び進級に対する条件設定」の見直し　3．内部質保証検討の一つとして「平成29年度にラーニング・ポートフォリオの試行」をする協力要請　4．平成29年度1年生全員参加による「自己探求プログラム」施行報告　5．入学式終了後学生の学科集会を行うことへの協力要請
平成29年3月6日	1.卒業研究発表会の報告　2．学外教育活動報告（①青森県アートスクール担当、②大宮東高校における模擬授業担当）3．USR 推進室活動報告及び AP プログラムの海外研修予定報告

■検討組織名：造形学部協議会

報告者：堀尾　眞紀子

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	１．平成28年度の新コース体制を受けて新体制対策委員会を設け、新・旧カリキュラムのスムースな移行、造形学部将来構想の具体的方策等について検討する。 ２．造形学部ホームページ（以下「HP」）をリニューアルし、在学生の制作活動発信を軸に、卒業生との交流、教員の研究活動の発信などに広げ、ソーシャルネットワークサービス（以下「SNS」）を活用した情報公開を検討する。 ３．「造形学部卒業研究展」を、作品の展示だけでなく作品プレゼンテーションや講評会、ディスカッションなど活気ある場として在校生、来場者との交流をはかり、更なる充実と活性化を目指す。 ４．「造形学部年間教育活動報告集『BZ』」を、学生の多様で実践的な活動とその成果をアピールする報告集として更に充実させ、多方面に活用し、造形学部の教育内容周知の機会とする。 ５．造形学部実践教育の特色である産学・地域連携型教育を更に推進し学生の社会参加意識を高める。 ６．「プレゼンフォーラム」は企業との連携、活性化を推進し、学生の社会的視野の拡大をはかる。 ７．休学・退学に至る背景の検討を継続し先生方の情報の共有、個別指導、メンタルケアを推進する。【大】
取組の結果と点検・評価	１．造形学部両学科とも大幅にコース統合し編成替えをした新体制カリキュラムの円滑な実施にむけ、主任教授、研究室長を中心に学科ごとに検討会を重ねた。教場の整備、教員の負担の調整等、課題は多岐にわたったが問題点を整理し解決に努め、混乱無く新・旧カリキュラムが進行している。 ２．大学 HP の充実を受け造形学部 HP「TRUNK」を再検討し、常時発信可能な SNS の活用による発信に切り替えを実施した。ワーキンググループも編成替えをし、活動を開始した。 ３．「造形学部卒業研究展」は初日の「学長賞プレゼンテーション」において 10 人の発表が行われ、教職員、在校生はじめ多数の来場者が参加した。また両学科とも会場において講評会や各種イベントが実施されて活発な意見交換がみられ、学年を超えた、また来場者も交えた交流が見られた。 ４．「造形学部年間教育活動報告集『BZ』」は、高校生への親しみやすさを増すことも視野に入れ内容構成を再検討し、編成替えを実施した。オープンキャンパス時等の高校生へはもちろん、学外連携先企業、地域の担当者、インターンシップや学生の就職先等、機会を捉えては幅広く活用した。 ５．連携型教育は従来の活動に加え「二子多摩川・キネコ国際映画祭への参加」等、映像関連の新しい連携も増え、学生の社会的視野の拡大が図られた。 ６．「プレゼンフォーラム」は5年間にわたる明治大学主催「e-プレゼン･コンテスト」への参加に区切りをつけ、1企業との連携となった。今後連携企業の開拓、新コンテストの立ち上げを検討する。 ７．休学・退学対策として教員間の情報共有及び担任・副担任による学生への個人面談を実施した。【大】
次年度への課題 （平成 29 年度）	１．平成 28 年度入学生の平成 30 年度からのコース教育始動を受け、基礎造形教育とコース専門教育の連携等の諸課題に対応し、新体制移行のためのスムースな実施に努める。 ２．従来の「TRUNK」に代わり、SNS を活用した情報公開展開に切り替えたことを生かし、在学生の制作活動を軸に、卒業生との交流、教員の教育や研究活動等のコンテンツを常時発信可能とする体制を確立しつつ、本学部教育内容の公表につなげる。 ３．４年間の教育成果発表の機会である「造形学部卒業研究展」の更なる質の向上と活性化を目指し、展示内容及び展示方法、交流イベントのあり方について、室長会議を中心に検討を重ねる。 ４．「造形学部年間教育活動報告集『BZ』」は、「卒業研究優秀作品」「プレゼンフォーラム報告」「地域･産学連携活動報告」の 3 本の柱を中心として更に内容の充実を検討し、学外連携先企業や就職先企業、高校訪問の際の説明資料等、本学部教育内容周知のため広く活用する。 ５．コース、学年を超えた横断型教育を推進するため「造形学部プレゼンフォーラム」を実施し、日頃交流の少ない他の学科・コース・学年とのディスカッションにより学生の意識向上を目指すとともに、企業との連携により優秀作品の実用化も目指す。平成29年度はさらに複数部門のコンテスト実施により活性化を図り、学生の社会的視野の拡大を図る。【大】

■検討組織名：造形学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 28 年 4 月 1 日	１．平成 28 年度造形学部方針について報告　２．平成 28 年度入学試験・造形学部関連結果について最終報告　３．「キャリアデザイン（導入編）ーﾌﾚｯｼｭﾏﾝｷｬﾝﾌﾟーー」、「キャリアデザイン（展開編）ーｺｰｽｾﾐﾅｰー」の企画依頼　４．造形学部年間活動報告『BZ』について内容報告
平成28年 5 月 24 日	１．平成 28 年度造形学部共通予算について報告と依頼　２．造形学部教員の業務役割と学部 HP・ワーキンググループの活動について報告　３．全国芸術系大学コンソーシアムへの参加について報告　４．服装学部ファッションショー期間における造形学部展示について報告
平成28年 6 月 21 日	１．平成29年度からの大学、学部、学科の3つのポリシーの方針について報告　２．イタリア・日本国交150周年記念イベントへの参加について報告　３．新宿警察署からの「新宿大ガード・ウォールギャラリー」作品展示の依頼内容について報告　４．平成28年度のプレゼンフォーラムの企画内容について報告
平成28年 7 月 12 日	１．教育改革の取組支援のための「大学ポートレート」について報告　２．平成28年度の学内研究発表会について研究発表募集について報告　３．「新宿芸術天国 2016」への参加依頼内容について報告　４．「ザ・クリエイション・オブ・ジャパン」について、東京開催の内容について報告
平成 28 年 9 月 6 日	１．平成 29 年度 AO 入試１期について状況を報告　２．平成 28 年度学内研究発表会について原稿等提出を依頼　３．平成 28 年度プレゼンフォーラムの審査結果報告と今後の活動について依頼　４．「全国芸術系大学コンソーシアム（JUCA）」の進捗状況について報告　５．デザインフェスタ「学展」について出展結果の報告
平成28年 10 月 4 日	１．平成 29 年度 AO 入試１期の結果について報告　２．平成 29 年度入学生のための事前教育について報告　３．平成 30 年度向けの「入学案内」について造形学部の要望を報告　４．平成 29 年度に受審する「認証評価」について報告と依頼　５．新宿警察署からの「新宿大ガード・ウォールギャラリー」作品選出結果について報告
平成28年11月 15 日	１．平成 29 年度推薦入試の応募状況について報告　２．文化祭に関連する行事について報告　３．平成 29 年度造形学部共通予算の計画について報告と検討の依頼　４．平成 29 年度シラバスワーキンググループの担当者について報告
平成28年12月 13 日	１．学園総合企画委員会による第２次提言の報告　２．平成 29 年度の造形学部入学定員数の変更について報告　３．平成 29 年度造形学部共通予算についての申請内容の報告　４．平成 29 年度の文化・住環境学研究所の共同研究審査結果について報告
平成 29 年 1 月 6 日	１．平成 29 年度入試について、入学者動向の現状について報告　２．平成 28 年度造形学部卒業研究展について報告　３．平成 29 年度受審予定の「認証評価」の進捗状況について報告　４．平成 28 年度造形学部教育活動報告集『BZ』について報告
平成29年 1 月 31 日	１．平成 29 年度一般入試 A 日程の志願者数について報告　２．平成 28 年度造形学部卒業研究展の関連行事について確認事項を報告　３．平成 29 年度の入学式に行う「学科集会」について報告と依頼　４．「ザ・クリエイション・オブ・ジャパン」東京大会（21 世紀鷹峯フォーラム）について報告
平成 29 年 3 月 6 日	１．平成 29 年度入試動向について現況を報告　２．平成 28 年度造形学部卒業研究展について結果報告　３．平成 29 年度開催の「学科集会」について計画を報告

■検討組織名：学部共通科目協議会

報告者：濱田　勝宏

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	1．「スタディスキルズ」を 3 年次進級要件とするか、継続課題とする。【大】 2．現代文化学部、短期大学部で開講している教養系科目、語学系科目との間で科目名を含めた統合の可能性を検討する。【共】 3．各学部、学科が科目の見直しを進めている中で、専門系との整合性をはかるために、総合教養科目の内容に重複が無いかを見直す。その結果として、カリキュラムのスリム化の可能性を検討する。【共】 4．外国語科目について、学生が個別に取得した語学の資格（TOEIC 等の成績）に応じた各外国語科目の単位認定の可能性を検討する。【大】 5．オープンキャンパス、文化祭（特にグリル）、高校訪問等への参画の方法について検討する。【共】 6．「文化学園大学・教職研究会」が学内の教育現場にフィードバックできるか検討し、その方策を具体化する。【大】
取組の結果と点検・評価	〈取組の結果〉 1．「スタディスキルズ」を 3 年次進級要件とする場合の学生への利益、不利益について検討した結果、むしろ履修に関する特別事項を見直すことを先行すべきとの結論になり、平成 29 年度は、4 年生以外通常の科目と同様の対応とすることに決定した。【大】 2．現代文化学部を含めて全学的に科目名の整合性を図ることに着手した。（内容が異なっていて）専門科目で開講されている同一科目名の教養科目の名称変更を行った（「異文化コミュニケーション」→「異文化理解とコミュニケーション」、「社会心理学」→「現代人の社会心理学」、「文章表現」→「文章作法」）。また、教養系科目の総称について各学部の協議会で協議の結果「総合教養科目」に統一することとなった。外国語科目では特に中国語において授業統合が進んだ。【共】 3．総合教養科目を見直し、心理学系科目に若干の科目重複がみられたので、カリキュラムへの反映については平成 29 年度への継続課題となった。【共】 4．学生が個別に取得した語学の資格（TOEIC 等の成績）に応じた各外国語科目の単位認定制度を設けることとなった（現代文化学部は単位設定が異なるので、別に同様の制度を設ける）。【共】 5．オープンキャンパスにおいて、AO 入試の面接対策講座を担当した。また、文化祭グリルは「文化茶房」と名称変更し、運営組織の変更を行った。【共】 6．「文化学園大学・教職研究会」のメンバーに「教育実習集中事前教育」の外部講師として教科指導についての講義担当を依頼した。また、参加した学生にとっては教職現場の生の声を聴く貴重な機会となった。【大】 〈点検評価〉 平成 28 年度に設定した課題は概ね達成することができた。
次年度への課題 （平成 29 年度）	1．「スタディスキルズ」において学部共通科目協議会が担当する部分の内容を再検討する。【大】 2．現代文化学部で開講している教養系科目、語学系科目との間で開講年次を含めた一本化の可能性を検討する。【共】 3．各学部、学科が平成 30 年度を目途にカリキュラムの見直しを進めている中で、総合教養科目においても内容の全体を再検証し、重複等が無いかを見直す。その結果として、カリキュラムのスリム化の可能性を検討する。【共】 4．オープンキャンパス、文化祭、高校訪問等への参画の方法について検討する。【共】 5．「文化学園大学・教職研究会」が学内の教育現場にフィードバックできるか検討し、その方策を具体化する。【大】

■検討組織名：学部共通科目協議会

開催年月日	会議等の開催記録	
平成28年4月1日	1．委員会報告 2．小ｸﾞﾙｰﾌﾟ報告 3．その他	今年度高校訪問について/全学FD・SD研修会と授業改善ｱﾝｹｰﾄについて 「スタディスキルズ」の実施要項と4月スケジュールについて 母校へのサンクスレターについて/教職試験対策強化/委員選出ブロック会議
平成28年5月24日	1．委員会報告 2．小ｸﾞﾙｰﾌﾟ報告 3．その他	入試対策委員会　高校訪問の事前説明会と担当校の変更について 「スタディスキルズ」/オープンキャンパス/文化祭グリルをカフェスタイルに変更する件について/外国語科目単位認定に伴うカリキュラム改定について 外国語科目における現代文化学部との名称の統一について
平成28年6月21日	1．委員会報告 2．小ｸﾞﾙｰﾌﾟ報告 3．その他	入試対策委員会 高校訪問について/教務委員会Web履修登録について 「スタディスキルズ」終了報告と今後の予定/外国語科目単位認定に伴うカリキュラム改定について/総合教養科目の見直しについて オープンキャンパスにおける入試対策講座担当の報告
平成28年7月12日	1．委員会報告 2．小ｸﾞﾙｰﾌﾟ報告 3．その他	入試対策委員会　ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽの入試対策講座/今年度報告について 「スタディスキルズ」について/ファッションショーと教育実習の開催/時期の重複について/文化祭グリルの担当学生は造形学部建築・ｲﾝﾃﾘｱ学科の学生へ依頼する件 授業改善アンケートについて/Web履修について
平成28年9月6日	1．小ｸﾞﾙｰﾌﾟ報告	「スタディスキルズ」前期の報告と後期再履修について/外国語科目の削除→新設が2科目、総合教養科目の科目名変更が3科目
平成28年10月4日	1．委員会報告 2．小ｸﾞﾙｰﾌﾟ報告 3．その他	教務委員会　平成29年度Web履修登録のｽｹｼﾞｭｰﾙと成績入力について 「スタディスキルズ」報告/文化祭グリルについて/教職研究会について/外国語科目の単位認定について 総合教養科目の現代文化学部との統合について/「哲学」のあり方について
平成28年11月15日	1．委員会報告 2．小ｸﾞﾙｰﾌﾟ報告 3．その他	教務委員会　平成29年度授業日程表について 文化祭グリル「文化茶房」について　教職研究会について 学生生活調査の結果から、学科別における満足度のばらつきについて 現代文化学部における「学部共通基礎教養科目」との名称統合の必要性について
平成28年12月13日	1．委員会報告 2．小ｸﾞﾙｰﾌﾟ報告 3．その他	教務委員会　平成29年度授業日程表の最終報告 「スタディスキルズ」の後期報告 教養科目群の名称の統一に向けて→「総合教養科目」に意見集約 「哲学」「経済」「生理学」「心理学」「文学」「美術」の年次統一について検討
平成29年1月6日	1．小ｸﾞﾙｰﾌﾟ報告 2．その他	「スタディスキルズ」平成29年度の課題の在り方について シラバスワーキンググループの担当とシラバスチェックについて
平成29年2月7日	1．委員会報告 2．小ｸﾞﾙｰﾌﾟ報告 3．その他	入試対策委員会　ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽについて/公開授業の名称について 学生支援委員会　学生の「デートDV」に関する無料研修会の実施について 「スタディスキルズ」の履修に関する平成29年度の変更について 平成29年度より語学科目の単位認定を開始、履修要項に記載 平成29年度から、入学式後に学科集会が開催される。
平成29年3月6日	1．小ｸﾞﾙｰﾌﾟ報告 2．その他	「スタディスキルズ」平成29年度の変更点の担任、副担任への連絡方法/平成 29 年度、英語のクラス分けについて（服装学部はｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ期間中、その他は1回目の授業にて実施） 平成29年度はラーニング・ポートフォリオを試行的に実施 平成29年度の書記の依頼

■検討組織名：現代文化学部協議会

報告者：青柳　宏

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	1．学生数の増加に対応した教育環境の整備を図る。特に実習室の確保や教室における教育機材（ビデオ、プロジェクター等）の整備、教育機材の効率的な利用を図る。 2．学生への教育・大学生活支援体制を整備する。学生に対する個別指導を充実するためにも、指導する場所の確保が必要である。また、留学生が増加しているので、それに対応した支援体制の充実を図る。 3．今までの産官学連携・地域連携を継続して行うとともに、新都心キャンパスでの新たな産官学連携・地域連携型教育の在り方を検討し、推進する。 4．新カリキュラム 2 年間の実施状況を踏まえ、３年目のカリキュラムとの連携を図る。カリキュラムツリーに基づき、「ディプロマ・ポリシー」、「7 つの力」を達成できるように科目間の連携を取った指導を行う。 5．国際文化・観光学科の強化・充実を図る。 6．学生の個別指導を充実し、働くことへの意識を高める。インターンシップへの参加率 30%、就職内定率 90%を目指す。【大】
取組の結果と 点検・評価	1．教育機材の設置に関してはあまり改善されていない。設置されている教室への変更で対応しているが、プロジェクターの長期貸出等の対応が必要である。実習室に関しては不十分である。 2．国際文化・観光学科では学生の個別指導のための部屋を確保できた。増加する留学生に対応するために、チューター制度を実施した。 3．小田急電鉄との観光企画連携、福祉施設でのメイクボランティア、小平市との地域活性化企画・セーフティ教室などの実践活動を継続して行った。その他小鳩文化事業団からの依頼で衣装製作を行った。 4．「7 つの力」のカリキュラムツリーを作成し、それに基づき「ディプロマ・ポリシー」を達成できるように科目間の連携の確認を行った。 5．ホスピタリティ実習室での実践的な授業を増やし、日本流のおもてなしの心を習得するための特別講義やインターンシップの職種の拡大を検討した。 6．インターンシップの参加者は 27 社 34 人で、3 年生は 32 人。参加率は 39%と平成 27 年度より 14 ポイント増加し、目標を達成できた。就職内定率は 82%で目標を達成できなかった。【大】
次年度への 課　　題 （平成 29 年度）	1．学生数がさらに増加しているので、それに対応した教育環境の整備を図る。特に国際ファッション文化学科の実習室の確保とホスピタリティ実習室の収容人数の改善を図る。 2．留学生支援のチューター制度をさらに充実させるために、担当教員の増員を図る。 3．今までの産官学連携・地域連携を継続して行うとともに、新たな連携型教育の在り方を検討し、推進する。 4．新カリキュラム 3 年間の実施状況を踏まえ、4 年目のカリキュラムとの連携を図る。新カリキュラムの完成年度となるため、「ディプロマ・ポリシー」「7 つの力」を達成するカリキュラムになっているかを検証し、さらにカリキュラムの充実を図る。 5．質の保証を達成するために、各学科でラーニング・ポートフォリオを実施し、その結果を踏まえ質の保証実現のためのシステムを検討する。 6．学生の個別指導を充実し、就職への意識を高める。学生数の増加を考慮し、インターンシップへの参加率 30%、就職内定率 90%を目指す。【大】

■検討組織名：現代文化学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 28 年 4 月 1 日	１．平成 28 年度現代文化学部の方針について　２．新任・異動教員の紹介 ３．委員会改選について　４．オープンキャンパスの展示について ５．3 つのポリシーについて　６．各学科報告 ７．大学教育再生加速プログラム（AP）について
平成28年 5 月 24 日	１．指定校制度について　２．熊本地震エリアの受験生への対応 ３．カリキュラム改訂について　４．3 つのポリシーについて ５．卒業研究の提出時の事務受付について　６．各学科報告 ７．学内研究発表会について　８．メンタルヘルス研修の実施について
平成28年 7 月 12 日	１．外国語の単位認定について審議と承認（平成 28 年 11 月 15 日教授会承認） ２．入学者選考判定委員について　３．卒業研究に関する細則について ４．紫友会奨学金について　５．「キャリアデザイン（導入編）―フレッシュマンキャンプ―」のアンケートについて　６．平成 27 年度オープンキャンパスの結果データについて　７．各学科報告　８．紀要編集専門委員会報告　９．学内研究発表会について
平成28年 10 月 4 日	１．外国語検定試験の単位認定につて審議と承認（平成 28 年 11 月 15 日教授会承認） ２．パソコン購入について　３．アチーブメントテストの導入について　４．文化学園大学・文化学園大学短期大学部障害学生支援規程について　５．クリエイティブスカラシップについて　６．各学科報告　７．文化祭について
平成28年11月 15 日	１．科目種別名称変更について審議と承認（平成 29 年 3 月 6 日教授会承認） ２．外国語科目認定について　３．シラバス調整に関するワーキンググループについて ４．入試状況について　５．各学科報告　６．「文化学園大学教育事業改革についての提言」について　７．文化祭報告
平成28年12月 12 日	１．授業料の改定について　２．経常費補助金について　３．各学科報告
平成 29 年 1 月 6 日	１．科目種別名称の変更について　２．各学科報告
平成 29 年 2 月 7 日	１．3 つのポリシーについて　２．卒業研究発表会について　３．日本高等教育評価機構の認証評価報告書の作成について　４．平成 29 年度入学式について　５．地方入試の導入について　６．各学科報告
平成 29 年 3 月 6 日	１．ラーニング・ポートフォリオについて　２．平成 29 年度入試制度の変更について ３．平成 29 年度入学式について　４．服装学部・現代文化学部 USR 推進室卒業生ネットワークについて　５．大学教育再生加速プログラム（AP）について

■検討組織名：短期大学部協議会

報告者：濱田　勝宏

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	１．名実共にファッションのオンリーワン短大の構築 (1) 学科名を平成 28 年度入学生から「ファッション学科」とする (2) 学科名変更に伴い平成 29 年度入学生からはファッションビジネス、ファッションクリエイティブ、ファッションプロモーションの３コースを発展的に解消し、「ファッション学科」教育をする。 (3) 定員変更（120 人→80 人）を届け出たので、数から質の転換を図る。 (4) 第 40 回日本ホビーショーに参加する（ファッションショー参加）。 (5) 「キャリアデザイン実践編Ⅰ、Ⅱ」を充実して就職率アップを図る。 (6) 専攻科ファッション専攻のインターンシップを全学生が実施する。【短】
取組の結果と点検・評価	１．名実共にファッションのオンリーワン短大の構築 (1) １年生は「ファッション学科」として活動した。 (2) 平成 29 年度よりコースを発展的に解消するための準備として、カリキュラム内容の精査、及び適切な教員配置、教室の整備を行った。 (3) 定員変更に伴い、数から質へ転換するべく、科目ごとシラバス点検を行い、重複や漏れがないか確認した。 (4) 第 40 回日本ホビーショーにおいて、学生企画・製作衣裳によるファッションショーと作品展示を行った。その結果、成功裏に終え、本学の教育成果を発信することができた。 (5) 「キャリアデザイン実践編Ⅰ・Ⅱ」を含め、キャリア形成教育科目を連動させ、進学や就職に対する意識向上を図った。また学生の志向を尊重し、就職相談室との連携をとり就職率アップに努めた。 (6) 専攻科ファッション専攻のインターンシップを全学生(9 人)が実施し、研修企業先より高評価を得ることができた。【短】
次年度への課題 （平成 29 年度）	１．ファッションのオンリーワン短大として更なる充実を図る。 (1) 平成 29 年度から全学生が「ファッション学科」としてスタートするに際し、新たなカリキュラムの運用体制を構築する。 (2) ラーニング・ポートフォリオを作成し、学びを視覚化することで、学生は自己評価力を養い、教員は指導力の向上を図る。 (3) 第 41 回日本ホビーショーに参加する(ファッションショー参加)。 (4) 各クラスの担任をキャリア支援担当教員として位置づけ、キャリアデザイン実践教育を充実し、進路相談や就職支援に結びつける。 (5) 日本高等教育評価機構による機関別認証評価を受審するにあたり、学生確保、教育の内部質保証について検討課題の整理と取組を明確化する。【短】

■検討組織名：短期大学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 28 年 4 月 1 日	１．人事異動　２．事業計画　３．平成 28 年度短期大学部服装学科/ファッション学科の学生数及びクラス担任・副担任　４．平成 28 年度委員会及び研究室役割担当 ５．合同オリエンテーション　６．「キャリアデザイン(導入編)-ﾌﾚｯｼｭﾏﾝｷｬﾝﾌﾟｰ」 ７.日本ホビーショー　８．オープンキャンパス　９．委員会・係報告
平成28年 4 月 21 日	１.学生の状況把握　２．行事報告　３．「キャリアデザイン(導入編)-ﾌﾚｯｼｭﾏﾝｷｬﾝﾌﾟｰ」、「キャリアデザイン(展開編)-ｺｰｽｾﾐﾅｰｰ」４．将来構想ワーキンググループ進捗状況 ５．ウィンドウ・AD 画廊展示　６．入試対策　７．就職対策　８．委員会・係報告
平成28年 5 月 26 日	１．「キャリアデザイン(導入編)-ﾌﾚｯｼｭﾏﾝｷｬﾝﾌﾟｰ」、「キャリアデザイン(展開編)-ｺｰｽｾﾐﾅｰｰ」２．ウィンドウ・AD 画廊展示　３．入試対策　４．平成 29 年度専攻科の募集について　５．就職対策　６．外部の取組　７．社会貢献活動　８．ホームページのスケジュール（ニュース・イベント情報・授業紹介）９．委員会・係報告
平成28年 6 月 16 日	１．「キャリアデザイン(展開編)-ｺｰｽｾﾐﾅｰｰ」２．入試対策　３．将来構想ワーキンググループ　４．就職対策　５．バザー　６．ウィンドウ・AD 画廊展示 ７．平成 29 年度専攻科について　８．ホームページ係　９．委員会・係報告
平成28年 7 月 21 日	１．入試対策　２．将来構想ワーキンググループ　３．就職対策　４．バザー ５．ウィンドウ・AD 画廊展示　６．パターンメーキング検定対策講座 ７．委員会・係報告
平成 28 年 8 月 8 日	１．入試対策　２．夏期休暇中の出勤　３．委員会・係報告
平成 28 年 9 月 6 日	１．学生募集関連　２．入試対策　３．文化祭実行委員会　４．教務委員会 ５．ホームページ係
平成28年 9 月 20 日	１．新カリキュラムについて　２．文化祭
平成28年 9 月 29 日	１．AO 入試 1 期面接終了　２．文化祭　３．学生の状況把握（後期） ４．新カリキュラムの進捗状況報告　５．入試対策　６．就職対策　７委員会・係報告
平成28年10月 13 日	１．平成 29 年認証評価報告書の執筆　２．文化祭　３．ウィンドウ・AD 画廊展示 ４．将来構想ワーキンググループ　５．入試対策　６．AO 入試 2 期　７．就職対策 ８．委員会・係報告
平成28年11月 17 日	１．平成 29 年度認証評価受審　進捗状況　２．行事　３．入試対策 ４．来年度予算計画　５．委員会・係報告
平成28年12月 22 日	１．平成 29 年度認証評価受審　進捗状況　２．行事　３．入試対策 ４．就職対策　　５．委員会・係報告
平成29年 1 月 19 日	１．平成 29 年度認証評価受審　進捗状況　２．行事　３．入試対策 ４．就職対策　　５．教室移管　６．委員会・係報告
平成29年 2 月 23 日	１．平成 29 年度認証評価進捗状況　２．文化学園の教育改革への提言　３．ラーニング・ポートフォリオ導入　４．担当科目及び教員時間割　５．服装学部ファッション社会学科副担任　６．高校出張講義　７．行事　８．入試対策　９．将来構想ワーキンググループ 10．就職対策　11．委員会・係報告
平成 29 年 3 月 9 日	１．平成 29 年度認証評価進捗状況　２．ラーニング・ポートフォリオ　ワーキンググループ　３．行事　４．委員会・係報告

審　議　機　関

■検討組織名：生活環境学研究科委員会

報告者：米山　雄二

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	1．大学院担当教員の世代交代及び海外大学とのダブルディグリー協定などグローバル化への対応強化に備え、若手教員の育成・活用の施策を試み、教育・研究の充実と継続を図る。 2．フランス国立高等装飾美術学校（Ensad）などからデザイン・造形分野の修士課程及び文化ファッション大学院大学からの博士後期課程入学など、大学院入学者を増加すべく、大学院の受入れ分野の拡大を図る。 3．国際文化研究科を含め各専攻の相互交流による学際的な研究基盤を形成し、大学院教育の充実を図る。 4．大学院生が課程内で円滑に学位取得できるよう、大学院での研究活動で必要となる研究倫理教育、研究活動の進め方、進捗チェックの仕方など大学院生へのスキルアップ教育を行う。【大】
取組の結果と点検・評価	1．大学院科目担当教員の年齢が高くなり、平成 29 年度に退職者が予定されていることから、平成 28 年度は若手教員へ交代準備を行った。その結果、大学院被服環境学専攻では 4 科目、被服学専攻及び生活環境学専攻では 18 科目が、若手教員への担当変更となった。 2．ダブルディグリー協定では、浙江理工大学との間で 1 人が修了となり、修士号を取得した。大学院入学者の受け入れ拡大策として、大学院への飛び入学制度を導入した。この制度は Ensad からの入学希望者 2 人に適用し、専攻科目など成績が優秀であることを研究科委員会で確認し、飛び入学を認め、この飛び入学制度は適切に運用された。また、大学院への入学者募集への協力を大学全体に働きかけたこと及び大学ホームページにおける教員の紹介ページの充実により、平成 29 年度の大学院入試への出願者は、44 人となり、昨年比 21 人の増加となった。 3．大学院研究科委員会をはじめ、大学院セミナー、文化祭、修論発表会などの行事を国際文化研究科と共同開催するとともに、共通で受講できる科目を開講したことで、学際的な基盤が形成でき、平成 28 年度の修論審査において両研究科の教員が協力して審査したケースが 2 件あった。 4．大学院生の研究に対するスキルアップとして、研究倫理教育の実施、大学院特別講義における研究の意義や目的に関する講義、大学院特別研究のシラバスに各分野の研究の進め方を明記、主・副指導教員による複数指導、大学院セミナーや研究概要書などによる進捗管理を多面的に行った。その結果、被服学専攻及び生活環境学専攻の留年生は平成 27 修了年次生 20 人中 8 人(40%)から、平成 28 年度 24 人中 5 人(20%)に減少し、課程内で円滑に学位取得が修得できる教育環境を推進できた。【大】
次年度への課題 （平成 29 年度）	1．海外大学とのダブルディグリー協定の推進及びグローバル化への一層の推進に重点を置いて、教員の採用、若手教員の育成・活用及び国際文化研究科を含め各専攻の相互交流基盤を活用し、教育・研究の充実と継続を図る。 2．修士並びに博士の学位授与に関する要件及び審査に関する規程等を、各研究分野の特徴と現状に合わせて整理・見直しを行い、学位審査の円滑化を図る。 3．被服学専攻アドバンストファッションデザイン専修、生活環境学専攻生活造形学専修などデザイン・造形分野の修士課程における研究プロセスを明確にするとともに、学部との連動を強化し、大学院入学者の増加を図る。 4．大学院生が課程内で円滑に学位取得できるよう、研究倫理教育、複数指導教員、研究活動の進め方の講義、大学院セミナーでの中間発表等のチェックシステム化を図る。【大】

■検討組織名：生活環境学研究科委員会

開催年月日	生活環境学研究科委員会の開催記録
平成 28 年 4 月 13 日	1.平成 28 年度大学院研究科委員会構成員、2.ﾃｨｰﾁﾝｸﾞ・ｱｼｽﾀﾝﾄ(TA)及びﾘｻｰﾁ・ｱｼｽﾀﾝﾄ(RA)、3.被服学・生活環境学特別研究の指導教員、4.博士論文指導教員、5.大学院研究費増額分の改定案、以上 5 項目を審議し、承認。6.大学院ｾﾐﾅｰ最終日の見学先について報告。
平成 28 年 5 月 11 日	1.日本学術振興会特別研究員の授業料減免に関する規程、2.Ensad とのﾀﾞﾌﾞﾙﾃﾞｨｸﾞﾘｰに関する細則、3.大学院ｾﾐﾅｰの日程と内容・参加教員、4.武漢紡織大学からの入学選考時の試験内容、5.担当教員の変更、以上 5 項目を審議し、承認。
平成 28 年 6 月 15 日	1.入学試験科目(専門科目)の出題及び採点者、2.大学院ｾﾐﾅｰでの修了年次生の発表題目と順番、以上 2 項目を確認。3.大学院 FD ﾜｰｷﾝｸﾞｸﾞﾙｰﾌﾟ(以下「W.G」)の活動計画を報告。
平成 28 年 7 月 13 日	1.ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾌｧｯｼｮﾝ専修の事前相談の手続き及び問い合わせ先などの一部変更、2.被服学特別研究の論文審査教員、3.日本学術振興会特別研究員の授業料減免申請者、以上 3 項目を審議し、承認。4.大学院担当教員のﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞの充実について提案。
平成 28 年 9 月 7 日	1.平成 28 年度被服学専攻 1 人の修了判定、2.2017 年度大使館推薦による国費外国人留学生及び研修生受入可否判定、3.研究概要書の様式及び日程、4.学生異動、以上 4 項目を審議し、承認。5.文化祭の展示、6. 大学院活動報告書の進捗状況の 2 項目を報告。
平成28年 10 月 12 日	1.平成 29 年度担当教員の変更について審議し、承認。2.大学ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞにおける教員紹介ﾍﾟｰｼﾞの充実、3.文化祭展示の準備状況、4.大学院 FD W.G の学生ｱﾝｹｰﾄ結果、5.大学院入試 1 期の結果、以上 4 項目を報告。
平成 28 年 11 月 9 日	1.平成 29 年度科目担当教員の変更。2.大学院入学資格への飛び入学追加、3.ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾌｧｯｼｮﾝ専修の被服学特別研究の指導教員、以上 3 項目を審議し、承認。4.文化祭展示会場への入場数及び状況、5.浙江理工大学ﾀﾞﾌﾞﾙﾃﾞｨｸﾞﾘｰの志願者数及び面接試験結果、以上 2 項目を報告。
平成 28 年 12 月 7 日	1.浙江理工大学ﾀﾞﾌﾞﾙﾃﾞｨｸﾞﾘｰの面接試験判定の対応、2.Ensad とのﾀﾞﾌﾞﾙﾃﾞｨｸﾞﾘｰ制度のﾌﾛｰ、3.担当教員の変更、4.修士論文発表会の開催日程、5.浙江理工大学ﾀﾞﾌﾞﾙﾃﾞｨｸﾞﾘｰ学生の修士論文発表会への対応、以上 5 項目を審議し、承認。6.ｼﾗﾊﾞｽﾁｪｯｸの方法と W.G ﾒﾝﾊﾞｰ、7.平成28年、29年度年間行事担当者、以上 2 項目を協議し、決定。8.浙江理工大学ﾀﾞﾌﾞﾙﾃﾞｨｸﾞﾘｰ学生の「ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ研究Ⅰ」の適用については継続検討。
平成 29 年 1 月 25 日	1.修士論文審査教員、2. 平成29年度科目担当教員の変更、3.学生異動、以上 3 項目を審議し、承認。4.浙江理工大学のﾀﾞﾌﾞﾙﾃﾞｨｸﾞﾘｰ入試結果報告、5.平成29年度大学院研究科委員会の日程(案)を提示。
平成 29 年 2 月 21 日	1.平成28年度被服学専攻、生活環境学専攻、国際文化専攻の修了判定及び卒業式の代表を選出、2. 科目担当教員の変更、3.平成29年度「大学院特別講義 A･B」の内容、4.日本学術振興会特別研究員の授業料減免の申請、5.学生異動、以上 5 項目を審議し、承認。
平成 29 年 3 月 1 日	1.科目担当教員の変更、2.学生異動、以上 2 項目を審議し、承認。3.学位規程に関する申合せ事項に指導教員の項目を追加する点について、一部修正のうえ承認。

開催年月日	生活環境学研究科被服環境学専攻委員会の開催記録
平成 29 年 1 月 25 日	1.博士論文 3 件の受理について審議し、2 件を受理決定。2.公聴会・口頭試問日程、3.RA、以上 3 項目を審議し、承認。4.学外指導教員の採用について協議し、規程等整備に向けて継続検討。
平成 29 年 2 月 2 日	1.博士論文 1 件の受理について再審議し、受理決定。
平成 29 年 2 月 21 日	1.研究指導の担当教員について審査し、承認。2.博士論文 1 件の受理を再審査した経緯を報告。
平成 29 年 3 月 1 日	1.博士論文 3 件の最終審査結果、2.平成 28 年度被服環境学専攻 3 人の修了判定、3.科目担当教員の変更、4.RA、5.学生異動、以上 5 項目を審議し、承認。

■検討組織名：国際文化研究科委員会

報告者：野口　京子

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	1．多様な入学希望者に対応すべく、大学院入試の方法の見直しと改善、入学前の教育及び教育内容の整備・充実を図る。 2．大学院 FD ワーキング・グループでの意見を踏まえた施策の試みを行い、教育・研究の成果向上を図る。 3．大学院カリキュラムの内容について、ディプロマ・ポリシーを満たすためのシラバスチェックを行い、教育内容の改善と向上を図る。 4．大学院での教育・研究活動とその成果の外部発信を推進する。国際ファッション文化専修・国際文化専修・健康心理学専修の学際的研究を試み、国際文化研究科の特徴を出すことを目的とする。 5．調査・研究法を、質的・量的両面から捉え、個々の研究分野の研鑽を重視しながら、さらに、継続して、 複合分野の研究の創生・強化を図る。 他専修の大学院担当教員の研究内容、研究方法などを理解して連携の可能性を模索し、共通プロジェクトへ発展させる。 6．留学生の増加に伴い留学生への支援体制を充実させる。 【大】
取組の結果と点検・評価	1．多様な入学希望者に対応すべく、大学院入試の方法の見直しを行い、入学前の教育も一部行った。引き続き入学前の教育及び教育内容の整備・充実を図る必要がある。 2．大学院 FD ワーキング・グループでの意見を各専修の教員に伝え、教育・研究の成果の向上を図るための施策の試みを検討した。 3．大学院カリキュラムの内容について、ディプロマ・ポリシーを満たすためのシラバスチェックを行い、平成 29 年度の教育内容の改善と向上に反映した。 4．修士論文指導、教員研究等で、国際ファッション文化専修・国際文化専修・健康心理学専修の学際的研究を試みたが、その成果の外部発信には至らなかったので継続して今後の課題とする。 5．各自のテーマに合わせた研究法を習得することができるように調査・研究法の科目を設定した。個々の研究分野の研鑽を重視しながら、さらに、課題を質的・量的両面から捉え、複合分野の研究の創生・強化を図る基盤を作った。 6．文化祭や、研修セミナーなどで、留学生同志、日本人、教員との交流の場を多く設け留学生への支援体制を強化した。 【大】
次年度への課題 （平成 29 年度）	1．国際文化専修・国際ファッション文化専修・健康心理学専修それぞれの特徴を持つ人材教育を目指すとともに、専攻や専修の連携を強化し、本学園が掲げる「グローバリゼーション、イノベーション、クリエイション」を反映した社会の多様な要請に応え得る教育プログラムを整える。 2．国際ファッション文化専修の指導体制等の組織的充実化を図る。 3．留学生の増加に伴い、さらにきめ細かい指導の充実に努める。留学生の場合は母国と日本の比較研究のための度々の調査努力も考慮する。 4．教育目的の達成状況を点検・評価するための工夫は、授業の成績評価、修士論文を主にしているが、その他、学生の関連学会報告（口頭発表、ポスター発表）や、研究演習の中での実習も対象とし、ポジティブ・フィードバック、コメントなどを与え、それが次の機会、あるいはレポート等に生かされているかを評価していく。 5．図書館の有効利用、自習室の環境整備、インターネット整備等を図る。従来からの集団・個別指導に加え、さらにオフィスアワー制度を強化して、学生と教職員の議論・交流の場に関する要求に対応した改善を検討していく。授業や研修セミナー以外でも学生と教員の双方向の積極的交流ができるように、学修支援体制を整える。 【大】

■検討組織名：国際文化研究科委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 28 年 4 月 13 日	1．平成 28 年度の大学院の方針、国際文化研究科の方向性を確認した。 2．大学院研究科委員会構成員の確認、修了年次生の指導教員、ﾃｨｰﾁﾝｸﾞ・ｱｼｽﾀﾝﾄ（TA）を確定した。 3．国際文化研究科と生活環境学研究科との連携について検討した。 4．平成 28 年度の各委員会の前年度からの引継及び新規の委員を決定した。
平成 28 年 5 月 11 日	1．平成 28 年度大学院セミナーについて方針を決定した。 2．「大学院特別講義 A・B」及び「生活環境学特別講義 A・B」の統合について討議した。 3．研究指導メンバーを発表した。
平成 28 年 6 月 15 日	1．平成 29 年度大学院入試　出題者及び採点者を決定した。 2．大学院セミナーについて、論文題目及び発表順の確認、見学スケジュール等議論した。 3．大学院 FD ワーキング・グループについて課題となる事項を抽出した。 4．平成 29 年度大学院入試　出題及び採点者を決定した。
平成 28 年 7 月 13 日	1．大学院担当教員のホームページに、教員の研究分野、活動等を加え、大学院を目指す学生への情報提供のより充実化を図ることにした。 2．文化祭展示について、教室、学生総括の担当を決定した。
平成 28 年 9 月 7 日	1．2017 年度大使館推薦による国費外国人留学生（研究留学生）受入可否の判定をした。 2．文化祭の展示について、担当教員より、各研究科の紹介及び修了年次生の研究内容をパネル展示する準備の依頼があり指導教員へ通達した。 3．平成 27 年度大学院活動報告書が完成したことが報告された。
平成28年 10 月 12 日	1．大学ホームページの充実について加筆内容が議論された。 2．文化祭展示準備状況について説明があった。 3．大学院 FD ワーキング・グループ取りまとめ担当者変更が承認された。 4．大学院入試の状況が報告された。
平成 28 年 11 月 9 日	1．担当教員の変更について承認された。 2．学則変更について承認された。 3．研究概要書について締切日を決定した。
平成 28 年 12 月 7 日	1．シラバスについて、申請研究室がシラバス執筆依頼とあわせてチェック後の修正等のフォローも行うことを決定した。 2．平成 28 年度修士論文発表会の開催日と担当者を決定した。
平成 29 年 1 月 25 日	1．平成 28 年度論文審査教員を決定した。 2．科目担当教員の変更について承認した。 3．学生異動について承認した。 4．「大学院特別講義 A/B」について、クリエイティブデザイン分野のテーマを検討した。
平成 29 年 2 月 21 日	1．平成 28 年度国際文化研究科国際文化専攻修了年次生の修了判定を行った。 2．卒業式の代表者を決定した。 3．担当教員の変更について承認した。 4．平成 28 年度修士論文発表会を開催した。
平成 29 年 3 月 1 日	1．担当教員の変更について承認した。 2．学位規程に関する申合せ事項の改定案を承認した。 3．学生異動について承認した。

■検討組織名：文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会開催記録

報告者：濱田　勝宏

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

開催年月日	開催記録	
平成 28 年 4 月 1 日	報告事項 審議事項	１．委員会報告　２．平成 28 年度新入生数について　３．平成 29 年度入試関係について　４．平成 28 年度入学式・保護者懇談会・オリエンテーションについて　５．キャリア形成教育科目「キャリアデザイン（導入編）ーﾌﾚｯｼｭﾏﾝｷｬﾝﾌﾟｰ」打ち合わせについて　６．平成 28 年度総合消防訓練について ７．学生異動について（報告） １．学生異動について　２．科目等履修生・特別留学生入学許可について ３．公欠審議について
平成28年 5 月 24 日	報告事項 審議事項	１．委員会報告　２．平成 29 年度入試関係について　３．キャリアデザイン（導入編）ーﾌﾚｯｼｭﾏﾝｷｬﾝﾌﾟｰ　について　４．学生異動について（報告） １．特任教員について　２．学生異動について　３．研究生入学許可について　４．特待生の継続申請について　５．公欠について
平成28年 6 月 21 日	報告事項 審議事項	１．委員会報告　２．平成 29 年度入学生からの学費改定について ３．平成 29 度入試関係について　４．学生異動について（報告） １．学生異動について　２．研究生・科目等履修生入学許可について ３．公欠審議について
平成28年 7 月 12 日	報告事項 審議事項	１．委員会報告　２．平成 29 年度入試関係について　３．前期定期試験について　４．教員の夏季休暇等について　５．平成 29 年度教員の国内外研修申請について　６．教育改革支援助成金事業について　７．学生異動について（報告） １．学生異動について　２．研究生入学許可について　３．公欠について
平成 28 年 9 月 6 日	審議事項 報告事項	１．委員会　教務委員会　２．学生異動　３．科目等履修生入学許可について　４．公欠審議について １．委員会報告　２．平成 29 年度入試関係について　３．学生会サミット（代議員大会）について　４．科学研究費助成事業について　５．学生異動について（報告）
平成28年 10 月 4 日	審議事項 報告事項	１．委員会　２．学生異動について　３．平成 28 年 9 月卒業について ４．公欠審議について １．委員会報告　２．平成 29 年度入試関係について　３．平成 29 年度教員昇任審査・任期制教員の再任に関する申請について　４．平成 29 年度任期制助手の採用について　５．平成 29 年度副手の採用申請について　６．平成 28 年度卒業式・平成 29 年度入学式日程について　７．文化祭について ８．学生異動について（報告）
平成28年11月 15 日	審議事項 報告事項	１．委員会　２．学生異動について　３．公欠について １．委員会報告　２．平成 29 年度入試関係について　３．文化祭関係報告 ４．学生異動について（報告）
平成28年12月 13 日	審議事項 報告事項	１．委員会　２．学生異動について　３．特別留学生入学許可について １．委員会報告　２．平成 29 年度入試関係について　３．年末年始休暇について　４．学生異動について（報告）
平成 29 年 1 月 6 日	報告事項	１.委員会報告　２．平成 29 年度入試関係について　３．後期定期試験について　４．卒業研究発表会、卒業研究展、短大部合同作品展示等について ５．学生異動について（報告）
平成 29 年 2 月 7 日	審議事項 報告事項	１．委員会　２．学生異動について １．教員異動について［正教授会（第８条教授会）報告］　２．委員会報告 ３．平成 29 年度入試関係について　４．学生異動について（報告）
平成 29 年 3 月 6 日	審議事項 報告事項	１．特任教員・客員教授について　２．委員会　３．学生異動について ４．学則変更について １．委員会報告　２．平成 29 年度入試関係について　３．平成 28 年度卒業式・平成 29 年度入学式について　４．教員春季休暇について　５．新年度のスケジュールについて　６．特別研究員について　７．学生異動について（報告）

■検討組織名：文化学園大学短期大学部教授会開催記録

報告者：濱田　勝宏

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

開催年月日	開催記録	
平成 28 年 6 月 7 日	報告事項	１．認証評価受審について ２．平成 29 年度入試関係 ３．日本ホビーショーについて ４．キャリア形成教育科目（導入編）－フレッシュマンキャンプ－報告 ５．キャリア形成教育科目（展開編）－コースセミナー－について
平成 28 年 7 月 19 日	報告事項	１．平成 29 年度入試関係 ２．キャリアデザイン（展開編）－コースセミナー－報告 ３．学生異動について（報告）
平成28年 12 月 20 日	報告事項	１．平成 29 年度入試関係について ２．公開発表会・合同作品展について ３．大学機関別認証評価同時受審について
平成 29 年 2 月 14 日	報告事項	１．平成 29 年度入試関係 ２．短期大学部服装学科ﾌｧｯｼｮﾝﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝｺｰｽ卒業制作作品・専攻科ﾌｧｯｼｮﾝ専攻修了製作作品展示報告

■検討組織名：教務委員会

報告者：千葉　悦子

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	1．「規程集」各校の見直しと改定及び新規規程案の検討 2．授業日程の調整と検討 3．学生の質の多様化から生じる諸問題の検討及びカリキュラムの見直し 4．「コラボレーション科目」の検討 5．Web シラバス、Web 履修登録に関わる検討 6．進級条件の見直し　【共】
取組の結果と 点検・評価	1．「規程集」各項の見直しと改定及び新規規程案の検討 文化学園大学特別指定校規程(案)、紀要編集専門委員会規程(改定案)、文化学園大学・文化学園大学短期大学部紀要投稿規程(改定案)、文化学園大学卒業研究に関する細則(改定案)、文化学園大学編入学生規程(改定案)、文化学園大学・文化学園大学短期大学部紫友会奨学金規程(案)、文化学園大学・文化学園大学短期大学部紫友会奨学金規程取扱い細則(案)、文化学園大学・文化学園大学短期大学部障害学生修学支援規程(案)、文化学園大学・文化学園大学短期大学部障害学生支援委員会規程(案)、文化学園大学・文化学園大学短期大学部単位履修に関する細則(改定案)、文化学園大学・文化学園大学短期大学部私費外国人留学生授業料減免に関する規程(改定案)、文化学園大学の教員の任期に関する規程（改定案)、文化学園大学短期大学部の教員の任期に関する規程(改定案)、文化学園大学・文化学園大学短期大学部の教員の任期に関する規程細則(改定案)、文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金規程(改定案)、文化学園大学・文化学園大学短期大学部紫友会奨学金規程(改定案)、文化学園大学卒業研究に関する細則、上記の規程について審議し承認後、教授会に提案した。【共】 2．授業日程の調整と検討 平成 28 年度授業日程をもとに､曜日変更の授業日及び祝日授業を減らすことを判断基準として審議を行い、平成 29 年度授業日程を決定した。【共】 3．学生の質の多様化から生じる諸問題の検討及びカリキュラムの見直し 服装学部、現代文化学部、短期大学部のカリキュラム改定案、キャンパス統合に伴う科目種別統一について審議し承認後、教授会に提案した。【共】 4．「コラボレーション科目」の検討 平成 28 年度入学生より、卒業要件を 2 単位に変更した実施状況について確認した。今後も継続して検討を行う。【大】 5．Web シラバス、Web 履修登録に関わる検討 平成 28 年度に実施した Web 履修登録、履修登録メッセージについて各ブロックの意見集約とそれらをもとに改善した。履修取消しについては、前・後期とも Web による取り消しとした。今後、後期開講科目の後期履修登録の導入等について継続して検討し、改善を行う。【共】 6．進級条件の見直し 学生の質の多様化から､平成 28 年度入学生より造形学部で科目履修による進級条件の追加を実施した。今後も確認しながら進級条件の見直しについて継続して、検討を行う。【大】
次年度への 課　　題 （平成 29 年度）	1．「規程集」各項の見直しと改定及び新規規程案の検討 2．授業日程の調整と検討 3．カリキュラムに関する諸問題の検討及び見直し 4．「コラボレーション科目」の検討 5．Web シラバス、Web 履修登録に関わる検討 6．進級条件の見直し　【共】

■検討組織名：教務委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成28年4月19日	1. 新三役の決定　2. 文化学園大学特別指定校規程（案）の検討
平成28年5月10日	1. 教務委員名簿の配布と確認　2. 文化学園大学特別指定校規程（案）の審議　3. 平成28年度委員会開催予定について 4. Web履修システムについて 5.卒業研究の着手要件について　（2　平成28年5月24日 教授会承認）
平成28年6月7日	1. 教務委員会の規程に基づく業務とカリキュラム変更に関するスケジュールの確認 2. Web履修登録に関する各ブロックの意見聴取結果　3. 卒業研究の着手要件について
平成28年7月19日	1. 紀要編集専門委員会規程、文化学園大学・同短期大学部紀要投稿規程（改定案）の審議　2. 文化学園大学卒業研究に関する細則（改定案）の審議　3. 文化学園大学編入学生規程（改定案）の審議 4. 文化学園大学・同短期大学部紫友会奨学金規程（案）、同取扱細則の審議　5. カリキュラム改定（服装学部、学部共通科目）の審議　（1、3、4 平成28年9月6日 教授会承認）
平成28年8月2日	1. 文化学園大学卒業研究に関する細則（改定案）の審議 2. カリキュラム改定（服装学部、短期大学部）の審議（2 平成28年10月4日 教授会認）
平成28年9月13日	1. 文化学園大学卒業研究に関する細則（改定案）の修正案の審議　2. カリキュラム改定（現代文化学部、学部共通科目）の審議　3. 平成29年度Web履修のスケジュールと履修登録エラーメッセージの検討　（1 平成28年10月4日 教授会承認）
平成28年10月18日	1. カリキュラム改定（現代文化学部、学部共通科目）の審議　2. 平成29年度Web履修のスケジュール及び履修登録エラーメッセージの検討 3. 文化学園大学･同短期大学部障害学生修学支援規程（案）の審議 4. 文化学園大学・同短期大学部障害学生支援委員会規程(案)の審議　（1 平成28年11月15日 教授会承認）
平成28年11月22日	1. 文化学園大学・同短期大学部障害学生修学支援規程(案)の審議　2. 文化学園大学・同短期大学部障害学生支援委員会規程(案)の審議 3. LGBTの学生への支援について　4. 平成29年度授業日程表(案)の検討　5. 外国語科目の単位認定について　6. 平成29年度Web履修について　（1、2、4 平成28年12月13日 教授会承認）
平成28年12月20日	1. 平成29年度Web履修について　2. 文化学園大学・同短期大学部単位履修に関する細則（改定案）の審議　3.科目種別名称の変更について　4. LGBT学生支援についての報告　（2、3 平成29年3月6日 教授会承認）
平成29年1月17日	1. 文化学園大学・同短期大学部私費外国人留学生授業料減免に関する規程（改定案）の審議　2. 文化学園大学・同短期大学部奨学金規程（改定案）、文化学園大学・同短期大学部奨学金規程取扱い細則（改定案）の審議　3. 文化学園大学・同短期大学部紫友会奨学金規程（改定案）、文化学園大学・同短期大学部紫友会奨学金規程取扱い細則（改定案）の審議　4. 文化学園大学の教員の任期に関する規程（改定案）、同短期大学部の教員の任期に関する規程（改定案）、文化学園大学・同短期大学部の教員の任期に関する規程細則（改定案）の審議　5. 平成29年度後期履修取り消し及び後期科目履修登録について　（1、4 平成29年2月7日 教授会承認）
平成29年2月10日	1. 文化学園大学学則変更について　2. 後期開講科目履修登録について　（1 平成29年3月6日 教授会承認）
平成29年3月8日	1. 平成28年度文化学園大学・同短期大学部自己点検・評価報告書（案）について 2. 文化学園大学・同短期大学部奨学金規程（改定案）の審議 3. 文化学園大学・同短期大学部紫友会奨学金規程（改定案）の審議　4. 文化学園大学卒業研究に関する細則（改定案）の審議

■検討組織名：学生支援委員会

報告者：佐藤　百合子

提出日：平成 29 年 3 月 28 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	１．共学化及びキャンパス統合に伴う学生支援のあり方 ２．学生の質的変化に対するケアの問題 ３．学内及び周辺の巡回と改善 ４．各種行事内容の見直し ５．新奨励金制度の検討　【共】
取組の結果と点検・評価	１．共学化及びキャンパス統合に伴う学生支援のあり方 3 年に 1 度の学生生活調査を行い、さらにその結果を受け具体的な意見を問うアンケートを実施した。キャンパス統合に起因する問題点は特に見当たらず、愛校心の向上などが確認できた。 共学化後、男子卒業生を出すのは 2 年目であるが、卒業式にて授与する学長賞、成績最優秀賞受賞者に男子学生が多くみられた。また学生会での活躍も顕著で男子学生の学習面、生活面での意識の高さが窺えた。学生への対応に男女の差はないが、圧倒的に女子学生が多い共学の中で存在感を示す男子学生の力を様々な面で支援できたと考える。 ２．学生の質的変化に対するケアの問題 毎月の委員会資料として学生相談室の利用状況を確認している。前年度並みの利用率ではあるが、比較的期末に学業や心身健康に関する相談が増える傾向がみられる。問題点を共有し、学生相談室・教員・学生課などの連携を継続する必要がある。一方学生会の自主的な取組として自己発見セミナーなども開催され、学生による自助努力も確認できた。 ３．学内及び周辺の巡回と改善 文化祭などの行事の際、また年 2 回(1 週間単位で)学内や学園周辺を巡回し、学生のマナーや美化への意識を高めるための声掛けをするとともに改善すべき点の洗い出しと方策を検討。日常的な美化への配慮を学生に根付かせるためにも巡回指導や声掛けは継続的に行う必要がある。学園内駐輪場に関しては未登録の自転車も多く、乱雑になりがちなことから、総合学生生活委員会を通し、継続的に学園全体で対応する必要がある。 ４．各種行事内容の見直し 球技祭を休止して 2 年目になるが、学生アンケートからは再開して欲しいという意見も散見された。開催にあたって協力を要請する球技系クラブの活性化、スポーツコミュニケーションの有効性の理解とともに授業日程上の厳しい現状も踏まえ、引き続き検討の必要がある。 ５．新奨励金制度の検討 前年度からの懸案であった「学生チャレンジプロジェクト助成金制度」を運用開始し、年度末には学生の自主的な研究活動の報告もなされた。その他、同窓会からの奨学金の運用に関しても検討した。【共】
次年度への課題 （平成 29 年度）	１．学生生活の現状把握と学生支援のあり方についての検討 今年度行われた学生生活調査や具体的な内容を問う学生アンケート、さらに教職員からのヒアリング等から学生の現状把握に努め、支援のあり方を検討する。 ２．学生の質的変化に対するケアの問題 新年度に要支援学生の入学も予定されていること等から、教員、職員相互の情報交換と対応の検討。学生相談室や医務室との連携による様々な事例・症例への認識と理解への努力。 ３．学内及び周辺の巡回と改善 より良い環境で大学生活が送れるよう学内外の美化や飲食などのマナー啓発。不審者への対応。 ４．各種行事内容の見直し 本学の特色を生かし、かつ学生の自主性や行動力を高める方向での見直しの検討。【共】

■検討組織名：学生支援委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成28年4月19日	１．委員会三役選出　２．学生会リーダーズトレーニングについて　３．まなびのコミュニティ勉強会について　４．熊本地震で被災した学生及び家族の安否確認について　５．第17回学生生活調査について　６．新入生オリエンテーションでの特別講演について
平成28年5月31日	１．年間活動方針と行事予定　２．文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金選考について　３．緑道・学内巡回指導について　４．新入留学生懇談会について　５．学生相談室報告　６．総合学生生活委員会報告　７．学生チャレンジプロジェクト助成金制度について　８．文化学園大学・文化学園大学短期大学部紫友会奨学金について
平成28年6月28日	１．文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金について　２．緑道・学内巡回指導報告　３．健康診断結果報告　４．学生相談室報告　５．学生チャレンジプロジェクト助成金制度について　６．新入留学生懇談会について
平成28年7月26日	１．第17回学生生活調査について　２．新入留学生懇談会結果報告　３．私費外国人留学生授業料減免について　４．クラブ部員数について　５．学生相談室報告　６．学生チャレンジプロジェクト助成金制度について　７．総合学生生活委員会報告
平成28年9月27日	１．第17回学生生活調査について　２．学内巡回指導について（文化祭期間中） ３．学生チャレンジプロジェクト助成金制度について　４．学生相談室報告 ５．文化学園大学・文化学園大学短期大学部紫友会奨学金について
平成28年10月25日	１．緑道・学内巡回指導について　２．学生生活調査アンケート（案）について ３．学生チャレンジプロジェクト助成金制度について　４．学生相談室報告 ５．総合学生生活委員会報告　６．日本学生支援機構「学生生活調査」について
平成28年11月22日	１．クラブリーダーズトレーニングについて　２．第17回学生生活調査について ３．学生相談室報告　４．緑道・学内巡回指導について
平成28年12月20日	１．緑道・学内巡回指導報告　２．平成28年度自己点検・評価報告書について ３．文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金規程、文化学園大学・文化学園大学短期大学部私費外国人留学生授業料減免に関する規程について　４．学生相談室報告 ５．デートDV防止啓発講座について　６．「あなたの声を聞かせてください」アンケート結果報告７．文化学園大学・文化学園大学短期大学部紫友会奨学金選考結果報告
平成29年1月24日	１．クラブリーダーズトレーニングについて　２．デートDV防止啓発講座について ３．平成28年度自己点検・評価報告書について　４．学生相談室報告 ５．平成29年度文部科学省外国人留学生学習奨励費応募者面接について
平成29年2月17日	１．クラブリーダーズトレーニングについて　２．文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金規程について　３.学生チャレンジプロジェクト助成金制度結果報告書について　４．平成28年度自己点検・評価報告書について　５．学生相談室報告 ６．総合学生生活委員会報告　７．デートDV防止啓発講座について

■検討組織名：研究委員会

報告者：安永　明智

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	１．大学の知の開放の場としての教員研究作品展の新たな位置づけと学内研究発表会など既存の研究発表活動等との連携にむけた検討 ２．大学の知の開放の場としての公開講座の継続的かつ効果的な実施のための検討 ３．研究委員会の目的の再確認を行い、組織や審議事項の見直しを行う。【共】
取組の結果と点検・評価	１．大学の知の開放の場としての教員研究作品展の新たな位置づけと学内研究発表会など既存の研究発表活動等との連携にむけた検討【共】 (1) 平成 28 年度「第 31 回教員研究作品展」は、オープンキャンパス（6 月 12 日）に合わせて、平成 28 年 6 月 10 日～12 日に、スペース 21（C 館 20 階）で開催した。結果として、来場者数の増加（平成 28 年度 1288 人、平成 27 年度 1248 人）につなげることができた。出展作品数は 43 点（平成 27 年度 45 点）であった。 (2) 今後の教員研究作品展のあり方や学内研究発表会との合同開催などについて、大学の研究推進に関わる他の事案と合わせて検討した。この事案は引き続き検討していく必要がある。 ２．大学の知の開放の場としての公開講座の継続的かつ効果的な実施のための検討【共】 (1) 平成 29 年 1 月 11 日に平成 28 年度文化学園大学特別公開講座『文化・ファッションテキスタイル研究所所長宮本英治氏による「伝統の技を革新する技術」』を開催した。 (2) 平成 28 年度公開講座は、文化庁が支援する 21 世紀鷹峯フォーラム in 東京「工芸を体感する 100 日間」と連携して実施した。公開講座の参加者数は、昨年と比較し微増の（129 人、前年比＋6 人）であった。参加者の傾向は、高齢かつ継続して参加している人が多く、今後は新規の参加者（特に若い世代）を増やす方策について検討する必要がある。 (3) 学園内の関連施設との連携は検討の余地がある。引き続き、有機的に連携できる方法を検討する必要がある。 ３．研究委員会の目的の再確認を行い、組織や審議事項の見直しを行う。【共】 (1) 研究活動の活性化を目指した組織編成のあり方や委員会で審議すべき事項について検討した。平成 30 年度に向けて、関連する委員会の統合を含めた大学の研究推進体制の整備に関する検討を始めている。 (2) 学内の研究活動の活性化に向けた研究関連予算のあり方について検討した。今後、教員の研究活動に対してより効果的な支援となるような教員研究費、研究室図書費（研究室配分・重点配分）のあり方について検討していく必要がある。
次年度への課題 （平成 29 年度）	１．大学の研究活動の活性化に関する課題 (1) 研究活動の活性化に向けた研究組織体制のあり方に関する検討 (2) 研究活動の活性化に向けた研究関連予算のあり方に関する検討 ２．教員研究作品展に関する課題 (1)「地域・社会への大学の知の開放」「研究作品の広報活動の場」の役割を果たすべき教員研究作品展のあり方に関する検討 (2) 来場者に対して研究作品に関する内容（教員の専門分野や素材、制作方法等）が伝わるような展示方法の検討 ３．特別公開講座に関する課題 (1)「地域・社会への大学の知の開放」「大学の地域・社会貢献」の役割を果たすべき特別公開講座のあり方に関する検討 (2) 生涯教育の場としての若い世代を含めた幅広い世代の受講者の参加を促すような特別公開講座のあり方に関する検討【共】

■検討組織名：研究委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成28年4月19日	1．平成28年度三役の決定 2．平成28年度小委員会の役割分担の決定
平成28年5月17日	1．学外共同研究申請（2件）の審議（委員会承認）（平成28年5月24日教授会承認） 2．平成28年度（第31回）教員研究作品展の準備に係る検討 3．平成28年度研究委員会で取り扱う事案に係る意見交換
平成28年6月14日	1．学外共同研究申請（1件）の審議（委員会承認）（平成28年6月21日教授会承認） 2．平成28年度研究室図書費に関する事案の審議（配分額について委員会承認）（平成28年6月21日教授会承認） 3．平成28年度文化学園大学特別公開講座の準備に係る検討 4．平成28年度（第31回）教員研究作品展に係る報告（来場者数、改善点等）
平成28年7月5日	1．平成28年度文化学園大学特別公開講座の準備に係る検討（講師等の決定）
平成28年9月27日	1．学外共同研究申請（3件）の審議（委員会承認）（平成28年10月4日教授会承認） 2．平成28年度文化学園大学特別公開講座の準備に係る検討（開催日程等の決定） 3．平成27 年度文化学園大学特別公開講座アンケート調査結果の報告 4．平成28年度研究室図書費重点配分の申請状況の報告
平成28年11月1日	1．研究室図書費重点配分（申請図書の購入可否について）の審議（委員会承認）（平成28年11月15日教授会承認） 2．平成28年度文化学園大学特別公開講座の準備に係る検討 3．学内の研究の活性化に係る意見交換
平成28年12月6日	1．平成 28 年度文化学園大学特別公開講座の準備に係る検討（当日スケジュール、役割分担等の決定） 2．平成29年度（第32回）教員研究作品展の準備に係る検討 3．平成29年度研究委員会予算案の検討 4．平成28年度研究室図書費重点配分に係る検討 5．研究委員会、紀要編集専門委員会の再編に係る意見交換
平成29年1月17日	1．平成29年度（第32回）教員研究作品展の準備に係る検討（開催日程及び場所の決定） 2．平成29年度研究委員会予算案の検討 3．平成28年度文化学園大学特別公開講座の報告（来場者数等） 4．平成28年度研究室図書費重点配分に係る報告（図書の納品チェックの状況等） 5．研究委員会、紀要編集専門委員会の再編に係る意見交換
平成29年2月28日	1．学外共同研究申請（2件）の審議（委員会承認）（平成29年3月6日教授会承認） 2．平成29年度（第32回）教員研究作品展の準備に係る検討 3．平成29年度文化学園大学特別公開講座の準備に係る検討（講師等の決定）
平成29年3月23日	1．学外共同研究申請（1件）の審議（委員会承認） 2．平成28年度自己点検・評価報告書の確認

■検討組織名：入試対策委員会

報告者：佐藤　浩信

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成28年度）	1．平成 28 年度オープンキャンパス・文化の授業体感フェア・サマーオープンカレッジ実施と結果の検討 2．教員による高校訪問の実施と結果の検討 3．小中学生のための夏休み体験講座の実施と結果の検討 4．平成 29 年度オープンキャンパスのあり方の検討　【共】
取組の結果と点検・評価	1．オープンキャンパスは、周知しやすい名称を用いて 6 回開催した（文化祭及び進学相談会 3 回を除く）。平成 27 年 4 月のキャンパス統合後はプログラムを一新して、全学科の時間進行プログラムを同一にして実施し、大学の全体像を把握の上で各学科の特徴を理解できるような工夫を行った。また学科説明会では各学科教員による教育趣旨説明に加え、学生による特徴の解説を行うことで、教育内容と学生生活の実態が見えるよう内容の充実を図った。結果、総来場者数は増加し、前年度比で 8.6%増であった。文化の授業体感フェアでは、授業を公開し来校者へ多くの授業の雰囲気を体験してもらうことを目的とし 7 月 23 日に実施した。結果、前年度比で 22.6%増であった。大型イベントとなるファッションショーと同時開催であることに加え、電子媒体の利用による的確な学校情報を収集のうえで、実体験を通した大学選びがなされているようである。公開授業の形式や時間配分などについて委員会において議論を行い、平成 28 年度からファッションショーの開催時刻の見直しを行い、できるだけ多くの授業内容を見学できるよう配慮したところ、高校生の講座への滞在時間が長くなった。サマーオープンカレッジは 8 月 4 日～8 月 6 日の開催日 3 日で行われた。結果、受講者数は前年度比で 2.8%の減少であった。高校生にとって魅力的な講座内容やわかり易いパンフレット構成等、入学志願者の獲得につながる工夫を行う必要がある。 2．平成 24 年度より全学的・組織的に実施している。結果、一都三県を中心に講師以上の専任教員が訪問した。訪問高校数は教員 1 人あたり 2～3 校とし、高校訪問の質の確保に努めた。 訪問後の報告書は今後の学生募集活動への有益な情報が多く、平成 29 年度も継続実施していく。 3．平成 25 年度より中長期的な学生募集戦略として、全学的・組織的に小中学生をターゲットとした体験講座を実施した。結果、3 講座開講された。参加者アンケートは概ね好評だったが、小学 3～5 年生が参加者の多くを占め、夏休みの自由研究課題の対策として親子で参加する様子も見られた。この取組の社会的意義は大きいが、現況を踏まえた効果的かつ直接的な学生募集活動への専念の必要性があることから、平成 29 年度の学生募集活動としての実施は見送ることとした。 4．入試のあり方の検討の一部として、平成 28 年度オープンキャンパスの実施内容を踏まえ、AO 受験希望者をはじめ入学志願者を確実に出願へつなげる工夫について継続的に検討を行った。結果、在学生の直接的な参加を促し、活躍する様子を可視化することでキャンパス及び学生生活の雰囲気がより伝わる工夫を行っていくこととした。　【共】
次年度への課題 （平成29年度）	1．平成 29 年度オープンキャンパス・授業公開・サマーオープンカレッジ実施と結果の検討 2．教員による高校訪問の実施と結果の検討 3．入学事前教育プログラムに関する検討 4．平成 30 年度オープンキャンパスのあり方の検討　【共】

■検討組織名：入試対策委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成28年4月19日	１．オープンキャンパスについて（平成28年度の全体像の把握、初回開催の確認）　２．高校訪問について（訪問時期、持参資料、ポスター原案）　３．小・中学生夏休み体験講座について（平成28年度の実施時期及び依頼の確認）
平成28年5月10日	１．オープンキャンパスについて（5月開催回の内容確認等）　２．高校訪問について（訪問高校の調整、リーフレットとポスター確認）　３．入学事前教育プログラムについて（平成28年度生の受講状況確認と平成29年度内容確認）　４．高校教員対象説明会について（内容確認）
平成28年6月14日	１．オープンキャンパスについて（5月開催回の状況報告、問題点等）　２．平成28年度入学事前教育プログラムの結果報告　３．小・中学生夏休み体験講座について（実施内容・募集時期の確認）４．文化の授業体感フェアについて（内容確認）　５．高校教員対象説明会について（報告）６．杉並高校1年大学見学会について（報告）
平成28年7月26日	１．文化の授業体感フェアについて（開催報告、問題点等）　２．オープンキャンパスについて（来訪者へのフォロー施策検討、アンケート報告）　３．サマーオープンカレッジについて（申込状況報告と改善）　４．平成29年度入学事前教育プログラムについて（各学科の実施内容の確認）５．小・中学生夏休み体験講座について（応募状況等）　６．高校訪問（各学科実施報告）
平成28年9月21日	１．AO入試1期について（出願可否結果の報告）　２．オープンキャンパスについて（8月実施回の状況報告、10月実施回の内容、文化祭時の対応等）　３．サマーオープンカレッジについて（出席状況・アンケート報告）　４．小・中学生夏休み体験講座について（実施状況の確認）　５．高校訪問について（報告書のとりまとめ等）　６．平成29年度入試日程について（確認）
平成28年10月25日	１．平成28年度オープンキャンパス、サマーオープンカレッジ、小・中学生夏休み体験講座について（検討課題の確認）　２．高校訪問について（結果の意見交換、次年度への検討）
平成28年11月22日	１．推薦入試、留学生入試1期について（出願状況の報告）　２．平成29年度オープンキャンパス、サマーオープンカレッジについて（日程、内容、アンケート質問項目の検討）３．小・中学生夏休み体験講座について（開催の有無について検討）
平成28年12月21日	１．進学相談会について（12月実施回開催報告）　２．平成29年度オープンキャンパス、サマーオープンカレッジについて（日程案の確定、内容案の確定）　３．小・中学生夏休み体験講座について（開催の有無について検討）
平成29年1月17日	１．進学相談会について（2月実施回内容確認）　２．平成29年度オープンキャンパスについて（各学科実施内容の検討）　３．平成29年度サマーオープンカレッジについて（パンフレット原稿依頼内容等）　４．学校見学希望者の対応について（対応数と内容の報告）
平成29年2月14日	１．進学相談会について（2月実施回開催報告、3月実施回内容報告）　２．平成29年度オープンキャンパスについて（内容、公開授業の呼称の検討）　３．入学事前教育プログラムについて（申込み状況報告）　４．平成29年度サマーオープンカレッジについて（開催講座確認）　５．平成29年度小・中学生夏休み体験講座について（実施についての確認）６．平成29年度入試「特待生」決定数の報告
平成29年3月21日	１．2017年度入試結果について　２．2017年度高校訪問について（持参資料：リーフレット・ポスターの内容確認、訪問校選定の基準等）　３．「文化の授業体感フェア」の名称について（新名称の決定）　４．「小・中学生夏休み体験講座」について　５．3月25日進学相談会について（予約状況の報告）

■検討組織名：就職委員会

報告者：丸茂　みゆき

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	１．インターンシップの学生関心度アップと企業開拓 研修先でトラブルの無いよう事前教育を徹底する。低学年も出席しやすい公開報告会とインターンシップ学生の講話等の実施を検討する。ブライダル関連企業の開拓が必要。インターンシップ制度の多様化に伴う対策の検討。短大部専攻科は必修科目として２年目となり、学部に合わせ充実した内容を検討する。【共】 ２．就職・キャリア支援 (1) 就職支援　①担任・副担任と連携し就職活動に消極的な学生の指導を強化する。②就職講座等を周知徹底し出席率の向上をはかる。③就職活動時期短期化に伴う情報収集・分析と、それらにあわせた学生支援を徹底する。④他学部との連携と、一方で各学部独自の方向性を模索し差別化を行う。⑤短大生は就職講座の出席率を上げ、内定率向上を目指す。 (2)　キャリア支援　　現代文化学部の新カリキュラム改善点の洗い出しを行う。【共】
取組の結果と点検・評価	１．インターンシップの学生関心度アップと企業開拓 事前教育に力を入れた結果、研修先の迷惑となるようなトラブルは無かった。公開報告会は発表項目の検討により、バリエーションのある報告が増えたことで、低学年にも聞きやすい内容となった。ブライダル関連企業の開拓が進んでおらず、今後も継続して行う必要がある。インターンシップ多様化対策の検討は、従来のインターンシップの役割が十分にあるため、現状で良いと判断したが、自己開拓で行う学生も増加傾向にあるため、検討を継続することとした。短大部専攻科は必修科目のため、全員が実施し企業からの評価も概ね好評であった。【共】 ２．就職・キャリア支援 (1) 就職支援　①担任・副担任と連携し消極的な学生の指導強化を行ったが、全体的な意識向上には至らなかった。②就職講座等では担任・副担任へメール、学生へ Gmail の配信、さらに実習室に掲示と個人面談での出席促し等を周知徹底した。改善の兆しは見えたが長続きしない傾向があった。③就職活動時期短期化に伴い、企業訪問を通して情報収集を行い、学生にフィードバックした。④各学部の小委員会からの報告により、それぞれの専門分野に沿った就職活動状況と支援の方向性を理解した。⑤短大生の就職講座出席率は 80～90%を維持できたが、必ずしも就職率向上には繋げられなかった。 (2) キャリア支援　授業における実践科目及びチームで当たる科目の充実を検討し、就職支援に結びつけた。いずれにおいても継続して検討を行うこととする。【共】
次年度への課　題 （平成 29 年度）	１．インターンシップの学生関心度アップと企業開拓 ①研修先でのトラブルが無いよう事前教育を継続して徹底する。特に喫煙マナーについての検討が必要。②インターンシップ制度の多様化に伴い日程や単位などの検討を行う。③公開報告会の内容に関して、発表時間やグループ発表数の検討を行う。④コース単位報告会は効果を考え、年間スケジュールに盛り込みやすい時期を検討する。【学】 ２．就職・キャリア支援 (1) 就職支援　①担任・副担任と連携し、就職活動に消極的な学生指導の強化に取り組む。②就職講座出席向上のため、次の取組を強化する。（担任・副担任へメール、学生へ Gmail、実習室に掲示、個人面談での出席促し、講座の実践的ネーミング検討、スケジュールの見直し）③就職活動時期の変化に伴う情報収集及び分析を行い支援の具体案を検討する。④アパレル業界以外の企業開拓を行う。⑤短大生は就職講座出席率 80～90%の維持と、就職率向上を目指す。【共】 (2) キャリア支援　キャリア形成教育科目との連携として、企業見学実施への協力を行う。【短】

■検討組織名：就職委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 28 年 5 月 17 日	１．各小委員会活動報告 ２．平成 28 年度就職委員会活動計画について ３．就職状況及び学生の活動状況について ４．その他
平成 28 年 6 月 28 日	１．小委員会活動報告（服装・現代文化・短大部：インターンシップ／造形：インターンシップ、就職支援、キャリア支援） ２．平成 28 年度就職委員会活動計画について ３．就職状況及び学生の活動状況について ４．その他
平成 28 年 7 月 19 日	１．各小委員会活動報告（服装：自己点検・評価、インターンシップ、就職・キャリア支援／造形：キャリア支援計画、インターンシップ報告会、進路調査項目／現代文化：インターンシップ） ２．就職状況及び学生の活動状況について ３．その他
平成28年 10 月 11 日	１．各小委員会活動報告（造形：インターンシップ公開報告会／現代文化：インターンシップ履修、就職講座） ２．就職状況及び学生の活動状況について ３．その他（インターンシップ研修日数、就職ノート活用方法）
平成28年 11 月 22 日	１．各小委員会活動報告（服装：インターンシップ公開報告会・研修期間／造形：インターンシップ研修期間／現代文化：就職講座出席率／短大部：企業見学） ２．就職状況及び学生の活動状況について ３．その他（インターンシップ研修期間・単位認定、次年度就職講座スケジュール）
平成 29 年 1 月 7 日	１．各小委員会活動報告（服装：就職講座スケジュール／造形：就職講座出席率、文化祭時アンケート／現代文化：インターンシップ研修日数／短大部：企業見学グループ発表） ２．就職状況及び学生の活動状況について ３．その他（平成 28 年度自己点検・評価報告書、春季就職講座、平成 29 年度インターンシップスケジュール）
平成 29 年 2 月 14 日	１．各小委員会活動報告（服装：インターンシップ関心度、就職・キャリア支援、次年度課題／造形：インターンシップ関心度・研修態度、就職・キャリア支援／現代文化：インターンシップ企業開拓、就職講座出席状況、カリキュラム改善点／短大部：就職状況、企業見学時期） ２．就職状況及び学生の活動状況について ３．その他（企業懇談会、学内合同企業セミナー）

■検討組織名：研究倫理委員会

報告者：濱田　勝宏

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	1．教員、大学院生及び学部学生の倫理規程の周知に努め、不測の事態を招来しないよう委員会としても対応を強化する。 【共】
取組の結果と点検・評価	1．「研究倫理啓発のために」と題し、本委員会（大学院生活環境学研究科長）による講演会を開催し、研究倫理に関するガイドラインの周知に努めた。 2．「学内管理職研修会」のテーマのひとつに「研究倫理」をとりあげ、学内周知をさらに図ることとした。 【共】
次年度への課題 （平成 29 年度）	1．教員・大学院生及び学部学生の研究の広域化を前提に、倫理規程の周知と新たな事態の対応に努めるべく、活動を強化する。 【共】

開催年月日	講演会の開催記録
平成28年 7 月 12 日	研究倫理啓発のための講演会 文部科学省「研究活動における不正行為の対応等に関するガイドライン」において、研究活動の不正行為を防止するために義務づけられている研究倫理教育活動を行った。 テ ー マ：研究倫理啓発のために 講 演 者：研究倫理委員会委員・本学大学院生活環境学研究科長 出 席 者：助手を含む全教員 講演時間：約 1 時間

開催年月日	研究倫理委員会の開催記録
平成28年 7 月13日	1．研究倫理審査について 博士前期課程在学中の大学院生の審査を行い承認した。 2．新委員について 健康管理センターに所属する教員に異動があったため、規程に基づき審議し新委員を承認した。

平成 28 年度の倫理申請審査について

教員　27 件　　学生　8 件　　以上、計 35 件の迅速審査を行った。

■検討組織名：研究活動不正防止委員会

報告者：濱田　勝宏

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	1．研究活動不正防止に係る各規程に基づき、不正防止対策の実行に努める。 【共】
取組の結果と点検・評価	1．各規程に基づき、以下の研究活動不正防止のための教育を実施した。 (1) 大学院生を対象にした研究倫理教育 (2) コンプライアンス研修会 (3) 研究倫理研修会 コンプライアンス研修会に関しては、アンケートで受講者の理解度を確認し、全員が「よく理解できた。」と回答した。 2．研究活動不正防止対策の実施状況の確認 研究活動不正防止のための教育、内部監査、誓約書の徴取などの実施状況を確認し、結果としては特段の問題はなかった旨を確認した。 【共】
次年度への課題 （平成 29 年度）	1．継続して研究活動不正防止に係る各規程に基づき、不正防止対策の実行に努める。 2．文部科学省の通達等を踏まえて、より実効性のある不正防止対策を検討する。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成29年 2 月 28 日	1．平成 28 年度　不正防止計画の実施状況について 2．不正防止計画について 3．その他

開催年月日	研修会等の開催記録
平成 28 年 4 月 8 日	〈大学院生を対象にした研究倫理教育〉 1．研究活動と研究を取り巻く背景 2．誠実な研究を行うための諸規程 3．不正行為とは 4．実験ノート、調査ノートの取り方
平成28年 6 月 21 日	〈コンプライアンス研修会〉 1．不正をした研究者への措置 2．不正事例について（プール金、カラ出張等）
平成28年 7 月 12 日	〈研究倫理研修会〉 1．研究不正行為とは 2．海外から見た日本の研究者 3．責任ある研究活動

■検討組織名：ハラスメント防止委員会

報告者：永野　順子

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	１．平成 27 年度に委員会が受けた 2 件の事案がアカデミック･ハラスメントであったことを受けて、アカデミック・ハラスメント事案への対応の検討を行う。 ２．相談員研修において、相談窓口、調査小委員会におけるマニュアル（細則）の確認を行い、相談受付、調査行為をさらに確実に遂行する。 ３．教職員全体に対し、引き続きハラスメント防止への意識啓発をはかる。【共】
取組の結果と 点検・評価	〈取組の結果〉 １．アカデミック・ハラスメントへの対応ついて、結論としては、あくまでも「防止」に努めることが活動の中心であるべきとの確認のもと､全学 FD 委員会主催の年度初めの研修会において、アカデミック・ハラスメント防止への協力を要請した。 ２．キャンパス統合が図られたことから、委員会に設置される「調査小委員会」のメンバーを、より適したメンバー構成に組み直した。それに伴い、マニュアル（細則）の再確認を行った。 ３．新入生全員に対し「リーフレット」を配布し、ハラスメントへの意識啓発とそれに対応した委員会の活動について広報した。また、教職員全体に対し、ハラスメント防止への意識啓発をはかるために、「2015 年～2016 年上半期　大学関係ハラスメント事例と処分」と題する文書を各研究室に配布した。 教職員に対しハラスメント防止の意識啓発へ一層の協力を求めた。 ４．平成 28 年度に本委員会が受けたハラスメント事案は 0 件であった。 〈点検評価〉 平成 28 年度に課題として設定した事項は、概ね達成することができた。結果として平成 28 年度の取扱案件が 0 件であったことは、ハラスメント防止活動の一定程度の成果であったと考える。【共】
次年度への 課　　題 （平成 29 年度）	１．委員会が「ハラスメント防止委員会」に発展的に改称してから10年以上が経過したことから、記録の廃棄年度を越えており、これを記載した「申し送り事項」等の再検討を行う。併せて今後の委員会のありかたについて検討を行う。 ２．平成29年度相談員研修について、学園内の他の学校との合同開催の可能性について検討する。 ３．教職員全体に対し、引き続きハラスメント防止への意識啓発をはかる。【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 28 年 4 月 4 日	委員長より全教職員(含：非常勤)へのお願い：全学 FD 委員会主催の研修会 １．アカデミック・ハラスメント抑止への協力要請と意識啓発について ２．「ハラスメント対応のフローチャート」の一部改正についての確認
平成 28 年 4 月 5 日	リーフレット「NO Harassment!」の配布 １．全新入生にリーフレットを配布 ２．新任の全非常勤講師にリーフレットと共にハラスメント防止への協力要請文を送付
平成28年 7 月 26 日	１．「2015 年～2016 年上半期　大学関係ハラスメント事例と処分」の研究室回覧について ２．平成 28 年度の本委員会の活動について (1) ハラスメント「調査小委員会」の構成について (2) 平成 28 年度相談員研修会について ３．平成 27 年度のハラスメント案件について最終結果報告 ４．その他
平成29年 2 月 27 日	１．平成 28 年度の本委員会の活動報告 ２．平成 28 年度の「自己点検・評価報告書」の内容確認

■検討組織名：建築・インテリア系資格専門委員会

報告者：谷口　久美子

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	1．在学生の資格取得支援対応策の継続 近年、在学生の資格試験受験者及び合格者ともに減少傾向にあることから、例年実施している資格対策講座(コラボレーション科目 3 講座、課外授業 3 講座)について、開講するかどうか､また開講する場合の実施方法について再検討する。【大】 2．卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続と PDCA サイクルの構築【大】
取組の結果と 点検・評価	1．在学生の資格取得支援対応策の継続 例年実施している資格対策講座(コラボレーション科目 3 講座､課外授業 3 講座)について、開講するかどうか、また開講する場合の実施方法について再検討した。 特に課題であったインテリアコーディネーター資格試験対策講座については､平成 28 年度から試験的に受講者の選抜テストを導入した結果、平成 28 年度は合格者が増加した。その他の福祉住環境コーディネーター、商業施設士についても合格実績があることから、課外授業 3 講座については平成 29 年度以降も継続することとし､実施方法については担当教員が検討することとなった。またコラボレーション科目として開講する 3 講座（インテリアプランナー、マンションリフォームマネジャー及びキッチンスペシャリストの資格試験対策）については、直接合格実績に結び付かなくとも、資格への関心や意欲を高める効果がみられるため、今後も継続的に実施することとした。【大】 2．卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続と PDCA サイクルの構築 例年通り、在学生についてはオリエンテーション時に、卒業年次生については 3 月卒業時に建築・インテリア系資格の受験及び資格取得状況について調査した。また卒業生の建築士資格取得について、平成 28 年 4 月に発行される紫友会報に案内を同封した。調査結果は学科会議において報告しているが、今後の調査データの活用などについては、平成 29 年度の継続課題とする。【大】
次年度への 課　　題 （平成 28 年度）	1．卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続と PDCA サイクルの構築【大】 2．建築・インテリア学科のコース編成及びカリキュラムの変更に伴う、商業施設士補のカリキュラム認定申請【大】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 28 年 9 月 9 日	1．建築・インテリア系資格対策講座について 平成 29 年度に向けた検討のため、今年度実施の資格対策講座(コラボレーション科目 3 講座、課外授業 3 講座)の現状確認を行った。
平成28年 9 月 16 日	1．建築・インテリア系資格対策講座の次年度開講について 平成 29 年度の資格対策講座の開講及び実施方法について検討した。 2．商業施設士補のカリキュラム認定について

■検討組織名：文化・語学研修専門委員会

報告者：加藤　薫

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	１．文化・語学研修 (1)「文化・語学体験プログラム(欧州)」の内容について、現代文化学部としての教育方針、及び学生のニーズを踏まえ、内容の検討を行う。 (2)「文化・語学体験プログラム(国内)」の内容について、今年度の学生の参加状況をにらみつつ、次年度以降の研修のあり方を探っていく。 ２．海外留学 参加を希望する学生に対する事前審査のあり方を検討する必要がある。意欲のある学生の参加を促す一方で、安易な留学を防ぐようバランスを考え、事前審査のあり方を確立する必要がある。【大】
取組の結果と点検・評価	１．文化・語学研修 (1)「文化・語学体験プログラム(欧州)」に関しては、学生のニーズ及び社会情勢等を踏まえて、削除されることになった。 (2)「文化・語学体験プログラム(国内)」に関しては、催行人数に満たなかったため休講となった。 ２．海外留学 事前審査のあり方を整備し、１回の面接を日本語による面接及び英語による面接の計２回実施するよう変更した。また、日本語による面接時には、メンタル面のチェックも行うようにした。 面接と担任による推薦書等においても、留学希望の学生の平常時の学習態度等を把握する体制をとることとした。【大】
次年度への課題 （平成 29 年度）	１．文化・語学研修 「文化・語学体験プログラム(国内)に関しては、これまでの状況に鑑み、プログラムのあり方を大幅に変えることも視野に入れ、検討していく。 ２．海外留学 (1) 事前審査のあり方について改善後の状況によっては引き続き検討を行い、意欲のある学生の参加を促す一方、安易な留学を防ぐようにする。 (2)「誓約書」の書式について、社会情勢等の変化を踏まえ、見直しを行う。【大】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 28 年 9 月 6 日	国際ファッション文化学科にて決定された「文化・語学体験プログラム(欧州)」を科目削除することを当委員会としても了解した。
平成28年10月 11 日	文化学園大学留学規程に基づくカナダへの留学における単位認定(2 件)ついて審議を行い、承認した。(平成 28 年 11 月 21 日教授会承認)
平成28年11月 15 日	文化学園大学留学規程に基づくカナダへの留学の申し出に関して検討し、保留とした。
平成28年11月 29 日	文化学園大学留学規程に基づくカナダへの留学の申し出（保留）に関して再審議を行い、承認した。(平成 29 年 1 月 9 日教授会承認)

■検討組織名：日本語教員養成課程専門委員会

報告者：齊藤　眞理子

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	１．服装学部と造形学部からの履修者への対応 当該学部の学生は専門科目を他学部・他学科履修で対応している。履修し続けてもらうための方策を検討する。 ２．平成 28 年度の日本語教員養成課程履修者を増やすための方策の検討 多くの学生に周知するための方策を検討する。【大】
取組の結果と点検・評価	１．服装学部と造形学部からの履修者への対応 服装学部・造形学部１年次の履修者について、現在のところ順調に履修を続けていることを確認。 ２．平成 28 年度の日本語教員養成課程履修者を増やすための方策の検討 服装学部・造形学部の履修ガイダンスにおいて本課程の履修ガイダンス開催について連絡をしてもらった。本課程の 2 回の履修ガイダンスにはそれぞれ 8 人の学生が集まり、有効性を確認した。 ３．課程専門科目の開講年次の変更 3 年次開講の「日本語教授法Ⅰ」を平成 29 年度より 2 年次開講とすることとした。4 年次開講の「日本語教育実習」が就職活動や国際ファッション文化学科の卒業イベントと時期が重なるため、実施時期を見直した。 ４．平成 29 年 8 月 1 日施行の「日本語教育機関の告示基準解釈指針」（新指針）への対応を検討。新指針に対応するには履修方法と修了証の見直しが必要であることを確認した。【大】
次年度への課題 （平成 29 年度）	１．新指針に基づき、履修方法の見直しを行う。 ２．新指針に基づき、修了証記載内容の見直しを行う。 ３．引き続き、服装学部と造形学部からの履修生の状況を確認する。 ４．平成 29 年度「日本語教育実習」の実習方法を検討する。【大】

開催年月日	会議等の開催記録
平成28年 4 月 10 日	１．各委員の今年度の履修者の状況を確認。
平成28年 9 月 30 日	１．3 年次履修者の課程履修取消の状況を報告。
平成28年11月 22 日	１．文化庁文化部国語課・文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室 2016 年 11 月 11 日付「法務省による日本語教育機関の告示基準の策定に伴う法務省告示日本語教育機関の要件に該当する「日本語教育に関する課程」について（ご連絡）」について対応を検討。
平成 29 年 3 月 1 日	１．平成 28 年度課程修了者なしを確認。

■検討組織名：衣料管理士課程専門委員会

報告者：永井　伸夫

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成28年度）	1. テキスタイルアドバイザー(TA)実習について (1)「テキスタイルアドバイザー実習」の授業内容を充実させ、実習に反映させていく。 (2) 4年次における就職活動をより活発にするため、実習時期を3年次に移行することを念頭に、実習先機関との対応を含めて実習時期の検討を行う。 ２．カリキュラムについて (1) 教育内容の充実のため、開講推奨科目への対応と選択科目の増設等、さらなる検討を行う。 (2) ファッションクリエイション学科とする学科名変更に伴い、衣料管理士の教育課程のあり方が問われる中、学生の要望を敏感に捉え、ニーズに応じたカリキュラム構築を行う。 【大】
取組の結果と 点検・評価	１．テキスタイルアドバイザー(TA)実習について (1) 授業内容を実習対応の内容とし、その構成は①繊維の基礎知識、②布地の取り扱い方法、取り扱い絵表示、③繊維製品の試験法　④繊維製品の市場と品質　⑤外来講師による講義を行い、実習に直接役立つものとして学生の評価も好評であった。 (2) 平成 28 年度の実習は、夏期(8、9 月)及び春期(2、3 月)において、19 の機関にて 53 人(3 年次生：21 人、4 年次生：32 人)の学生が実習を行った。平成 28 年度より、文化・ファッションテキスタイル研究所（夏期)、ホットマン、(一財）ニッセンケン品質評価センター（春期）を新規に実習先として開拓した。 ２．カリキュラムについて (1) 平成 28 年度より学科名変更(服装造形学科をファッションクリエイション学科)に伴い、ファッションに特化した教育体系の構築に向けて、衣料管理士の教育課程のあり方が問われている。本件遂行のための協議を行い、今後の検討課題として取り上げていく。 (2) 衣料管理協会の教員資格審査において、「ファッションデザイン論」の担当者として教授 2 人、助教 2 人、「ファッションイラストレーション A」の准教授 1 人、「TA アドバイザー実習」の准教授 1 人、助教 1 人の衣料管理協会の審査において、全員が適任との認定を得た。 【大】
次年度への 課 題 （平成 29 年度）	１． テキスタイルアドバイザー(TA)実習について (1)「テキスタイルアドバイザー実習」の授業内容を充実させ、実習に反映させていく。 (2) 4 年次における就職活動をより活発にするため、実習時期を 3 年次に移行することを念頭に、実習先機関との対応を含めて実習時期の検討を行う。 ２． カリキュラムについて (1) 教育内容の充実のため、開講推奨科目への対応と選択科目の変更等、さらなる検討を行う。 (2) ファッションクリエイション学科とする学科名変更に伴い、衣料管理士の教育課程のあり方を再考し、学生の要望を敏感に捉え、社会のニーズに応じたカリキュラム構築を行う。 (3) 定員について、平成 28 年度は定員 40 人に対して、47 人が資格申請を行った。平成 29 年度以降は定員についても検討を要すると考えられる。 【大】

■検討組織名：衣料管理士課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 28 年 4 月 5 日	1．3,4 年生資格履修者に対するオリエンテーション時の対応について検討
平成 28 年 4 月 14 日	1．4 年生資格取得希望者の確認 2．「テキスタイルアドバイザー実習」授業内容の確認・外部講師の検討 3．実習生と実習先の検討
平成 28 年 5 月 30 日	1．大学正会員年次報告書の確認 2．実習先の実習期間の確認、依頼人数の検討
平成 28 年 6 月 27 日	1．大学正会員年次報告書の確認 2．学生の実習先の検討
平成 28 年 7 月 14 日	1．学生の実習先の確認 2．実習先への教員挨拶担当決め
平成 28 年 9 月 16 日	1．実習欠席者・実習報告会欠席者への対応の検討 2．実習先挨拶者による報告(来年度の実習時期、実習人数等) 3．「テキスタイルアドバイザー実習」成績評価
平成28年 10 月 16 日	1．大学正会員年次報告書審査結果の報告 2．カリキュラムの検討
平成 29 年 1 月 13 日	1．2 月実習（実習先、実習生、事前教育）について 2．履修要項の資格に関する記載事項の検討 3．カリキュラムについて
平成 29 年 1 月 30 日	1．日本衣料管理協会会長賞の選出 2．来年度シラバスの検討 3．資格認定証交付等手続き書類の確認

開催年月日	学生指導等の記録
平成 28 年 4 月 6 日 平成 28 年 4 月 7 日	服装造形学科 1、2 年生対象　資格取得のためのガイダンス 服装造形学科 3 年生対象　資格取得のためのガイダンス
平成 28 年 9 月 16 日	実習事後報告会（13：00～16：00）
平成 28 年 12 月 1 日 平成 28 年 12 月 6 日	資格認定証交付等の手続きに関する説明会 （同一内容で 2 回実施）
平成 28 年 12 月 7 日 平成 29 年 1 月 13 日	3 年生対象　衣料の使用実態調査の説明会 衣料の使用実態調査の回収、点検
平成 29 年 1 月 24 日	2 月実習生（3 年生）のための事前教育（16：20～17：50）

■検討組織名：紀要編集専門委員会

報告者：高村　是州

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	1．紀要編集専門委員会の統合 平成 27 年度、「服装学・造形学研究」と「人文・社会科学研究」に分冊していた紀要を 1 冊にまとめたことを踏まえ、平成 28 年度は母体である紀要編集専門委員会自体も統合しひとつにまとめる。具体的には、委員会規程・投稿規程の改定、掲載研究の種類（論文・研究ノート・書評等）の改定、査読方法の統一などである。 2．投稿者の拡大 本学教員のみならず、共同研究をしている外部の方や大学院生等、本学に関わる方々が広く投稿できるよう規程を見直し、紀要のさらなる充実を図る。 3．制作・表現系統の投稿論文について 制作・表現系統の制作実践を研究としてどう評価するかについて、継続して検討を進め、研究ノートの活用法や「査読要項」のガイドラインを見直していくことにより、「実践研究」などへも対応した紀要に整えていく必要がある。【共】
取組の結果と点検・評価	1．「服装学・造形学研究」と「人文・社会科学研究」に分かれて運営していた紀要編集専門委員会の運営母体を統合し、これを機に「文化学園大学紀要」を「文化学園大学・文化学園大学短期大学部紀要」と改名。査読方法の統一や投稿内容の充実を図った。 2．紀要編集専門委員会の統合に伴い、紀要編集専門委員会規程及び紀要投稿規程の改定を行い、投稿から採録までの一連の流れの円滑化を図った。 3．投稿区分の改定を図り、「研究論文」、「研究ノート」、「書評」、「文献・資料紹介」に加え、「作品ノート」を加えた。「作品ノート」は、本学全体の取組を考え、「ものづくりの大学」という部分を紀要にも反映させようという趣旨による。制作・表現系統の制作実践を積極的に掲載することによって投稿者の拡大とともに、本学の教育・研究の特色を内外にアピールする機会とした。【共】
次年度への課題 （平成 29 年度）	1．紀要の果たす研究成果発表の場としての役割について 本学における研究のあり方を踏まえたうえで、紀要が果たすべき研究発表の場としての役割を明確にしていく。 2．投稿者の拡大 投稿から採録までの流れを円滑にすることで本学教員のみならず、共同研究をしている外部の方や大学院生等、広く投稿できるよう方策について議論を深める必要がある。 3．制作・表現系統の投稿論文について 制作・表現系統の制作実践を研究としてどのように評価するのか継続して検討を進め、新規投稿区分である「作品ノート」の活用法についても議論を深め、制作・表現系統のよりよい環境作りを目指す必要がある。【共】

■検討組織名：紀要編集専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成28年5月31日	１．平成28年度の活動について ２．紀要冊子の統合に伴う規程改訂及び投稿区分に関する検討 ３．編集スケジュール・執筆要項・査読ガイドラインの検討 ４．登録案内書類の検討
平成28年6月7日	１．規程改訂及び投稿区分に関する検討 ２．執筆要項・登録方法等の検討 ３．編集スケジュールの調整
平成28年7月19日	１．登録状況の確認 ２．編集スケジュールの検討と確認 ３．査読者候補の選定と担当委員の割り振り ４．査読方法と原稿引き渡し、査読結果の受取り方法等の確認
平成28年9月13日	１．査読候補者への依頼状況の確認 ２．査読関連書類の確認 ３．紀要のISSN表示についての確認
平成28年9月27日	１．研究論文原稿の受取り ２．査読候補者への依頼状況及び査読関連書類の確認 ３．冊子配付数調査に関する確認
平成28年10月18日	１．査読結果の確認と通知要領・回答書作成要領の確認 ２．冊子配付数・印刷部数・郵送先の確定
平成28年11月15日	１．研究論文修正原稿・回答書の受取り、研究ノート・作品ノート原稿の受取り ２．再査読の原稿受渡し要領、ネイティブチェック実施方法の確認 ３．印刷業者の入札について
平成28年11月29日	１．再査読結果の確認 ２．掲載可否の確定・通知要領の確認 ３．印刷業者入札結果と入稿日程の確認
平成28年12月6日	１．印刷業者への入稿 ２．印刷及び初校の受取り・配付方法についての確認 ３．電子化及びインターネット等公開許諾書・配信方法の確認
平成29年1月17日	１．印刷業者への初校戻し ２．再校の受取り・配付方法の確認 ３．電子化及びインターネット等公開許諾書の回収
平成29年2月7日	１．印刷業者への再校戻し ２．納品及び配付スケジュール ３．執筆者・査読者へのアンケートについて
平成29年3月6日	１．紀要第48集の納品及び配付作業 ２．執筆者・査読者へのアンケート結果の確認 ３．次年度に向けた検討事項等について

■検討組織名：教職課程専門委員会

報告者：福井　路可

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成28年度）	1．学生の質的変化に伴う指導方法の検討。（継続課題） 2．教職課程辞退者数を減少させるための検討。（継続課題） 3．教育実習校成績評価向上にむけた事前教育のあり方等包括的検討。（継続課題） 4．文化学園大学・教職研究会との有機的連携等、充実と具体策の検討。 5．教員採用試験対策講座の継続と充実。【大】
取組の結果と点検・評価	1．基礎学力、専門学力、教職志望度に学生間の違いがあるため、個別指導の必要性が年々高まっている。教員間の情報共有を行い、入学時から卒業まで継続的に学生の動向を観察し、適宜指導することが必要であると共に、教職課程履修カルテと教職課程履修ノートの活用が大切である。 2．教職課程の履修意志の曖昧さ、教職への魅力の減退、進路変更等の理由で学年が上がるにつれて履修者数の減少傾向への対策が引続き必要である。平成 26 年度は 2 年次に上がる時点で 5 割強の減、1 年次中途辞退者 2 割強と多く、1 年次に対するより的確な個別への対応と指導が必要とされる。平成 27 年度からの新入生オリエンテーション教職課程ガイダンス及び前期授業において「教職履修の意義・魅力」を重点的に展開した結果、2 割強の減少にとどめることができたが、1 年次中途辞退者数減少には課題が残っていた。平成 28 年度は 1 割の減少だったが、1 年次中途辞退者数は服装学部（家庭）が半数を超えてしまった。 3．平成 25 年度からの追跡調査より、教育実習校における項目評価の「学習指導、資質・能力」については、履修審査対象科目の専門教育科目評価との相関性が認められたことをうけ、教育実習生の実習校からの評価、要望を周知することを目的に、教職必修科目（総合教養科目・外国語科目・専門教育科目・教職に関する専門教育科目）の全担当者に継続して教育実習報告書を配布した。また、事前教育については、外部講師と実習校との綿密な連携により充実を図った。 4．文化学園大学・教職研究会は平成 28 年度で 4 回目の開催となった。文化学園大学・教職研究会との連携としては、「教育実習集中事前教育」の外部講師として教科指導についての講義を担当、教職課程履修学生にとっては有意義な内容となった。教職課程履修学生の文化学園大学・教職研究会への参加は、希望学生にとどまっているが教職実践の具体策検討の観点から今後は更に交流の機会を増やしたい。 5．平成 27 年度の課題であった教員採用試験受験学生への支援として実施した。平成 28 年 5 月に教職課程履修学生 3 年生を対象としガイダンスを行ったのち、採用試験の出題傾向や教職教養の解説と実践、論作文などを取り上げ、計 18 回開講した。当初の受講学生は受験に興味のある学生も多く含まれていたが、次第に教員志望の学生のみとなった。教員志望学生数の増加と内容の充実を図りたい。【大】
次年度への課題 （平成29年度）	1．学生の質的変化に伴う指導方法の検討。継続課題。 2．教職課程辞退者数を減少させるための検討。継続課題。 3．教育実習校成績評価向上にむけた事前教育のあり方等包括的検討。継続課題。 4．文化学園大学・教職研究会との有機的連携等、充実と具体策の検討。継続課題。 5．教員採用試験対策講座の継続と充実。継続課題。【大】

■検討組織名：教職課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 28 年 4 月 1 日	１．　平成 27 年度自己点検・評価報告書の確認 ２．　平成 27 年度文化学園大学服装学部教育実習報告 ３．　平成 27 年度文化学園大学造形学部生活造形学科教育実習報告 ４．　平成 28 年度介護等体験事前教育日程 ５．　教職課程履修ガイダンスについて ６．　教育実習履修希望届について ７．　平成 28 年度教育実習履修審査保留学生の対応について ８．　平成 28 年度教育実習辞退学生の対応について
平成28年 5 月 10 日	１．平成 29 年度教育実習履修審査 ２．平成 28 年度教育実習日程 ３．平成 28 年度介護等体験について ４．平成 28 年度教職課程履修者数
平成28年 5 月 17 日	１．平成 29 年度教育実習履修再審査
平成28年 11 月 8 日	１．平成 28 年度「教育実習」単位認定審査 ２．平成 28 年度介護等体験中間報告 ３．平成 29 年度教育実習集中事前教育日程
平成29年 2 月 28 日	１．平成 29 年度教育実習関連報告 ２．平成 28 年度自己点検評価報告案について ３．平成 29 年度オリエンテーション教職課程ガイダンス

■検討組織名：学芸員課程専門委員会

報告者：佐藤　正明

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	1．学芸員課程学生のみが履修できる学芸員課程専門科目の履修方式について、履修生が減少している現在、一部の開講科目のあり方を検討していく。 2．課程学生の減少問題について､様々な角度から課程のあり方などを検討していく。　【大】
取組の結果と点検・評価	1．学芸員課程の履修生が減少していることにつき、そこに明確な理由があるのかどうかの意見交換を行う。たとえば平成 24 年の博物館法の改正により、新設科目が追加されたということもあり、実質的に履修の負担が増えていることなどが想定される。本学の学芸員課程では、課程の専門科目については専門外の課程の科目としての扱いであり、卒業要件には含まれていない。したがって実務・実習、その他のカリキュラムを忙しくこなしている学生にとっては卒業要件以外の科目を履修する余裕が不足しているとも考えられる。本学には教職課程、司書課程、学芸員課程、などの公的な資格のほかに専門性を活かした衣料管理士課程やビジネス検定、パタンナー検定など、多くの課程や取得可能資格があり、複数の課程を履修することは困難と思われる。課程開講科目の在り方や履修年次における課程履修者の動向調査を、慎重に継続して行っていく必要がある。 2．学芸員資格については、人気の資格と言える。仮に学芸員資格を得たと仮定しても、これが任用資格である限り、学芸員への道の就職は困難と言わざるを得ないのが現状である。就職先としての博物館の評価は高いものがあるが、実際の職場としての就職の可能性は極めて低いものとなっている。これに関しては、一学校法人としての対応は困難なものと言わざるを得ない。博物館法に則った学芸員の採用状況など、資格保持者の活躍の場などの様々な情報収集が必要と考える。　【大】
次年度への課題 （平成 29 年度）	1．学芸員課程学生のみが履修できる学芸員課程専門科目の履修方式について、履修生が減少している現在、総合教養科目と専門科目との関わりなど、開講科目の扱い・あり方について検討。 2．課程履修学生の減少傾向について、課程科目以外の様々な周辺要素などを検討していく。 3．履修者減における館園実習のありかたを検討。　【大】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 28 年 5 月 24 日	1．課程履修生の減少傾向についての意見交換 2．学生の履修状況について
平成 28 年 7 月 15 日	1．実習スケジュール調整と評価項目の検討と館園実習形式と評価の観点について 2．文化庁アーカイブ中核拠点形成モデル事業打ち合わせ
平成 28 年 9 月 24 日	1．課程履修生の履修年次と減少の傾向 2．履修科目などの検討事項について
平成28年 11 月 16 日	1．シラバスの館園実習記載について 2．館園実習資料保存情報の共有について
平成28年 12 月 15 日	1．課程履修生の履修年次と時間割、館園実習ノートの内容確認 2．文化庁アーカイブ中核拠点形成モデル事業報告
平成 29 年 3 月 21 日	館園実習方法のより効果的運営について検討

■検討組織名：司書課程専門委員会

報告者：瀬島　健二郎

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	1．新カリキュラムの授業内容が一層魅力的となるよう取り組む。 2．就職希望者を支援し、相談に応じる。【大】
取組の結果と点検・評価	1．新カリキュラム（移行 5 年目）授業内容が一層魅力的となるよう取り組む。 (1) 平成 28 年度は新カリキュラム移行 5 年目で、引き続き授業内容の魅力向上に取り組んだ。「児童サービス論」で現職の図書館員による実演を、継続して実施した。また、一部科目では授業後にミニッツペイパーの提出を求め、受講生の理解度向上を試みた。 平成 28 年度の年度初めの履修登録者は、1 年生 12 人、2 年生 5 人、3 年生 5 人、4 年生 11 人、合計 33 人で、昨年比 6 人の減だった。 (2) 司書課程履修者の増への取組 司書課程履修者が履修しやすくするため、4 年生の選択科目 4 科目中の土曜日に開講していた 2 科目を金曜日に変更した事で、4 年生の負担の軽減になった。 平成 27 年度に集中講義で開講した 2 科目は、見学の日程等を考慮し集中講義のまま実施した。 2．就職希望者への支援 4 年生の履修者向けに司書職員採用情報を掲載するサイトの情報を提供したが、職員採用には結びつかなかった。引続き、情報提供に努めると共に、図書館現場の魅力を実感してもらう機会として、アルバイト等の相談が有れば紹介に努めた。【大】
次年度への課題 （平成 29 年度）	1．新カリキュラムの授業内容が一層魅力的となるよう取り組む。 2．図書館への就職希望者を支援し、相談に応じる。【大】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 28 年 4 月 4 日	1．司書課程ガイダンスの内容・方法・配布資料の確認（4 月 6 日、7 日実施）
平成 28 年 6 月 18 日	1．平成 28 年度授業開始後の感想、課題について 2．平成 29 年度以降の開講計画と教員体制について
平成28年 10 月 22 日	1．平成 28 年度後期授業の履修状況について 2．履修生のアンケート調査の実施について
平成 28 年12月 17 日	1．平成 29 年度の教員体制の変更について 2．平成 29 年度の時間割案について
平成 29 年 2 月 4 日	1．平成 28 年度卒業生の司書資格取得状況について 2．平成 28 年度の時間割案について
平成 29 年 3 月 7 日	1．平成 29 年度の時間割案（主に集中授業）について 2．平成 28 年度自己点検・評価報告書について

■検討組織名：国際交流委員会

報告者：濱田　勝宏

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	１．海外提携校との交流についての具体的な検討をさらに進める。 ２．本学学生の留学を促進できるような支援を具体的に検討する。【共】
取組の結果と点検・評価	１．海外提携校との交流についての具体的な検討をさらに進める。【共】 (1) フランスの国立高等装飾芸術学校（ENSAD）について 平成 28 年度に標記の学校と本大学院と覚書を交わしたダブルディグリーの大学院生 2 人を 9 月より受け入れた。今後は本学からも派遣できるよう検討する。 ２．本学学生の留学を促進できるような支援を具体的に検討する。【共】 (1) 平成 29 年度特別留学プログラムについて アーツ・ユニバーシティー・ボーンマス（AUB）への留学希望者 5 人について 1 次面接、最終面接の結果、留学許可 3 人、2 人を留学不許可とした。 ニューヨーク州立ファッション工科大学（FIT）を含め、参加学生増加に向け、検討していく。また、経済的に参加できない学生もいるため、併せて検討していく。
次年度への課題 （平成 29 年度）	１．海外提携校との交流についての具体的な検討をさらに進める。 ２．本学学生の留学を促進できるような支援を具体的に検討する。【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成28年12月 13 日	１．2017 年度特別留学プログラム面接結果について AUB への留学希望者 5 人の 1 次面接、最終面接について、面接担当者より報告。委員会として 3 人を留学許可とした。

附　属　機　関　等

■検討組織名：文化学園大学図書館

報告者：尾崎　弘美

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	1.利用サービスの向上 2.コンピュータ設備の整備検討 3.小平キャンパス書庫の管理 4.資料データの標準化と次世代検索システム導入の検討　【共】
取組の結果と点検・評価	1．利用サービスの向上 (1) 開館時間を 9：30 から 30 分早めて 9：00 にした。その結果 1 限の授業のグループ学習で利用することも可能になった。 (2) スキャナーの利用を、申し込み制から自由に利用可能なシステムに変更した。手続きを簡略化したことで自由度が増した。 (3) 閲覧席にコンセントと照明付きの仕切りを設置した個人席を 30 席確保した。ひとりでじっくり学習したい学生や、ノートパソコンの持ち込み使用にも対応できることから、以前から設置されている窓際席、キャレルと合わせて、利用は盛況である。 2．コンピュータ設備の整備検討 図書館システムのサーバー更新を予定していたが、コストの関係から 1 年先延ばしとしたので平成 29 年度への課題となった 3．小平キャンパス書庫の管理 (1) 小平キャンパス書庫所蔵の資料請求はコンスタントにあり、学生・教職員の要望に応じて週 2 回現地に赴いて資料を運んでいる。 (2) 利用の多い資料は新都心キャンパスに排架場所を変更する、新都心キャンパスの資料で破損・汚損の見られるものを除籍して小平キャンパス書庫の資料と差し替えるなど、気持ちよく利用できるような工夫をしている。 4．資料データの標準化と次世代検索システム導入の検討 (1) 小平キャンパス書庫資料を新都心に受け入れる際のデータ処理に合わせて、遡及資料の再整理を行った。 (2) 国立情報学研究所や他機関の主催する研修に参加した。 5．その他 (1) 文化祭に「メンズ古今東西」というテーマで展示を行った。 (2) 常設の「企画展示」コーナーを設け、年間を通じて月替わりでさまざまな展示を行った。 【共】
次年度への課題 （平成 29 年度）	1．利用サービスの向上、広報の充実 2．コンピュータ設備の整備検討 3．収蔵環境の管理 4．資料データの標準化と次世代検索システム導入の検討　【共】

■検討組織名：文化学園大学図書館

開催年月日	図書館委員会
平成 28 年 7 月 5 日	1.平成 27 年度業務報告　2.平成 28 年度業務計画・資料費予算決定報告　3.図書館利用規程の改定についての審議（平成 28 年 7 月 12 日教授会承認）　4.意見交換　ほか
平成28年 12 月 2 日	1.平成 28 年度業務計画進捗状況報告　2.平成 29 年度業務計画案・予算案審議　3.図書館利用規程の改訂についての審議（平成 29 年 2 月 7 日教授会承認）　4.意見交換　ほか
平成 29 年 3 月 2 日	1．平成 29 年度業務計画・予算決定報告　2．開館日程　3．規程改正・新設承認報告　4.第 23 期図書館委員会委員　5.意見交換 ほか

開催年月日	部会（館員全体会議）
平成 28 年 4 月 1 日	1.平成 28 年度組織編成・業務グループ担当発表　2.各課業務分担発表　3.平成 28 年度業務計画の確認　4.各課報告　5．業務グループ・研修報告
平成28年 5 月 30 日	1.各課報告　2．業務グループ・研修報告　3.中学生職場体験　ほか
平成28年 6 月 30 日	1.各課報告　2．業務グループ・研修報告　3.延滞者への罰則検討　ほか
平成28年 9 月 30 日	1.各課報告　2．業務グループ・研修報告　3．延滞者への罰則検討　ほか
平成28年11月 30 日	1.各課報告　2．業務グループ・研修報告　3.平成 29 年度業務計画・予算案審議
平成29年 1 月 31 日	1.各課報告　2．業務グループ・研修報告　3．図書館利用規程の改正・新設　ほか
平成29年 2 月 28 日	1.各課報告　2．業務グループ・研修報告　3．H 館解体による書庫移転　ほか

開催年月日	運営会議（管理職会議）
平成 28 年 4 月 20 日	1．大学オリエンテーション　2.備品申請　3.各種研修参加者検討　ほか
平成 28 年 5 月 25 日	1.宇都宮大学国際学臨地研究受入れ　2.ゆかたウィークに合わせた錦絵展示　3.閲覧ミーティング体制　4．資料保存のための書庫管理　5.図書館委員会日程
平成 28 年 6 月 22 日	1.課異動に伴う業務分担　2.延滞者への罰則強化　3.閲覧テーブルの仕切り板設置及び書架の防振材移設と増設　4.図書館委員会議題　5.PL 架整理検討　ほか
平成 28 年 7 月 20 日	1.授業と連動した展示　2.学生デザインによるソファの張替案　3.小平書庫内資料移動作業　4.貴重書デジタルアーカイブでの錦絵公開　5.錦絵スキャン作業の確認　ほか
平成 28 年 9 月 14 日	1.スマホ撮影音への苦情　2.空調機水漏れ　3.Google Fashion Project 状況報告　4.リポジトリ運用規則（案）　5．装備規則の変更　6．図書館だよりリニューアル　7．図書買換え及びコミックの受入　8．延滞者への罰則　ほか
平成28年 10 月 12 日	1.規程の新設、改訂　2.平成 29 年度業務計画・予算案作成日程　ほか
平成28年 11 月 10 日	1.VPN 接続不具合　2.平成 29 年度業務計画案・予算案協議　3.図書館委員会案　ほか
平成28年 11 月 16 日	1.平成 29 年度業務計画案・予算案協議　2.G サーチの研究室利用　ほか
平成28年 11 月 24 日	1.図書館委員会議事確認　2.平成 29 年度開館予定表案　3.規程の改正・新設　ほか
平成 28 年 12 月 1 日	1.図書館システムのクラウド化　2．平成 29 年度予算案協議　ほか
平成 28 年 12 月 7 日	1.平成 29 年度予算案協議　2．WWD 電子版導入　3.イントラネット HP 構築
平成28年 12 月 14 日	1.平成 29 年度予算案協議　ほか
平成28年 12 月 21 日	1.平成 29 年度予算案協議　2.大学院図書　3.H 館書庫移動　ほか
平成 29 年 1 月 11 日	1.平成 28 年度予算消化　2.平成 29 年度予算案提出報告　3.規程　4.H 館　ほか
平成 29 年 2 月 8 日	1.平成 28 年度予算消化　2.規程　3．第 23 期図書館委員会委員　ほか
平成 29 年 3 月 8 日	1.平成 29 年度業務分担　2.H 館解体による書庫移転　ほか

■検討組織名：文化学園服飾博物館

報告者：佐藤　正明

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	1．施設・設備の点検・改修を大きな課題として進めていく。2003 年に現在のクイントビル竣工と同時に博物館が移設され、既に 14 年目となり、設備関連の不具合が目立ってきた。機器による温湿度調整における機械関連の消耗が特に顕著であり、補修部品の入手にも支障が出始めている。展示ガラスケースの開閉についても、重量がかかる可動部品に疲労が見え、スムーズな開閉に支障が出ている。予算的なこともあるため段階的な補修を計画していく。 2．所蔵資料の研究・見直しによる資料価値の向上を図る。収蔵スペースには限界があるため、収蔵資料の再研究により、展示内容の質的向上を目指す。 3．北竜湖資料館のリニューアル検討（地域の郷土資料館として） 4．使いやすいデータベース構築と活用の拡大。【共】
取組の結果と点検・評価	1．移設から 14 年目を迎えることとなった博物館の設備について、具体的な不調が顕在化してきた。博物館を運営していく上では、収蔵と展示は常に大きなテーマであり、そのどちらにも共通して考慮すべき事項に、湿度の安定がある。環境の変化は収蔵資料の劣化に影響するため、できるだけ一定の湿度を保ちたいが、気候の変化による相対湿度の変化に十分に対応できなくなってきている。湿度安定のため、新しいシステム機材の導入を検討してきた結果、次年度において導入する目途をつけることができた。既存の設備を大きく変更することなく、安定したシステムを取り入れることにより、資料の保管環境が向上することが期待できる。 2．東京文化財研究所との共同研究などにより、無形文化遺産や染織品に関する情報や資料収集が進み、博物館としての独自の資料研究・データの蓄積を一歩進めることができたと考える。新たな情報は、博物館展示に活用されることとなる。 3．北竜湖資料館をリニューアルし、地域の郷土資料館として活用する一環として、飯山市と小菅村における重要文化財や伝統行事などにつき、具体的な資料収集と展示資料のリストを作成するところまで進めることができた。この結果をもとに、具体的な資料の展示内容や必要なレプリカの作成や、展示に関わる機材の手配ができるところまでプランを進めることができた。 この郷土資料館が、地域の振興に資することが期待される。 4．データベースの整備は順調に推移している。具体的な活用を通して、より確かなものに仕上げていく。【共】
次年度への課題 （平成 29 年度）	1．博物館施設の老朽化した機器のリニューアルとして、資料保存環境に関わる湿度に関連する部分の改修の検討。 2．収蔵資料の見直しによる新たな研究成果の蓄積と展示への活用の促進。 3．北竜湖資料館のリニューアルの進行。 4．データベースの効率的利用の拡大。【共】

■検討組織名：文化学園服飾博物館

開催年月日	会議等の開催記録
平成 28 年 3 月 8 日～ 平成 28 年 5 月 17 日	「ヨーロピアン・モード」展
平成 28 年 6 月 14 日～ 平成 28 年 9 月 8 日	「世界の刺繍」展
平成 28 年 8 月 6 日	北竜湖資料館リニューアル打ち合わせ
平成 28 年 9 月 9 日	博物館会議（全学園）
平成 28 年 10 月 6 日～ 平成 28 年 11 月 30 日	「日本人と洋服の 150 年」展
平成 29 年 1 月 6 日～ 平成 29 年 2 月 20 日	「麻のきもの・絹のきもの」展 21 世紀鷹峯フォーラム第 2 回 in 東京　参加イベント
平成 29 年 1 月 18 日	第 11 回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座　「麻のきもの・絹のきもの」 東京文化財研究所・服飾博物館　共催（会場：クイントサロン）

開催年月日	展示協力
平成 28 年 3 月 19 日～ 平成 28 年 9 月 4 日	ポーラ美術館「Modern Beauty」 所蔵資料 10 件貸出
平成 28 年 7 月 16 日～ 平成 28 年 10 月 2 日	東京富士美術館「プリンス＆プリンセス―語り継がれる幸せの言葉」 所蔵資料 3 件貸出
平成 28 年 6 月 14 日～ 平成 28 年 7 月 31 日	BUNKAMURA ザ・ミュージアム「西洋更紗トワル・ド・ジュイ展」 所蔵資料 2 点貸出
平成 28 年 8 月 6 日～ 平成 28 年 9 月 11 日	郡山市美術館　「「西洋更紗トワル・ド・ジュイ展」 所蔵資料 2 点貸出

■検討組織名：文化学園国際交流センター

報告者：柿島　由雄

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	１．各校との連携、関連活動の周知 各校担当者との情報交換に努め、ニーズに合った教育支援活動を行う。活動の周知にも努める。 ２．海外交流によるグローバル化プログラムの開発・支援 (1) 海外インターンシップ制度における国内外の受入れ先の新規開発や連絡等の支援を行う。 (2) 各団体が設置する海外留学のための奨学金制度を紹介し、財政的な支援策を積極的に検討する。 ３．学内におけるグローバル化の推進 (1) 海外のファッション関係者が英語で行うセミナーを開催し、学生や教職員の国際意識を高める。 (2) International Talent Support (ITS)、International Fashion and Photography festival of Hyères（イエール国際モード&写真フェスティバル)などの国際コンテストを紹介して学生の関心を高め、応募支援を行う。 ４．留学生の受入れ促進と環境整備 (1) ブラジル全国工業職業訓練期間（SENAI）に続き、ASEAN の関連機関との関係強化を図り、安定した留学生受入れを目指す。 (2) 国際ファッション工科大学連盟(IFFTI)や提携校を通じて英語コースの広報を検討する。【共】
取組の結果と 点検・評価	１．各校との連携、関連活動の周知 メールでの一斉配信により直接学生や教員へセミナー等行事の告知に努めたが、本センターの存在自体を知らない学生も多い。関連する教員とも連携して活動の周知を図る必要がある。 ２．海外交流によるグローバル化プログラムの開発・支援 (1) 海外インターンシップへの派遣の連絡、受入れの際の手配やアテンド等のサポートを行った。 (2) 特別留学プログラムとともに奨学金制度を案内したが、本学学生が利用できる留学支援制度が少ない。平成28年度の特別留学制度利用者は０人であった(平成29年度はAUB へ３人の予定)。 ３．学内におけるグローバル化の推進 (1) 海外のファッション関係者の来校時に英語によるセミナーを平成28年度は 7 回実施。学生や教職員の関心は高かったが日本語通訳を望む声も多く、満足度を高めるための工夫が必要である。 (2) 留学や国際コンテストに関心を持つ学生が減少傾向である。アメリカ ニューヨーク州立ファッション工科大学(FIT)、イギリス アーツ・ユニバーシティ・ボーンマス(AUB)、イギリス ノッティンガム・トレント大学(NTU)への特別留学制度や提携校の概要を積極的に学内に紹介するなど学生の国際意識向上のための努力を要する。 ４．留学生の受け入れ促進と環境整備 (1) タイ工業省の委託による繊維産業研究所（THTI）との共同プロジェクトの打診があった。今後もアジア地域を中心に、海外事務所を拠点とした学生募集活動を強化していく。 (2) 海外提携校のネットワークを活用した本学の情報配信に引き続き取り組む。また教員を現地に派遣して教育視察や授業を行うなど、教職員が一丸となって世界的評価の維持とグローバル化を促進していく態勢づくりが求められる。【共】
次年度への 課　　題 （平成 29 年度）	１．各校との連携、本センターと活動内容の周知 関連部署との連携と、メール等を用いた本センターの活動内容や行事の周知。 ２．海外交流によるグローバル化プログラムの開発と支援 (1) 特別留学プログラムや国際コンテスト等への学生の関心を喚起。 (2) 海外提携校への教員の派遣と情報発信。 ３．学内におけるグローバル化の推進 (1) 英語によるファッションセミナーの継続と開催方法の見直し。 (2) 特別留学制度や海外提携校の紹介と国際意識の醸成。 ４．外国人留学生の受入れ確保と環境整備 (1) 海外事務所を拠点とする学生募集活動(ガイダンス、学校訪問等)の強化。 (2) 本学に在籍する外国人留学生の日本語能力や生活指導に関する諸問題の検討。【共】

■検討組織名：文化学園国際交流センター

開催年月日	会議等の開催記録
平成28年4月12日	海外事務所長来日会議（４校合同） １．各事務所長からの報告 ２．各学校からの報告、連絡 ３．意見交換
平成28年10月6日	海外事務所長来日会議 １．各事務所長からの報告、連絡 ２．意見交換

■検討組織名：文化学園知財センター

報告者：小林　哲夫

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	１．知的財産の権利化の推進 特許、実用新案、意匠、商標の権利化を進める。 ２．知的財産に関する啓発活動 教職員や学生を対象に、知的財産に関する理解しやすい講演会や講義などの教育活動を行う。 ３．知的財産の更新及び保護管理 所有する特許権、実用新案権、意匠権、商標権の更新及び保護管理を行う。　【共】
取組の結果と点検・評価	１．知的財産の権利化の推進 東京都との共催で運営しているコンテスト「TOKYO新人デザイナーファッション大賞」のロゴマーク「CREATORS TOKYO」の商標申請を本学園知財センターがフランスにおいて行った（出願番号：第16/4295655号　出願日：平成28年8月30日）。本コンテストは、世界で活躍できるデザイナーを発掘するために創設され、入賞者に対するビジネス支援を国内外で継続的に行っている。支援活動時に、デザイナー達は商標ロゴマークを一貫して使用することがシステム化されており、日本発のファッションのブランディングをサポートするものである。　【共】 ２．知的財産に関する啓発活動 知財センター副所長の永井伸夫教授が、大学デザイン造形学部の学生を対象に、「意匠・デザインを保護する法律の世界」と題し、知的財産の基礎に関する講義を行った（平成 28 年 11 月 29 日「クリエイティブキャリア論Ｂ」）。　【大】 ３．知的財産の更新及び保護管理 (1) 服装学部の田村照子名誉教授が、株式会社ワコール、インタークロス株式会社との共同研究により発明した「模擬皮膚装置およびそれを用いた特性評価方法」（特許第 4198152 号）により、ライセンス収入を得た。大学における研究成果を広く社会に還元することで、実効力のある社会貢献に取り組んでいる。【大】 (2) 上記ライセンス収入について、規程にもとづき、発明者である教員へ対価の支払を行った（学校法人文化学園職務発明取扱規程、学校法人文化学園職務発明取扱規程細則）。 研究成果への評価と報酬を規定することで動機づけを促し、教員の資質・能力向上のための土壌づくりを行っている。【大】 (3) 特許第 4198152 号「模擬皮膚装置およびそれを用いた特性評価方法」、特許第 5416353 号「染色方法及びその装置」の権利更新を行った。知的財産の保護・活用について、規程にもとづき適切に運用をしている（学校法人文化学園知財センター規程、学校法人文化学園知財センター運営委員会規程）。【大】
次年度への課　題 （平成 29 年度）	１．知的財産の権利化の推進 特許、実用新案、意匠、商標等に関する教職員の知識と興味を高め、権利化を進める。 ２．知的財産の更新及び保護管理 所有する特許権、実用新案権、意匠権、商標権の更新及び保護管理を行う。 ３．著作権侵害行為の防止 著作物の無断使用や模倣等、著作権の侵害にあたる行為を防止するための方策を検討する。 【共】

■検討組織名：文化学園知財センター

開催年月日	会議等の開催記録
平成 28 年 6 月 2 日	文化学園知財センター運営委員会 １．平成 27 年度実績報告 (1) 権利化活動　(2) 啓発活動　(3) 権利の更新と管理 ２．平成 28 年度事業計画 (1) 権利化活動　(2) 啓発活動　(3) 権利の更新と管理
平成 28 年 7 月 8 日	文化学園知財センター小委員会 １．職務発明の権利譲渡による対価の支払いについて （特許第 4198152 号「模擬皮膚装置およびそれを用いた特性評価方法」）
平成28年 7 月 22 日	文化学園知財センター小委員会 １．「CREATORS TOKYO」のフランスでの商標申請について（類似商標の調査）
平成28年 9 月 27 日	文化学園知財センター小委員会 １．「CREATORS TOKYO」のフランスでの商標申請について（権利化審査）
平成28年10月 14 日	文化学園知財センター小委員会 １．商標の普通名称化の問題について
平成28年11月 29 日	文化学園知財センター小委員会 １．知的財産に関する講義の実施について（「クリエイティブキャリア論Ｂ」）
平成 29 年 1 月 6 日	文化学園知財センター小委員会 １．学生の作品制作と著作権侵害リスクについて
平成29年 1 月 23 日	文化学園知財センター小委員会 １．平成 29 年度事業計画について ２．学生の作品制作と著作権侵害リスクについて

■検討組織名：服装学部・現代文化学部 ＵＳＲ 推進室

報告者：松田　祐之

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	１．企業や産業に対応した学生の育成課題と方法の検討（企業対応グループ） ２．地域と連携した活動の計画と実践の検討（地域対応グループ） ３．環境や社会に配慮した教育の実践と検討（社会環境対応グループ） ４．卒業生コミュニケーションネットワーク構築と母校訪問機会の創出(卒業生対応グループ) ５．国際的共同カリキュラム開発と ED の推進（ED 対応グループ） ６．「大学教育再生加速プログラム（AP)」の計画と実行（AP 対応グループ） ７．服装学部 USR 推進室の活動推進のための組織の強化と広報活発化【大】
取組の結果と点検・評価	１．学生に対して、社会人基礎力のアンケートを実施、集計、分析を行った。本学学生アンケートから読み取れる特徴を深く分析する為、和洋女子大学で同じアンケートを実施した。結果を比較分析すると校風の違いが表れた興味深い結果であり、服装学部協議会に報告したことで学生に対する育成課題を教員間で共有することが出来た。【大】 ２．〈渋谷区〉渋谷区の小学生を対象に「小学生ファッションショー体験」を実施。ファッションの楽しさを実感できる企画内容は好評であった。〈飯山〉地域の活性化の為に、地元の伝統工芸、地元産品の紹介する商品企画を立案。商品化につなげる。〈八ヶ岳〉原村の観光振興の為原村を紹介する PR ポスターを作成した。【大】 ３．学生の環境意識を高める為の活動を行った。エコプロダクツ 2016 の出展し、エコを意識した製品づくりが注目された。残布利用した製品づくりを日本赤十字・オンワード樫山とのコラボ事業で実施。近畿大学と協働事業で残布のコークス化に取り組んだ。【大】 ４．卒業生のネットワークづくりにむけて、SNS を活用して大学の様々な情報を卒業生へ発信できる仕組みを構築した。母校訪問機会として文化祭で「BUNKA 会」開催し、25 人が参加した。【大】 ５．8 月に Hong Kong Design Institute（HKDI）の Jessie Au Fung 先生が本学で講義し、12 月には高村教授が Hong Kong Design Institute で集中講義を行った。【大】 ６．本年度は試験的実施期間として新設した梅春学期（2 月～3 月）に国内は飯山プログラム（2 月 13 日～25 日)、岩手プログラム（2 月 14 日～28 日）を実施し、海外ではオーストラリア　シドニーRaffles 校とのファッションワークショップを実施した（3 月 12 日～3 月 25 日)。【大】 ７．USR 推進室の活動強化のため、現代文化学部も参画し、服装学部・現代文化学部 USR 推進室と名称を改めた。【大】
次年度への課　題 （平成 29 年度）	１．企業や産業に対応した学生の育成課題と方法の検討（企業対応グループ） ２．地域と連携した活動の計画と実践の検討（地域対応グループ） ３．環境や社会に配慮した教育の実践とイベント参加（社会環境対応グループ） ４．卒業生ネットワークの構築と発信情報内容の充実（卒業生対応グループ） ５．海外提携校教員交換プロジェクト実践と ED の推進（ED 対応グループ） ６．「大学教育再生加速プログラム（AP)」の実践（AP 対応グループ） ７．服装学部・現代文化学部 USR 推進室活動内容の広報活発化 ８．USR 推進室の活動強化の為、全学部参画した体制構築の検討　【大】

■検討組織名：服装学部・現代文化学部ＵＳＲ推進室

開催年月日	会議等の開催記録
平成28年4月19日	１．平成28年度USR体制：服装学部と現代文化学部の2学部が参加した新体制の確認 ２．平成28年度事業予算：事前申請提出の際の方法について　３．平成28年度事業計画について　４．AP梅春学期における履修登録人数の報告
平成28年5月27日	１．平成28年度事業予算計画：各グループ報告 ２．USR推進事業の認知度について：事業の情報発信強化の検討
平成28年6月28日	各グループ報告：(1)地域対応グループ：＜渋谷＞服装学部服装造形学科第31回ファッションショーのスタッフ体験・バックヤード見学実施について　(2)社会環境対応グループ：日本赤十字社・株式会社オンワード樫山のコラボレーション活動について　(3)国際的協同カリキュラムグループ:HKDIとの教員交換プログラムの担当について　(4)ED対応グループ：HPに掲載する記事の検討について
平成28年7月26日	１．各グループ報告：(1)企業対応グループ：社会人基礎力チェックアンケートの依頼について　(2)卒業生対応グループ：第7回「BUNKA会（収縮材を利用したポップコーンバッグ製作)」について　(3)AP対応グループ：事前教育の日程調整について ２．卒業生のアドレスについて：運用のネットワーキング化の検討。
平成28年9月27日	各グループ報告：(1)企業対応グループ：社会的基礎力チェックアンケートの結果報告について　(2)地域対応グループ：＜飯山＞「学んで発信！ふるさとプロデュース2016」と＜八ヶ岳＞「ネイチャーハンティングin信州2016」実施について　(2)AP対応グループ：事前教育について
平成28年10月25日	１．文化祭における連絡事項の確認 ２．各グループ報告：(1)地域対応グループ：＜飯山＞昨年度の作品である蒔絵スキー板の展示について　(2)社会環境対応グループ：「エコとファッションについて学ぶ(体験編)2016」実施についてと学内の残布回収方法について　(3)ED対応グループ：「循環するファッション」イベントのテキスト販売について　(4)AP対応グループ：＜飯山＞飯山市の補助金で行うプログラム検討について
平成28年11月17日	１．平成29年度予算案について：各グループより予算案の報告 ２．各グループ報告：(1)卒業生対応グループ：第7回「BUNKA会」の開催について　(2)地域対応グループ：＜飯山＞「学んで発信！ふるさとプロデュース2016」の成果報告会・表彰式の実施について ３．USR推進室広報活動：平成29年度USRパンフレット制作について
平成29年3月3日	１．平成29年度予算案について ２．各グループ報告：(1)企業対応グループ：社会的基礎力チェックアンケートの期間を見直しについて　(2)卒業生対応グループ：卒業生向けフェイスブック・インスタグラムの立ち上げと大学用メールアドレスの卒業後利用について　(3)地域対応グループ：＜渋谷＞服装学部服装造形学科第32回ファッションショースタッフ体験について　＜飯山＞平成29年度のテーマについて　(4)社会環境対応グループ：エコプロダクツ展2016実施報告と2017年継続について。(5)EDグループ：「循環するファッション」絶版・廃棄処分。別本の翻訳について　(6)AP対応グループ：平成29年度ポスター・パンフレット制作について　＜飯山＞と＜岩手＞のプログラム実施について

■検討組織名：文化学園ファッションリソースセンター

報告者：岡崎　成美

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	１．学校教育支援体制の継続 ２．産学交流の推進の継続 ３．外部への情報公開と交流促進の継続 ４．資料室データベースの更新・拡充 ５．テキスタイル・映像・コスチューム資料室データベース統合に向け、シソーラス作成、 新規のソフトウェアハードウェアの有効活用 ６．前項４及び５の整備の基礎となるコスチューム資料室のソフトウェアハードウェアの安定化と合理化　【共】
取組の結果と点検・評価	１．コスチューム資料室：大学や学院のショー作品を収集・公開した。学内向けにレファレンスを行った。 映像資料室：世界のコレクションの画像データの収集と管理及び教材用映像資料の収集、公開とレファレンスを行った。 テキスタイル資料室：産地素材収集し、公開及びレファレンスを行った。テキスタイルデザインソフト 4Dbox の学生向けの無料講習会を開催し､出席学生の技能を高めた(年 2 回)。織物産地の素材を、鋭意、収集した。公開し、レファレンスを行った。 企画室：ファッションリソースセンターだより発刊（年２回）した。学生企画展示（学内学外計 6 回)。 ２．産学交流その他の実施 織物産地との共同事業による現地体験学習･ワークショップ開催 (年 1 回､計 123 人参加)。デザイナー作品等企画展（年 4 回、計 7,000 人見学)。コンテスト開催（年 1 回)。講演会１回 ３．外部機関及びイベントへの資料提供及び展示協力 外部への情報公開対応機関として「文化学園ファッションリソースクラブ」を継続。 クラブを有料化の下、一般利用者・卒業生の会員制導入を行なった。 服装学部と共同で伊勢丹での内藤ルネの展示に衣装展示巡回展の協力を行なった。 ４．映像資料室：アーカイブコレクション情報を追加。テキスタイル資料室：布地データ追加。 ５・６．現存データを整備しつつ、予算化されたハードウェアソフトウェアを整備中。　【共】
次年度への課題 （平成 29 年度）	１．学校教育支援体制の継続。 ２．産学交流の推進の継続。 ３．外部への情報公開と交流促進の継続。 ４．資料室データベースの更新・拡充 ５．テキスタイル・映像・コスチューム資料室データベース統合に向け、シソーラスを作成する。 ６．前項４及び５の整備の基礎となるコスチューム資料室のソフトウェアハードウェアの安定化をめざす。　【共】

共 同 研 究 拠 点

■検討組織名：文化ファッション研究機構

報告者：濱田　勝宏

提出日：平成 29 年　4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	１．共同利用を中心とした研究事業の継続推進 ２．和装文化研究所、文化・ファッションテキスタイル研究所を核とした服飾文化研究の推進【共】
取組の結果と点検・評価	１．共同利用を中心とした研究事業の継続推進 (1)（共同研究の推進）服飾文化共同研究拠点で採択された共同研究を基礎に継続・発展させた共同研究として、高木陽子（研究代表者）「越境する現代日本ファッションに関する基盤研究」（科学研究費助成事業　基盤研究 C）を推進し、国際的なファッションセミナー等を実施した。 (2)（運営委員会の開催）平成 29 年 2 月 2 日に、外部の有識者を招聘して運営委員会を開催した。運営委員からは、共同研究を進めるためのノウハウ、共同研究拠点の特色ある研究テーマの設定、国際化の推進や望ましい広報のあり方等に関する助言を得た。 (3)（服飾文化関連のシンポジウム）平成 29 年 1 月 21 日に、文化庁委託事業アーカイブ中核拠点形成モデル事業「ファッションデザイン分野のアーカイブ中核拠点形成に関するシンポジウム」を開催し、博物館・美術館の現況調査やアーカイブ化手法の検討を進めた経過報告、未発掘資料の調査結果報告を行った。 (4)（共同研究員受入れ）1 人のデザイナーから文化ファッション研究機構共同研究員就任の申請があり、審査の上で文化ファッション研究機構共同研究員として受入れた。 (5)（服飾文化の若手研究者の活動支援）学内の若手教員育成のために、若手教員研究奨励金による支援事業を実施し、公募により文化学園大学（4 件）の若手教員の研究課題を採択した。また、平成28年12月16日に、平成27年度採択の若手教員による研究成果発表会を開催した。 ２．和装文化研究所、文化・ファッションテキスタイル研究所を核とした服飾文化研究の推進 (1)（和装文化の普及等）和装文化を普及させるために、和装文化研究のための実物資料の収集、和装関連科目充実のためのカリキュラム検討、ゆかたウィーク開催（平成 28 年 7 月 18 日～23 日）、「きもの着付け教室＆きもので茶話会」の開催による広報活動、文化祭での和装文化制作品の展示を実施した。また、前年度から継続して、経済産業省委託事業「次世代きもの開発と差別化戦略」（商業・サービス競争力強化連携支援事業）に参画する一方で、文化庁委託事業「アーカイブ中核拠点形成モデル事業（ファッション・デザイン分野）」（文化財アーカイブ中核拠点形成モデル事業）に採択され、これを推進した。 (2)（共同研究開発）堀畑裕之・関口真希子のブランド“matohu”と文化・ファッションテキスタイル研究所で、アレンジワインダー（多色の糸を次々とつないで 1 本の糸に巻き取るワインダー）を利用して独自のテキスタイルの共同研究開発を行い、その成果を文化祭で展示した。【共】
次年度への課題 （平成 29 年度）	１．共同利用を中心とした研究事業の継続推進 ２．和装文化研究所、文化・ファッションテキスタイル研究所を核とした服飾文化研究の推進【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成28年 5 月10日	第 1 回文化ファッション研究機構 会議 １．クールジャパンについて　２.その他
平成28年11月21日	第 1 回文化ファッション研究機構　研究企画委員会 １.若手教員研究奨励金の採択について　２.その他
平成28年12月 6 日	第 2 回文化ファッション研究機構 会議 １．今後の拠点の運営について　２.拠点の機能強化支援について　３.その他
平成 29 年 2 月 2 日	文化ファッション研究機構　運営委員会 １.特色ある共同利用・共同研究拠点　中間評価について　２.拠点における共同研究について　３.平成 28 年度事業報告　４.平成 29 年度事業計画　５.その他

附　属　研　究　所

■検討組織名：文化・衣環境学研究所

報告者：小柴　朋子

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	1．文化・衣環境学研究所 学内共同研究助成金について検討し、研究募集方法等、応募要領を整備して募集を行い、運用する。他の研究所との設備の共有を図る。研究テーマを掲げ、研究者を公募する方法についても検討する。 2．年に数回の研究会を開催し、その他にタイムリーな講演会、講習会を実施する。文化・衣環境学研究所が所員の研究交流の場、学内の研究の活性化の足掛かりとなることを図る。 3．学内共同研究助成金の成果発表方法について検討し、合わせて研究所報について検討する。 4．研究設備の充実・整備、人工気候室、人間工学実験室、研究所実験室の有効活用を目指す。 5．国内外からの参観・見学を積極的に受け入れ、本研究所の意義を発信する。 6．産学共同研究を推進し、衣環境学分野の研究を活発に推進し、国内外に向けて発信する。 7．大学院生の研究活動を支援し、博士取得者を輩出する。研究所の外部評価制度、研究所専任の職員の配置について審議する。【共】
取組の結果と点検・評価	1．平成 28 年度から文化・衣環境学研究所学内共同研究プロジェクトを立ち上げ、専任教員・特任教員・非常勤教員・博士後期課程大学院生等，本学に関係する 2 人以上の共同研究を対象とし「研究」「制作」「教育」のいずれの分野も可として、学内公募を行った。7 件の申請があり、審査の結果、全申請課題を採択した。 2．研究会（平成 29 年 2 月 10 日午後 16 時 00 分～17 時 30 分実施、参加人数 6 人、発表者：小柴、永井、佐藤）を開催し、所員の研究交流、学内の研究活性化に貢献した。 3．学内共同研究助成金の成果発表方法については、負担にならない形での研究報告書を研究終了段階で提出願うこととし 4 月以降に「懇話会」を開催する予定である。 4．耳内温計、F スキャンデーターロガー（足圧分布測定システム）、接触面圧測定システムとして、XSENSOR 圧力分布計測システム、キャリブレーションフリーのアイマークレコーダーとして非接触型視線計測装置を購入し、設備の拡充を行うことができた。 5．国内外の大学や企業などから参観・見学を多数受け入れ、研究内容の紹介を含め、積極的に広報することができた。外部からの主な見学者は、オーストラリアクインズランドブリスベン、ハワイ大学、台湾実践大学、北京服装学院、イタリア　Lanificio f.lli Cerruti Da、ベルギーファッション関係者等、15 件以上、見学者数 200 人以上であった。 6．産学共同研究に特に力をいれ、8 件の学外共同研究（三井化学株式会社、旭化成せんい株式会社、 株式会社デサント（2 件）、株式会社チェルシー、株式会社東京エンゼル本社、王子ネピア株式会社、竹中工務店）を推進している。 7．大学院生の研究活動を支援し、博士取得者 3 人を輩出することに貢献した。【共】
次年度への課題 （平成 29 年度）	1．文化・衣環境学研究所 学内共同研究プロジェクト助成金の公募を行い、選考の上、運用する。平成 28 年度採択の各研究課題の研究成果について、新たに「懇話会」を企画し、代表者による意見交換を主とした報告会を行う。 2．衣環境に関する研究会を、年 2～3 回開催する。その他にタイムリーな講演会を開催する。文化・衣環境学研究所が所員の研究交流の場、学内の研究の活性化の足掛かりとなることを図る。 3．平成28年度に導入した機器アイマークレコーダーと面圧センサーの利用方法についての講習会を開催し、広く社会学や心理学、ビジネス分野にも、積極的に参加を呼び掛ける。 4．他の附属研究所の研究会活動に協力し、4 研究所での交流を企画する。文化・住環境学研究所との研究設備の共有を図り、共同研究も検討する。 5．研究設備の充実・整備、人工気候室、人間工学実験室、研究所実験室の有効活用を目指す。 6．国内外からの参観・見学を積極的に受け入れ、本研究所の意義を発信する。 7．産学共同研究を推進し、衣環境学分野の研究を活発に推進し、国内外に向けて発信する。 8．大学院生の研究活動を支援し、博士取得者を輩出する。研究所の外部評価制度、研究所専任の職員の配置について審議する。【共】

■検討組織名：文化・衣環境学研究所

開催年月日	運営委員会の開催記録
平成 28 年 6 月 1 日	平成 28 年度文化・衣環境学研究所第 1 回運営委員会 学内共同研究プロジェクト 研究助成金応募要領について
平成 28 年 7 月 5 日	平成 28 年度文化・衣環境学研究所第 2 回運営委員会 学内共同研究プロジェクト 研究助成金応募書類 審査選考
平成29年 2 月 10 日	平成 28 年度文化・衣環境学研究所第 3 回運営委員会 １．平成 28 年度学内共同研究プロジェクト助成金報告について ２．平成 29 年度文化・衣環境学研究所事業計画（案）について

開催年月日	説明会の開催記録
平成28年 6 月 14 日	平成 28 年度文化・衣環境学研究所 学内共同研究プロジェクト 研究助成金　説明会 １．熱中症解説 DVD の放映（20 分） ２．熱中症と衣服に関する講演（田村照子名誉教授）（25 分） ３．平成 28 年度文化・衣環境学研究所学内共同研究プロジェクト研究助成金応募に関する説明（15 分）

開催年月日	研究会の開催記録
平成29年 2 月 10 日	平成 28 年度文化・衣環境学研究所第 1 回研究会 １．小柴朋子：防護服のパターン及び着脱性の検討 ２．永井伸夫：唾液クロモグラニン A のストレスマーカーとしての有用性 ３．佐藤真理子：春秋戦国期から宋代における漢服の変遷と機能性検討

■検討組織名：文化・住環境学研究所

報告者：渡邉　秀俊

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	１．共同研究の推進【共】 ２．参画教員の拡大【共】 ３．若手教員の研究活動の支援【共】 ４．所報「しつらい Vol.7」の編集【共】
取組の結果と点検・評価	１．共同研究の推進 平成 28 年度の共同研究も平成 27 年度と同様に、下記の 3 カテゴリーに分けて公募した。 ＜Ⅰ．共同研究（教材開発を含む）＞：学内外の複数人で行う共同研究（教材の購入のみではなく、教育方法や教育効果の検証などが必要）。 ＜Ⅱ．共同制作（教材開発を含む）＞：学内外の複数人行う共同制作（作品の制作のみではなく、制作プロセスや教育効果の検証などが必要）。 ＜Ⅲ．若手による研究・制作＞：40 歳未満の教員（助手含む）が代表者で行う共同研究・制作。 その結果、8 件の応募があったが、研究所運営会議において採択された下記の 7 件の研究が実施された。 (1) 高齢期女性の居場所における収納システムの提案＜Ⅰ＞ (2) 長野県須坂市における古民家再生プロジェクト＜Ⅰ＞ (3) 戦前の日本における乾式構法住宅の研究と普及に関する研究＜Ⅰ＞ (4) 美術教育普及活動での映像メディアの効果的な活用方法＜Ⅰ＞ (5) 学外活動を通した造形教育の試み＜Ⅱ＞ (6) DPM（ダイナミック・プロジェクション・マッピング）による動体への投射装置の基礎的研究・開発および作品の制作Ⅲ (7) 新素材を用いたファッション×空間 これらの研究については、平成 29 年度の学内研究発表会のほか、学会発表や一般メディアを通じて広く社会に対して公表する予定である。【共】 ２．参画教員の拡大 上記研究テーマのうち、(2)(3)(4)(5)(7)は学外者も参画して行われた共同研究であり、当初の目標を達成できたと考える。なお、平成 29 年度からは、共同研究の募集範囲を大学全体とすることとした。ただし、研究募集の目的は、文化・住環境学研究所の規定に明記された「住環境とは、居住のみならず、人間の生活行動を包摂する環境を含むものとする。」という分野範疇を逸脱しないことを条件とすることとした。【共】 ３．若手教員の研究活動の支援 上記研究テーマのうち、(1)(7)は若手教員も参画して行われた共同研究であり、当初の目標を達成できたと考える。【共】 ４．所報「しつらい Vol.7」の編集 平成 28 年度から研究所報を毎年発行する計画であったが、研究所運営会議にて審議の結果、教員の業績の蓄積ならびに冊子としての厚さを考慮すると、従前の隔年の方が妥当であると判断し、本年度の発行は中止とし、来年度からの隔年発行とすることとした。【共】
次年度への課題 （平成 29 年度）	１．共同研究の推進【共】 ２．参画教員の拡大【共】 ３．若手教員の研究活動の支援【共】 ４．所報「しつらい Vol.7」の見直し及び発行【共】

■検討組織名：文化・住環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
平成28年 11 月 25 日	１．平成 29 年度の共同研究申請の採択審議について ２．平成 28 年度の事業計画の見直し ３．平成 29 年度の事業計画 ４．その他
平成 29 年 3 月 7 日	１．平成 28 度の共同研究の実施報告について ２．平成 29 年度の事業計画について ３．その他

■検討組織名：文化・ファッションテキスタイル研究所

報告者：宮本　英治

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	１．テキスタイルデータ（糸種・繊度・織組織など）のデジタル化を推進する。作成データ約 400 を目指す。 ２．文部科学省の「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業を推進する。 ３．研究所独自のテキスタイル試作・開発を推進する。 ４．デザイナー・企業等とテキスタイルの共同研究・開発を推進する。 ５．テキスタイル産地を活性化するための現地指導を推進する。 ６．テキスタイル教育の一環として、製造現場の見学・研修を推進する。【共】
取組の結果と 点検・評価	１．研究所が保有しているアナログテキスタイルデータと我が国の「伝統の織り」技術の継承保存のためのデジタル化に日常的に取組、約 400 データをデジタル化した。 ２．平成 26 年度と平成 27 年度に当該事業を実施して構築した全国の産地とのネットワークを活かして、八王子を中心とする社会人教育を企図したが、研修を受けるための社会人の全国各地から八王子への旅費等が対象外である等の理由から断念した。ただし、その代替として、初めてとなる文化祭での展示を実施し、また、百貨店・オリジナルブランド・ファッションジャーナリストとの共同プロジェクトに着手するなど、新たな展開を進めた。 ３．研究所独自のテキスタイル開発を日常的に実施し、緯多重織やカラミ織により斬新なテキスタイルを開発した。 ４．「株式会社リューズ纏」と協働して開発したテキスタイルを使用した服が、東京コレクションで披露され、高評価を得た。 ５．繊維産地はじめ業界活性化のための指導・研修・見学受入れなどを実施した。 ６．文化学園大学をはじめ文化学園の教員や学生の見学・研修を受入れ、テキスタイルの一般知識の習得や生産現場におけるテキスタイル作りを理解してもらうことが出来た。【共】
次年度への 課　　題 （平成 29 年度）	１．テキスタイルデータ（糸の種類・太さ・密度、織組織等）のデジタル化を推進する。平成 28 年度の実績約 400 データ以上を目指す。 ２．研究所独自のテキスタイルの試作・開発数を約 30 種類目指す。 ３．デザイナー・企業等とテキスタイルの共同研究・開発を推進する。 ４．テキスタイル産地を活性化するための現地指導を実施する。 ５．テキスタイル教育の一環として、研究所の機器説明・見学・講義を実施する。【共】

■検討組織名：文化・ファッションテキスタイル研究所

開催年月日	実行委員会の開催記録
平成 28 年 7 月 14 日	文化祭初出展のための第 1 回実行委員会 出展会場・内容・パンフレット作製等について打合せをした。 出席者 7 人
平成 28 年 8 月 8 日	文化祭初出展のための第 2 回実行委員会 文化祭展示資料選定と見学のため研究所にて開催。 多重織ストール・頬纏・立体成型織スカート等を選定した。 出席者 8 人（総務本部よりオブザーバー2 人参加）
平成28年 10 月 18 日	文化祭初出展のための第 3 回実行委員会 文化祭搬入・展示・搬出等スケジュール、DVD 機材について等打合せ。 文化祭期間内に来場できない学生のため、11 月 11 日迄開催することを決定した。 出席者 7 人

開催年月日	運営委員会の開催記録
平成 29 年 3 月 7 日	文化・ファッションテキスタイル研究所　第 1 回運営委員会 平成 28 年度の事業概要について、来所者件数・研究所内外講演・学会誌への寄稿、共同研究による収入等の説明を行った。 平成 29 年度の事業計画の説明を行った。 出席者 9 人

■検討組織名：和装文化研究所

報告者：近藤　尚子

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	１.「和裁」をはじめとする授業の運営を継続・充実する。【共】 ２．平成 30 年度の新コースの設置に向けて、カリキュラムの完成を目指す。【大】 ３．和装に関するイベントを継続開催する。具体的には「ゆかたウィーク」「ゆかたで茶話会」「きもので茶話会」など。この他に研究会を開催したい。和装文化に関する講演会を実施する。【共】 ４．外部との連携を強化する。【共】 (1) きものサローネへの協力を継続。「学生きものデザインコンテスト」の規模を拡大する。 (2) きものブレインとの連携は 2 年目を迎える。次世代きものについて更に検討する。 (3) 文化庁の事業を継続する。
取組の結果と 点検・評価	１．(1) 大学の科目としては「和裁」「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」を運営した。また、コラボレーション科目として「きものコーディネイト入門 2016」「タイの学生と一緒にファッションを学ぼう 2016」を実施した。【共】 (2) AP オーストラリア研修を実施した。【大】 (3) 文化服装学院からきものの基礎知識と浴衣の着付け実習の講座依頼があり、３科に対して 22 コマの講習を行った。 ２．服装学部でのカリキュラム見直しにより、和装コースの設置はなくなったが、服装学部長と連携しながら和装関連科目の充実を図る。【大】 ３．平成 28 年 7 月 18 日～23 日「ゆかたウィーク」を開催した。学生の実行委員会を中心としたイベントであるが、研究所としては「イマジンワンワールド」の KIMONO の展示を行った。クイントサロンを会場として 7 月 18 日～23 日に開催し、200 人を超す来場者を得た。【共】 着付教室と茶話会は 7 月に 2 回、12 月に 1 回、2 月に 1 回を開催した。【共】 12 月 3 日に増井一平氏を講師として、きもの研究会懇話会を開催した。【共】 ４．外部との連携の強化【共】 (1) きものサローネへの協力は、スタッフとしての学生派遣が 3 年目、「学生きものデザインコンテスト」は 2 回目となった。 (2) きものブレインとの連携を継続し、第 2 回次世代きもの和音のデザインコンペを実施した。 (3) 文化庁アーカイブ関連事業の 2 年度目を推進した。
次年度への 課　　題 （平成 29 年度）	１.「和裁」「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」コラボレーション科目をはじめとする授業の運営を継続・充実する。【共】 ２．平成 30 年度を目途として和装関連科目の充実を図る。どのような形にするかを関係各所と相談しながら実現を目指したい。【大】 ３．ゆかたウィーク、着付教室と茶話会、研究会などのイベントを継続開催する。【共】 ４．外部との連携強化を図る。【共】 (1) きものサローネへの協力を継続。学生きものデザインコンテストを充実させる。 (2) 次世代きもの和音デザインコンペを継続する。 (3) 文化庁のアーカイブ事業を継続する。 ５．共同研究拠点の下部組織として、共同研究の推進を図る。このため、研究課題を公募する。また、研究所でもプロジェクト研究を進める。【共】

事　　務　　局

■検討組織名：研究協力室

報告者：中山　明彦

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	1．科研費等による研究振興 科学研究費助成事業の応募件数及び採択件数を増やすことにより、研究活動を振興する。また各省庁、財団等の研究助成金公募に注力し、外部資金導入による研究活動を振興する。 2．研究戦略検討会の報告書を踏まえた研究振興 研究戦略検討会の報告書を踏まえて、研究活動の振興を図る。 3．研究活動不正防止のための協力業務 研究活動不正防止のためのコンプライアンス教育等をサポートする。 4．学内研究活動に関わる協力業務 学内研究発表会､教員研究作品等の研究活動をサポートする。【共】
取組の結果と 点検・評価	1．科研費等による研究振興 平成 28 年度の科学研究費助成事業は、8 件の応募のうち 1 件の採択であった。平成 29 年度の科学研究費助成事業は、科研費の審査方法・研究計画調書についての説明会（7 月 27 日）、公募に関する周知・説明会の開催（9 月 20 日）・研究計画調書の精査等を行い、11 件の応募であった。また、各省庁、財団等の研究助成金の公募に関する周知を行い、外部資金の導入に努めた。 2．研究戦略検討会の報告書を踏まえた研究振興 研究戦略検討会の報告書では、本学の研究を促進する戦略的研究テーマとして、従来から学術研究の実績がある「服装の機能」「服装の材料」、本学の特色・強みである「服装造形デザイン・造形」「ファッション・ビジネス」に、多様な教員が参加し得る「ファッション等による QOL の向上」を提案した。それを踏まえて、私立大学研究ブランディング事業の申請にあたっては、そのためのプロジェクトチームを構成し、「生涯にわたる QOL 向上に資するファッション科学の構築」の事業テーマで申請した。（結果は不採択） また、従来は服装学部・造形学部・現代文化学部は個別に学内研究発表会が実施されていたが、研究戦略検討会の報告書では 3 学部合同での学内研究発表会を提案した。それを踏まえて、3 学部が同日に学内研究発表会を開催し（9 月 20 日）、学部間での研究成果の交流促進を図った。 3．研究活動不正防止のための協力業務 「文化学園大学・文化学園大学短期大学部研究活動の不正防止及び公正性を確保するための規程」に基づいて、コンプライアンス研修会（6 月 21 日）・研究倫理研修会（7 月 12 日）を開催し、それらへの事務サポートを行った。 4．学内研究活動に関わる協力業務 第 31 回教員研究作品展（平成 28 年 6 月 10 日～12 日）及び第 50 回学内研究発表会（服装学部・造形学部）、第 14 回学内研究発表会（現代文化学部）（平成 28 年 9 月 20 日開催）の協力業務を行った。【共】
次年度への 課　　題 （平成 29 年度）	1．科研費等による研究振興 科学研究費助成事業の応募件数及び採択件数を増やすことにより、研究活動を振興する。また、各省庁、財団等の研究助成金公募に注力し、外部資金導入による研究活動を振興する。 2．研究戦略検討会の報告書を踏まえた研究振興 研究戦略検討会の報告書を踏まえて、研究活動の振興を図る。 3．研究活動不正防止のための協力業務 研究活動不正防止のためのコンプライアンス教育等をサポートする。 4．学内研究活動に関わる協力業務 学内研究発表会、教員研究作品等の研究活動をサポートする。【共】

■検討組織名：研究協力室

開催年月日	会議等の開催記録
平成 28 年 6 月 8 日	第 1 回　私立大学研究ブランディング事業会議 １．私立大学研究ブランディング事業の申請に向けて
平成 28 年 6 月 22 日	第 2 回　私立大学研究ブランディング事業会議 １．私立大学研究ブランディング事業の素案
平成 28 年 7 月 6 日	第 3 回　私立大学研究ブランディング事業会議 １．私立大学研究ブランディング事業の各研究テーマの統合
平成 28 年 7 月 20 日	第 4 回　私立大学研究ブランディング事業会議 １．私立大学研究ブランディング事業申請書（案）について
平成 28 年 8 月 8 日	第 5 回　私立大学研究ブランディング事業会議 １．私立大学研究ブランディング事業申請書の精査

開催年月日	研修会・説明会等の開催記録
平成 28 年 6 月 21 日	コンプライアンス研修会 １．不正をした研究者への措置 ２．不正事例について（プール金、カラ出張等）
平成 28 年 7 月 12 日	研究倫理研修会 １．研究不正行為とは ２．海外から見た日本の研究者 ３．責任ある研究活動
平成 28 年 7 月 27 日	科学研究費助成事業説明会 １．科研費申請書の審査方法、研究課題・目的・計画等について
平成 28 年 9 月 20 日	科学研究費助成事業説明会 １．科研費申請の公募に関するポイント等

開催年月日	研究発表等の開催記録
平成 28 年 6 月 10 日 ～6 月 12 日	第 31 回　教員研究作品展 １．ファッション、工芸、絵画、彫刻、デザイン、建築等の教員の研究成果展示
平成 28 年 9 月 20 日	第 50 回　学内研究発表会、第 14 回学内研究発表会 １．服装学部・造形学部の学内研究発表会 ２．現代文化学部の学内研究発表会

■検討組織名：全学 SD 委員会

報告者：遠藤　啓

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	1．学生募集に関する専門知識の獲得・蓄積だけでなく、その共有化を図る。 2．引き続き、休学・退学事由を分析し、対策を講じる。 3．引き続き、教員の研究活動の振興、学生の支援体制の充実を図る。【共】
取組の結果と点検・評価	1．学生募集に関する専門知識の獲得・蓄積はかなり行われてきた。専門知識自体は入試広報課の職員以外には必要性が低いが、学生募集の理念の共有化は必要であり、理念の共有化は少しずつ進んできた。 2．転学部・転学科等の規制緩和などにより、退学を避ける事例はコンスタントに出ているが、休学・退学の数はあまり変化していない。平成 29 年度入学生より「自己の探求プログラム」を導入するが、その効果を検証するとともに、更なる対策を講じることが、次年度への課題である。 3．日本私立大学協会等の研修会に職員を派遣し、他大学等の状況などの情報を学生支援体制の充実を図るための材料としているが、保護者等からの様々なクレームが増加しており、対応が課題となっている。【共】
次年度への課題 （平成 29 年度）	1．学生募集に関する専門知識の獲得・蓄積とともに、理念の共有化を図る。 2．「自己の探求プログラム」の効果を検証するとともに、休学・退学の防止のため、更なる対策を講じる。 3．引き続き、教員の研究活動の振興、学生の支援体制の充実を図る。【共】

開催年月日	研修会の開催記録
平成 28 年 4 月 4 日	全学 FD・SD 研修会の実施 午前中は全教職員を対象に、外部講師による「あなたの知らない GROW の世界」と題した講演会を開催した。 午後の分科会では、教員・事務職員混成グループになり「午前の講演をうけ、どのように自分の授業に生かすか、活かしていけそうか、またその具体的な目標設定や、アイデア等について」の話し合いをし、情報交換と共有を行った。
平成 28 年 8 月	事務局 SD 研修会の実施 各課においてテーマを決め、必要な知識等を習得するための研修会を行った。 教務課：「教学マネジメントに関わる専門的職員の育成」 学事課：「大学の運営費－補助金とは－」 学生課：「新入生の大学生活への早期適応の支援について」「障害学生支援について」 入試広報課：「アサーティブプログラム・アサーティブ入試」について 就職相談室：「学生の厚生補導、就職支援について」
平成 28 年 9 月 6 日	全学 FD・SD 研修会　秋の分科会の実施 4 月の分科会と同じ教員・事務職員の混成グループで行い、テーマを「教職員の学生指導能力向上に関するテーマ」とし、「教職員のコーチング能力とは？」学生のモチベーションをたかめるために」「学生とより良いコミュニケーションをとるために」「教員と職員の円滑な連携とは？」から討議を行った。
平成29年 3 月 23 日	事務局 SD 研修会の実施 文化学園の学生数の推移と学校会計の問題、専門職大学の問題、ラーニング・ポートフォリオと質保証の問題に関するレクチャーの後、小人数で討議し、その結果を発表し合った。

学　園　本　部

■検討組織名：学園本部総務部

報告者：佐藤　申

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	前年度に引き続き、給与制度の検討を行なう。 １．給与制度の変更（教員評価制度の構築含む） ２．諸手当の在り方の検討 ３．定年延長に伴う給与制度の在り方の検討　【共】
取組の結果と点検・評価	１．給与制度の変更(教員評価制度の構築含む) 平成 26 年より給与制度検討委員会を設置し新しい給与制度の在り方について検討してきた。その検討の中では、成果をあげた者や努力した者に厚く配分するメリハリのある給与制度の必要性が提起され検討してきた。制度設計するに当たっては、個人の評価をどのように行うかが課題となった。事務職員においては「職能資格制度」や「人事考課規則」があるが、教員には明確な評価制度がなく先ずは評価制度の構築が必要となったが、これまでの本学の経営方針や学園教職員の意識の中では現時点において教員の評価制度の構築が困難であり、引き続き検討していくこととなった。 ２．諸手当のあり方の検討 扶養家族手当については一部の規程や運用において不備があったため、改正案を作成し運営会議の承認を得ている。今後は平成 29 年度の施行に向けて労働組合との調整を図る。 ３．定年延長に伴う給与制度のあり方の検討 将来の 65 歳雇用を想定し継続的に審議していく。　【共】
次年度への課題 （平成 29 年度）	１．給与制度の検討（教員評価制度、定年延長に伴う制度改革）（継続） ２．受動喫煙防止策の検討（平成 32 年に向け受動喫煙ゼロを目指した取組）（新規）　【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 28 年 9 月 20 日	扶養家族手当、その他規程の改定について進め方等を協議した。 その他、給与制度検討委員会の在り方等について協議した。
平成28年 10 月 22 日	扶養家族手当改定案の作成
平成28年 11 月 22 日	扶養家族手当改定案の作成
平成 28 年12月 20 日	扶養家族手当改定案の作成
平成 29 年 1 月 16 日	学園運営会議にて扶養家族手当改定案を審議、一部修正することとなった。
平成 29 年 2 月 16 日	学園運営会議にて扶養家族手当改定案を承認

■検討組織名：学園本部施設部

報告者：友利　光夫

提出日：平成 29 年 3 月 31 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	１．平成 28 年度に引き続き、各建物の利用計画に基づいた教育環境の整備を行う。 ２．老朽化した電力監視装置及び監視カメラ装置の更新を行い、電力の安全供給と学生生活の安全を強化する。 ３．新都心キャンパスの外壁調査結果に基づき計画的な改修工事を行い、学生生活の安全と建物の健全性を確保する。 ４．国際学生会館の統一管理標準と入寮募集活動の強化に努める。 ５．耐用年数に応じた冷暖房熱源設備の調査検討を行い、平成 29 年度以降の中長期計画を作成し予算化する。 ６．水銀含有製品（蛍光灯等）に対する輸入・製造・輸出禁止問題の情報収集に努める。 ７．産業廃棄物の削減と再資源化の広報活動を継続的に推進する。【共】
取組の結果と 点検･評価	１．(1)硝子面の多い南側教室について輻射熱対策を行い、教育環境の整備を行った。 (2)AC 館の天井面及び蛍光灯のクリーニングを行い、教育環境の整備を行った。 (3)耐震性能の低いＨ館の無人化を実施して学生生活の安全を確保し､解体準備を行った。 ２．キャンパス全体の電力監視装置の更新を行い、電力の安定供給と学生生活の安全を強化し、監視カメラのデジタル化による学生生活の安全を強化した。 ３．F 館及び J 館の外壁診断に基づき外壁補修を行い学生生活の安全と建物の健全性を確保した。 ４．(1)小平国際学生会館の平成 29 年度より男子学生受入れの準備として、男子専用の洗濯施設を確保し広報活動を行った。 (2)月例寮長会議により、統一管理の標準化と入寮募集活動の強化に努めた。 ５．空調監視システム更新 5 年計画のステップ 3 を終了し、F 館以降の熱源計画により、予算化した。 ６．引き続き水銀含有製品（蛍光灯等）に対する輸入・製造・輸出禁止問題の情報収集に努め、将来の LED 化計画を検討した。 ７．(1)引き続き小平キャンパスの移転後の余剰什器備品の再利用の広報を行い、新規購入を抑えて再利用化運動に努めた。 (2)産業廃棄物の再利用と再資源化を継続的に推進し、渋谷区条例による可燃ごみの再利用率を 80%に設定し、分別ごみ箱購入について予算化した。 (3)産業廃棄物（ゴミ・コピー用紙等）の再資源化を継続的に推進した。【共】
次年度への 課　　題 （平成 29 年度）	１．平成 28 年度に引き続き、各建物の利用計画に基づいた教育環境の整備を行う。 ２．防災監視盤の老朽化と部品供給停止に伴う更新計画を行い、学生生活の安全を確保する。 ３．非構造部材耐震調査結果による中長期改修計画的を行い学生生活の安全を確保する。 ４．引き続き耐用年数に応じた冷暖房熱源設備の中長期計画を予算化し、実施する。 ５．引き続き国際学生会館の統一管理標準と入寮募集活動の強化に努める。 ６．空調監視システム更新 5 年計画のステップ 4 を実施し、安定的な教育環境の整備を行う。 ７．引き続き水銀含有製品に対する輸入・製造・輸出禁止問題の情報収集に努める。 ８．老朽化した D 館エレベータのリニューアル工事を行い、学生生活の安全を確保する。 ９．施設開発部との連携により H 館解体作業について、キャンパス全体及び近隣の安全対策を構築する。 10．産業廃棄物の削減と再資源化の広報活動を継続的に推進する。【共】

■検討組織名：学園本部経理部

報告者：小池　雅己

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	１．100 周年事業への資金計画を策定し、引当資産の積み立てを行う。【共】 ２．「文化学園財務・経理規程」及びそれに付随する細則等の見直しを継続的に行う。【共】
取組の結果と点検・評価	１．100 周年事業への資金計画を策定し、引当資産の積み立てを行う。【共】 100 周年事業建設引当資産の所用見込額の変更を行い、本年度は積み立てを行わなかった。 ２．「文化学園財務・経理規程」及びそれに付随する細則等の見直しを継続的に行う。【共】 「文化学園財務・経理規程」及びそれに付随する細則等について検討を重ねている。
次年度への課　　題 （平成 29 年度）	１．「文化学園財務・経理規程」の改正を行う。【共】 ２．学園の「資金収支中長期財務計画」を策定するとともに、変化する経営環境に的確に対応してゆく。【共】

■検討組織名：IT 委員会（IT 戦略室）

報告者：淵上　和子

提出日：平成 29 年 4 月 1 日

本年度の課題 （平成 28 年度）	１．各システム稼働開始に伴い、システム説明及びファイルアクセス権限等のセキュリティ管理に努めると共に、学生、教員、事務局のサービス向上に努める。 ２．Web 履修等のスタートに伴い、情報セキュリティの強化と利用者への教育に努める。 ３．共有部分への無線サービスが整い、平成28年度からは教室への拡張を計画的に進めて行く。 ４．引き続き、ICT を利用した授業支援の提案に努める。【共】
取組の結果と点検・評価	１．パッケージの各 Web システムの稼働に伴い、ユーザー権限をより厳密に管理するための共通のユーザー情報管理カスタマイズを実装し、権限管理の強化と利便性向上をはかった。 ２．認証装置を設置し、認証許可された PC のみネットワークに接続できる仕組みを構築し、教職員全員のログイン ID とパスワードを変更し、セキュリティの強化に努めた。 また、セキュリティソフト製品の入れ替えを行った。 ３．平成 28 年 8 月より、A 館 12 階から 19 階までの各教室に無線 LAN サービスを開始し、授業支援に努めた。 ４．ネットワークの高速化を踏まえて、A 館 11 階パソコン教室全ての床下の電源と LAN ケーブルを一新し、現在利用している授業支援ツールの入れ替えを行い、スムーズなパソコン教室の環境作りに着手した。【共】
次年度への課題 （平成 29 年度）	１．教職カルテシステムを完成させる。 ２．次期証明書発行・学生証発行システムの選定・検討をはじめる。 ３．平成 29 年 8 月に、A 館 11 階から地下までの各教室に無線 LAN サービスを開始予定 ４．引き続き、ICT を利用した授業支援の提案に努める。【共】

開催年月日		会議等の開催記録
平成 28 年 4 月 14 日 平成 28 年 5 月 26 日 平成 28 年 7 月 20 日 平成 28 年 9 月 27 日	平成 28 年 5 月 17 日 平成 28 年 7 月　7 日 平成 28 年 9 月　2 日 平成28年 11 月 29 日	学籍教務システム「Campus Plan」打合せ (Web 履修、Web シラバス、Web 学生カルテ、Web 成績登録を含む)
平成 28 年 4 月 27 日 平成 28 年 5 月 17 日 平成 28 年 8 月 23 日 平成 29 年 1 月 13 日 平成 29 年 1 月 30 日	平成 28 年 5 月 10 日 平成 28 年 7 月　6 日 平成28年 11 月 22 日 平成 29 年 1 月 19 日 平成 29 年 2 月 15 日	過去成績証明書電子化検討
平成 29 年 5 月 10 日 平成 28 年 6 月 10 日	平成 28 年 5 月 17 日 平成 28 年 7 月 13 日	「Campus Plan」、証明書発行機連携　打合せ
平成 28 年12月 16 日 平成 29 年 2 月　8 日	平成 29 年 1 月 26 日 平成 29 年 2 月 24 日	「Campus Plan」ユーザー管理　打合せ
平成 28 年 9 月 7 日		大学 IT 小委員会「無線LAN計画と今後のパソコン教室のあり方」
平成 29 年 2 月 6 日		大学 IT 小委員会

附：　委員会委員一覧表
学部・学科・コース編成
入学定員・収容定員・在籍学生数
全学自己点検・評価委員会委員名簿

平成 28 年度　文化学園大学委員会委員一覧表

平成 28 年 7 月 1 日

［常置委員会］

◎委員長　○副委員長　△書記　（敬称略・順不同）

		教　務	学生支援	研　究	入試対策	就　職
1	服装造形学 生産工学 和裁	◎千葉　悦子	△曽我　陽子	田島　成二	砂長谷由香	○伊藤由美子
2	短大部服装学科/ ﾌｧｯｼｮﾝ学科	木全　秀美	小出　恵	後藤　望	野沢さおり	佐藤　綾
3	服装デザイン学、服飾工芸 ファッション画 テキスタイル、 機能デザイン学 服飾文化共同	柚本　玲	須田　理恵	横田香野子	小林　未佳	中西　教夫
4	服装社会学、服装史学 服飾文化共同 和装文化研究所	△田中　里尚	申　恩泳	○糸林　誉史	○福田　博美	北方　晴子
5	染織、金工 ｸﾞﾗﾌｨｯｸ・ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄ ﾒﾃﾞｨｱ・映像 絵画、基礎造形 造形・色彩学	北浦　肇	○白井　信	嘉松　聡	春田　幸彦	庄司喜久美
6	建築デザイン 住生活デザイン インテリアデザイン	安野　彰	横山　稔	△渡邉　裕子	久木　章江	井上　搖子
7	総合教養・国際文化観光 A 外国語・国際文化観光 B 日本語・国際文化観光 C 教育学・体育学、調理学、 博物館学 和装文化研究所	岡島　奈音	小山　真理	梶谷　哲也	安藤　葉子	R. ﾋｯｸﾘﾝｸﾞ
8	総合教養・国際文化観光 A 外国語・国際文化観光 B 日本語・国際文化観光 C 教育学・体育学	小川　祐一	栗山　丈弘	中沢　志保	△星　圭子	三島　万里
9	国際ファッション 応用健康心理学	○梶田　貴子	根本　賀奈子	◎安永　明智	◎佐藤　浩信	柴田　早苗
10	教務部 学生部 就職相談室	二茅みゆき	宮本　朱		酒井　城司	△吉田　和代
学長指名		杉田秀二郎(前期) 松原　詩緒(後期)	◎佐藤百合子 酒井　城司	高野　博子 中山　明彦	高橋　正樹 清水　美里 遠藤　啓 相澤　浩子	矢中　睦美 ◎丸茂みゆき

［特別委員会］

全学自己点検・評価	全学ＦＤ
◎渡邉　秀俊 ○瀬島健二郎 伊藤由美子 △押山　元子 下山かおり 永野　順子 藤江　大輔 磯﨑　明美 沼尻　七子 北浦　肇 杉田秀二郎 遠藤　啓 円谷　葉子 二茅みゆき 高野　博子 藤澤　千晶	◎星野　茂樹 ○ｽﾜｯﾄ ﾁｬﾛﾝﾆﾎﾟﾝﾜｰﾆｯﾁ △村上　剛規 白井菜穂子 金川　孝義 長山　洋子 渡部　旬子 遠藤　典子 北岡　竜行 遠藤　啓 円谷　葉子 酒井　城司 吉田　和代

研究倫理	研究公正	研究活動不正防止	ハラスメント防止
◎濱田　勝宏 ○野口　京子 永富　彰子 堀尾眞紀子 青柳　宏 米山　雄二 渡邉　秀俊 永井　伸夫 本間　博 佐藤真理子 遠藤　啓 △円谷　葉子 中山　明彦	◎濱田　勝宏 遠藤　啓 永富　彰子 堀尾眞紀子 青柳　宏 野口　京子 浅沼　由紀 近藤　尚子 永井　伸夫 原島　陽一 田村　照子 円谷　葉子 中山　明彦	◎濱田　勝宏 ○野口　京子 永富　彰子 堀尾眞紀子 青柳　宏 米山　雄二 小柴　朋子 近藤　尚子 渡邉　秀俊 遠藤　啓 小林　哲夫 小池　雅己 友利　光夫 △円谷　葉子 中山　明彦	◎永野　順子 ○三島　万里 △千葉　悦子 安高　信一 鹿島　和枝 円谷　葉子 酒井　城司 吉田　和代 相談員 平良木啓子 北浦　肇 七里　真代 星　圭子 柴田　早苗 小出　恵 宮本　朱

［学部専門委員会］

衣料管理士課程	建築・ｲﾝﾃﾘｱ系資格	文化・語学研修	日本語教員養成課程	紀要編集
◎永井　伸夫 ○矢中　睦美 △由利　素子 　須田　理恵 　小林　未佳 　角田　薫	◎谷口久美子 ○浅沼　由紀 △曽根　里子 　渡邉　秀俊 　横山　稔	◎加藤　薫 ○佐藤　浩信 △米田　紀子 　高橋　哲夫 　久保田　文 　安永　明智	◎齊藤眞理子 ○加藤　薫 △星　圭子 　白井菜穂子	◎高村　是州 ○中沢　志保 △曽根　里子 △吉田　昭子 　瀬島健二郎 　古屋　則子 　鳥海　薫 　佐藤真理子 　根本賀奈子 　井口　彰子 　田中　直人 　松原　詩緒

［課程専門委員会］

教職課程	学芸員課程	司書課程
◎福井　路可 ○森谷　直樹 △五十嵐清子 　永野　順子 　鳥海　薫 　中島　敬子	◎佐藤　正明 △田中　直人 　植木　淑子 　岡島　奈音	◎瀬島健二郎 △吉田　昭子

図書館	国際交流	ＩＴ委員会大学小
大関　徹 長沢　幸子 福田　博美 丸茂みゆき 小山　真理 深沢　祥代 二茅みゆき	◎濱田　勝宏 　永富　彰子 　堀尾眞紀子 ○青柳　宏 　石田名都子 　三國　純子 　古屋　則子 　遠藤　啓 　柿島　由雄 　円谷　葉子 △二茅みゆき	◎ｽﾜｯﾄ 　ﾁｬﾛﾝﾆﾎﾟﾝﾜｰﾆｯﾁ ○渡邉　秀俊 △野沢さおり 　濱田　勝宏 　柳田　佳子 　白井　信 　村上　剛規 　岡林　誠士 　円谷　葉子 　山川あづさ

学部・学科・コース編成　（平成 28 年度）

文化学園大学大学院

生活環境学研究科	被服環境学専攻（博士後期課程）	
	被服学専攻（博士前期課程）	アドバンストファッションデザイン専修 テキスタイルデザイン学専修 服装機能学専修 服装社会学専修 ファッションビジネス専修 ファッション文化専修 グローバルファッション専修
	生活環境学専攻（修士課程）	生活造形学専修 建築・インテリア学専修
国際文化研究科	国際文化専攻（修士課程）	国際文化専修 国際ﾌｧｯｼｮﾝ文化専修 健康心理学専修

文化学園大学

服装学部	ﾌｧｯｼｮﾝｸﾘｴｲｼｮﾝ学科	
	服装造形学科	クリエイティブデザインコース 機能デザインコース アドバンストテクニックコース インダストリアルテクニックコース ブランド企画コース テキスタイル企画コース
	ファッション社会学科	
	服装社会学科	服装社会学コース ファッションビジネスコース 服飾文化史コース グローバルファッションマネジメントコース
造形学部	デザイン・造形学科	映像クリエイションコース グラフィック・プロダクトデザインコース メディア編集デザインコース テキスタイルワークコース ジュエリー・メタルワークコース アートワークコース
	生活造形学科	映像クリエイションコース グラフィック・プロダクトデザインコース メディア編集デザインコース テキスタイルワークコース ジュエリー・メタルワークコース アートワークコース
	建築・インテリア学科	２・３年次　インテリアデザインコース 建築デザインコース 住生活デザインコース ４年次　インテリアデザインコース インテリアファブリックデザインコース 建築デザインコース 住生活デザインコース
現代文化学部	国際文化・観光学科	４年次　国際観光コース 国際文化コース
	国際ﾌｧｯｼｮﾝ文化学科	スタイリスト・コーディネーターコース プロデューサー・ジャーナリストコース 映画・舞台衣装デザイナーコース
	応用健康心理学科	

文化学園大学短期大学部

ファッション学科	ファッションビジネスコース ファッションクリエイティブコース ファッションプロモーションコース
服装学科	ファッションビジネスコース ファッションクリエイティブコース ファッションプロモーションコース
専攻科	ファッション専攻

入学定員・収容定員・在籍学生数　（平成 28 年 5 月 1 日現在）

文化学園大学大学院

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員	現員
生活環境学	被服環境学(博士後期)	2	6	7
	被服学（博士前期）	20	40	29
	生活環境学（修士）	6	12	10
国際文化	国際文化（修士）	6	12	6

文化学園大学

学部名	学科名	入学定員	収容定員	現員
服装	ﾌｧｯｼｮﾝｸﾘｴｲｼｮﾝ※１	360	360	240
	服装造形 ※１	360	1120	792
	ファッション社会※２	140	140	127
	服装社会 ※２	140	440	476
造形	デザイン・造形※３	140	430	260
	生活造形 ※３	140	150	104
	建築・インテリア	120	520	313
現代文化	国際文化・観光	30	150	92
	国際ファッション文化	100	430	420
	応用健康心理	30	140	40

※１　服装造形学科は、平成 28 年 4 月よりファッションクリエイション学科に名称変更
※２　服装社会学科は、平成 28 年 4 月よりファッション社会学科に名称変更
※３　生活造形学科は、平成 26 年 4 月よりデザイン・造形学科に名称変更

文化学園大学短期大学部

学科名	専攻名	入学定員	収容定員	現員
ﾌｧｯｼｮﾝ ※４	―	120	120	56
服装 ※４	―	120	120	63
専攻科	ファッション	20	20	9

※４　服装学科は、平成 28 年 4 月よりファッション学科に名称変更

全学自己点検・評価委員会　委員名簿　（平成 28 年 5 月 1 日現在）

委　員　長	渡邉　秀俊
副委員長	瀬島　健二郎
書　　記	押山　元子
	伊藤　由美子
	永野　順子
	藤江　大輔
	磯﨑　明美
	沼尻　七子
	北浦　肇
	杉田　秀二郎
	下山　かおり
	遠藤　　啓
	円谷　葉子
	二茅　みゆき
	高野　博子
	藤澤　千晶

文　化　学　園　大　学
文化学園大学短期大学部
自己点検・評価報告書 －平成 28 年度－

平成 29 年 6 月 1 日発行
編集：文化学園大学　文化学園大学短期大学部
全学自己点検・評価委員会